

# 次期士別市総合計画市民アンケート調査

## 結果報告書

(確定版)

士 別 市

(次期総合計画策定本部)



## 目 次

<b>1 調査の概要</b> .....	1
1-1. 調査の目的.....	1
1-2. 調査方法 .....	2
1-3. 調査時期と回収状況.....	2
1-4. 回収率 .....	4
1-5. サンプルの特性.....	5
<b>2 集計結果</b> .....	12
2-1. まちのイメージ.....	12
2-2. まちの資源.....	16
2-3. 市民生活やまちづくりに関する満足度.....	31
2-4. 市民サービスの水準と負担.....	69
2-5. 実践したい地域活動・社会活動.....	71
2-6. 郷土への愛着や定住意思.....	74
2-7. 土別市の将来像.....	84
2-8. 土別市の地域力.....	86
2-9. 自由にお書きください。.....	87
<b>3 集計結果のまとめ</b> .....	89



# 1 調査の概要

## 1-1. 調査の目的

市の総合計画策定にあたって、市民の意識や意向を調査・把握し、問題点や課題の整理と重点施策の検討に反映させるとともに、10年前に実施した市民アンケートと同じ質問項目にすることによって10年経過して市民の意識がどう変化したのかを検討するため、市民を対象としたアンケート調査を実施する。

調査項目、解析手法等については、【図表-1】のとおりである。

【図表-1】 調査項目とその解析手法及び作成する指標の一覧

設問	調査の目的	解析手法	作成する指標
問1 まちのイメージ	I：まちのイメージの市民意識の把握（1）		
	①多様なイメージの認知度	①加重平均	イメージ指標
問2 まちの地域資源	I：まちのイメージの市民意識の把握（2）		
	①多様な地域資源の認知度	①認知者数	
	②多様な地域資源の評価度	②加重平均	
	③認知度合いの地域格差	③差の絶対値	資源認知指標
	④属性別の地域資源認知度	④加重平均	資源評価指標
問3 市民生活とまちづくりに関する満足度調査	II：総合計画の重点施策に資する市民意識の把握（1）		
	①各施策領域ごとの満足度評価	①加重平均	
	②各施策に対する期待度（最適化指標①）	②重回帰分析	施策重点化指標
	③バスの利用促進に向けた重点課題の発見	③重回帰分析	施策重点化指標
	④地域別の重点施策の位置づけ（最適化指標②）	④重回帰分析	地域別施策指標
	⑤世代別の重点施策の位置づけ（最適化指標③）	⑤重回帰分析	世代別施策指標
※総合計画の重点施策の根拠となる市民意識の重み付けを示す（施策領域）			
問4 市民サービスの水準	II：総合計画の重点施策に資する市民意識の把握（2）		
	①市民サービス水準と市民負担の最適化	①加重平均	受益負担指標
※市民と行政の協働の根拠となる市民負担の合意可能な方向性を示す			
問5 地域活動への参加意欲	II：総合計画の重点施策に資する市民意識の把握（3）		
	①市民参加・協働の推進可能な領域の最適化	①加重平均	参加意欲指標
※市民参加や協働の推進に市民合意が得やすい課題領域を示す			
問6 郷土への愛着	III：郷土への一体感形成に向けた市民意識の把握（1）		
	①全市&地域別の一体感醸成に向けた最適化	①加重平均	愛着度指標
※属性別の郷土愛の実態把握を行い、主たる施策実施対象の課題を探る			
問7 定住意識	III：まちの一体感形成に向けた市民意識の把握（2）		
	①全市&地域別の定住意識高揚に向けた最適化	①加重平均	定住志向指標
※属性別の定住意向の実態把握を行い、主たる施策実施対象の課題を探る			
問8 地域力に対する考え方	III：まちの一体感形成に向けた市民意識の把握（3）		
	①全市&地域別の地域力推進に向けた最適化	①加重平均	推進志向指標
※属性別の地域力推進意向の実態把握を行い、主たる施策実施対象の課題を探る			

## 1-2. 調査方法

### (1) 調査対象

市内全域の満18歳以上の市民から抽出した2,000人（平成28年12月31日現在の住民基本台帳を基本に、層化無作為抽出）

【図表-2】 サンプルング

(平成18年度)		20歳以上人口	抽出数	(平成28年度)		18歳以上人口	抽出数
1	中央（市街地）	13,921	1,404	1	中央（市街地）	12,679	1,475
中央（農村部）		1,743	176	中央（農村部）		1,455	169
2	南士別	150	15	2	南士別	126	15
3	西士別	169	17	3	西士別	138	16
4	北町	124	13	4	北町	240	28
5	下士別	334	34	5	下士別	248	29
6	武徳	343	35	6	武徳	268	31
7	川西	133	13	7	川西	95	11
8	中士別	490	49	8	中士別	340	39
9	上士別	1,010	102	9	上士別	731	85
10	多寄	1,116	113	10	多寄	841	98
11	温根別	439	44	11	温根別	267	31
12	朝日	1,599	161	12	朝日	1,222	142
全市		19,828	2,000	全市		17,195	2,000

### (2) 抽出方法

- 1) 各地区ごとに、サンプルを、①地区 ②性別 ③年齢 の順でソートして並べる。
- 2) 上記（【図表-2】）の地区区分ごとに、母集団比の標本抽出を行う。

### (3) 調査票の配布と回収方法

個人宛に郵便で配布し、郵便で回収（回答は無記名）

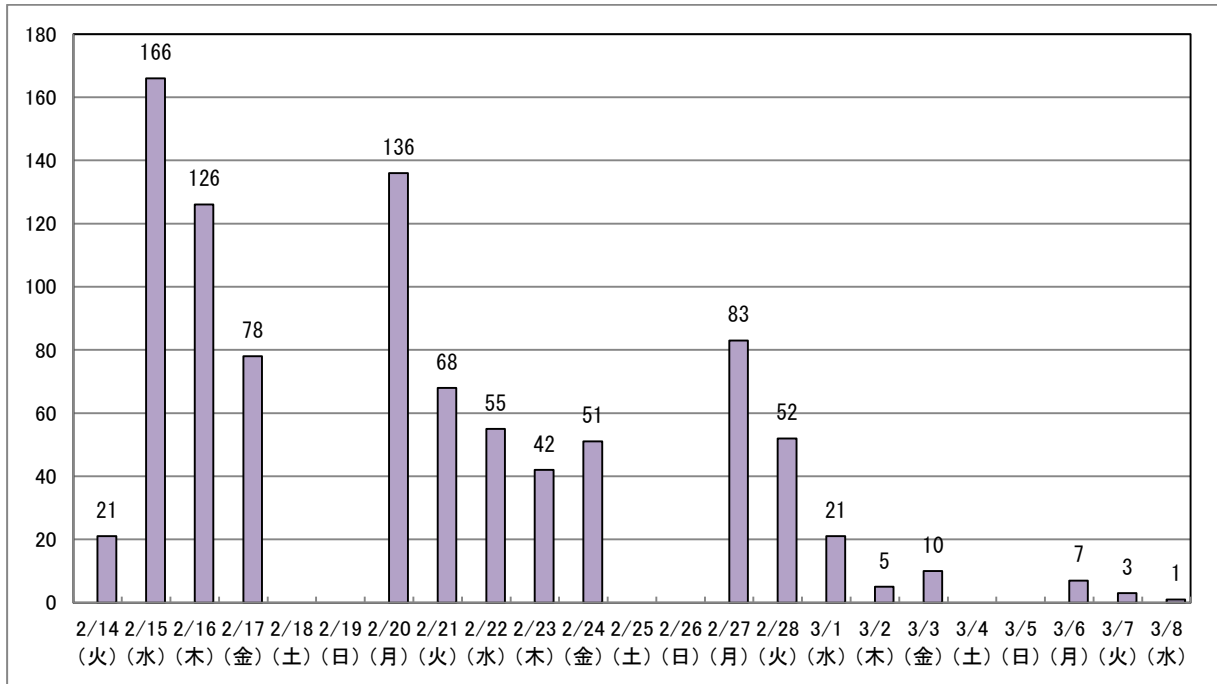
### (4) 周知方法

市広報、市ホームページ、新聞各紙記事、防災無線通信（農林業の農家世帯）、市Facebook

## 1-3. 調査時期と回収状況

- (1) 発送日：2017年2月10日（金）
- (2) 締切日：2017年2月27日（月）
- (3) 回収の推移：【図表-3】のとおり

【図表－ 3】 回収数の推移



## 1-4. 回収率

最終回収数：925 件

回収率：46.3%

なお、地区別の回収状況と最終的な回収率は次表のとおり。

【図表-4】地区別の回収の推移

	1. 中央	2. 南士別	3. 西士別	4. 北町	5. 下士別	6. 武徳	7. 川西	8. 中士別	9. 上士別	10. 多寄	11. 温根別	12. 朝日	NA	計
2/14	12	1					1	1	1	2	1	2		21
2/15	104	6	1	5	3	3	1	3	6	10	2	18	4	166
2/16	80	4	4		2	2	2	4	4	7	2	11	4	126
2/17	64					1	1		5	1	4	1	1	78
2/18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2/19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2/20	92	7	2	4	2	3	1	1	6	9	1	6	2	136
2/21	42	2		3	2	2			4	2	1	5	5	68
2/22	38							1	4	4	1	5	2	55
2/23	27		1	2	2	1		1	2	1	1	3	1	42
2/24	30	1	1	3		1		1	3	4	1	5	1	51
2/25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2/26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2/27	57	3				1	1	2	4	7	2	4	2	83
2/28	41			3	1				2		1	3	1	52
3/1	17	1						1				1	1	21
3/2	3	1							1					5
3/3	9			1										10
3/4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
3/5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
3/6	5				2									7
3/7	1								1				1	3
3/8	1													1
計	623	26	9	21	14	14	7	15	43	47	17	64	25	925
配布数	1475	15	16	28	29	31	11	39	85	98	31	142		2,000
回収率	42.2%	173.3%	56.3%	75.0%	48.3%	45.2%	63.6%	38.5%	50.6%	48.0%	54.8%	45.1%		46.3%

※南士別は居住地区の誤回答により配布数より回答数が多い集計結果となっていることが想定される。

回収率は郵送による発送・回収としては、高いレベルにあると見てよい。

また、回収数は 925 で地域的なばらつきやサンプルの属性構成にやや偏りはある（「1-5. サンプルの特性」参照）ものの、その分を見越しても 95%の有意性（サンプルが市民全体の意向を反映していると想定できる割合）を確保する水準（>n=376）※に達している。

※アンケートの有意性：母集団を推計するために必要なサンプル数は、次の式で算出される。

ただし、

n = 標本数

N = 母数（18歳以上人口 17,195人に設定）

ε = 絶対制度（5%に設定）

k = 信頼度係数（1.96に設定←信頼度95%として）

P = 母集団の属性割合（0.5に設定）

$$n = \frac{N}{\left(\frac{\varepsilon}{k(\alpha)}\right)^2 \times \frac{N-1}{P(1-P)} + 1}$$



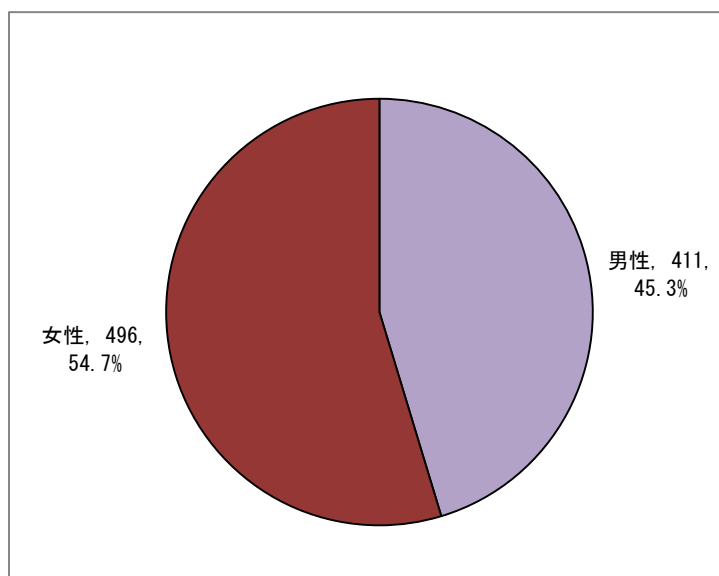
## 1-5. サンプルの特性

### (1) 性別

サンプルは、士別市民全体（母集団）と比べて男性が少なく、女性の意向が若干多めに反映されているものと想定される。

この傾向は前回調査と同様であるが、士別市民全体の割合との差は前回より小さくなっている。

【図表- 5】回答者の性別



【図表- 6(1)】サンプル集団と市民全体の比較（無回答は除く）

Q10. 9-1 性別の割合	男性	女性
アンケート調査のサンプル集団	45.3%	54.7%
士別市民全体(H27年度国勢調査)	47.1%	52.9%
割合の差(母集団比率との比較)	-1.8p	1.8p

【図表-6(2)】サンプル集団と市民全体の比較（無回答は除く）（前回調査）

Q8.1:性別の割合(前回調査)	男性	女性
アンケート調査のサンプル集団	43.3%	56.7%
士別市民全体(H17年度国勢調査)	46.9%	53.1%
割合の差(母集団比率との比較)	-3.6p	3.6p

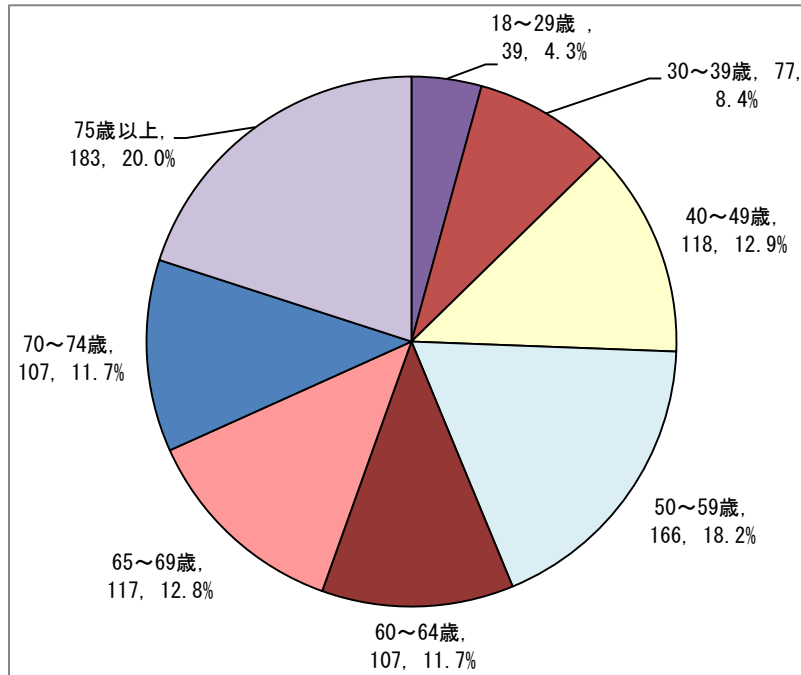
## (2) 年齢

サンプルは、士別市民全体（母集団）と比べて、20 歳代の若年層と 75 歳以上の後期高齢者が少なく、この年代の意向が少なめに反映されているものと思われる。

反対に、50 歳代と 70 歳代前半が多く、この年代の意向が多めに反映されているものと想定される（差の小さな値は誤差と想定）。

この傾向は前回調査と同様である。

【図表－ 7】 回答者の年齢



【図表－ 8(1)】 サンプル集団と市民全体の比較（無回答は除く）

Q10. 9-2 年齢の割合	18-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74	75～
アンケート調査のサンプル集団	4.3%	8.4%	12.9%	18.2%	11.7%	12.8%	11.7%	20.0%
士別市民全体(H27 年度国勢調査)	7.9%	10.8%	13.8%	15.1%	9.3%	10.3%	8.8%	23.9%
割合の差(母集団比率との比較)	-3.7p	-2.4p	-0.9p	3.1p	2.4p	2.5p	2.9p	-3.9p

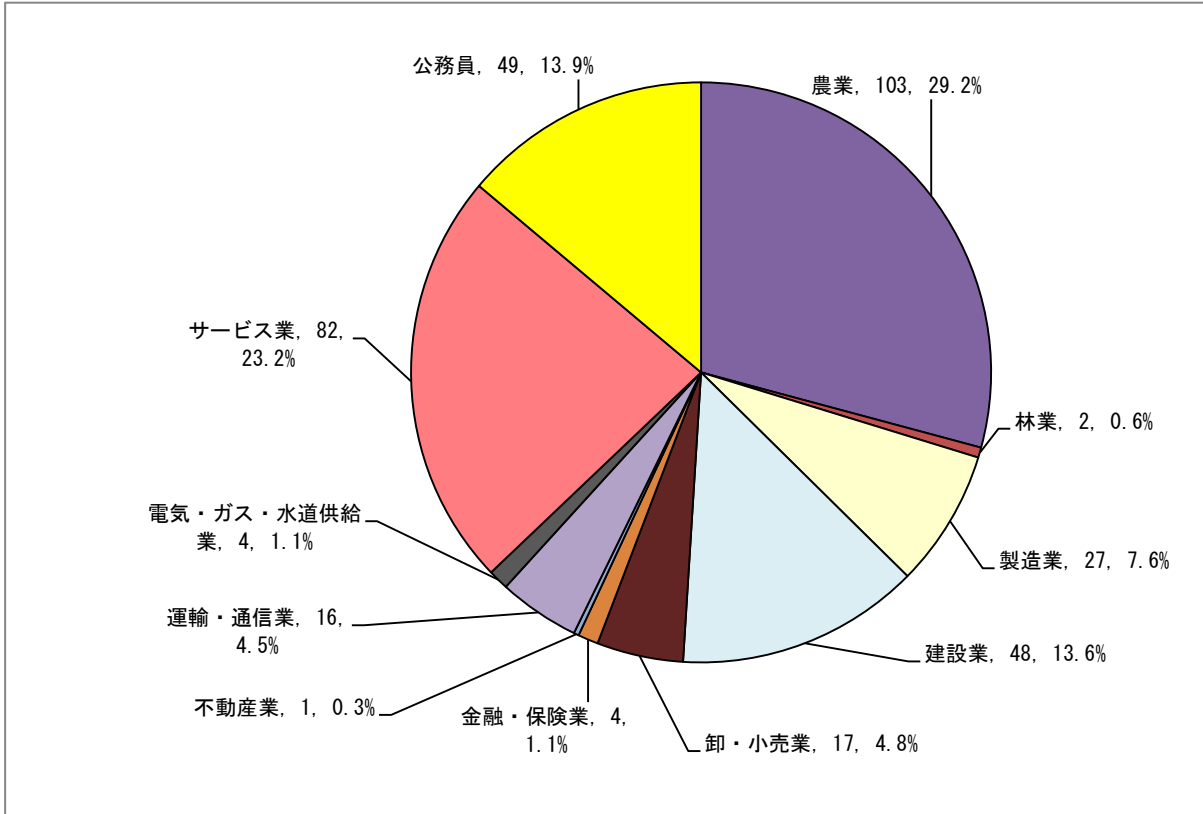
【図表－8(2)】 サンプル集団と市民全体の比較（無回答は除く）（前回調査）

Q8.2: 年齢の割合(前回調査)	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74	75～
アンケート調査のサンプル集団	6.4%	13.1%	13.9%	23.7%	10.3%	11.0%	12.4%	9.2%
士別市民全体(H12 年度国勢調査)	11.6%	12.5%	16.3%	19.7%	9.4%	9.2%	8.1%	13.1%
割合の差(母集団比率との比較)	-5.2p	0.6p	-2.3p	4.0p	0.9p	1.7p	4.4p	-3.9p

### (3) 職種

国勢調査の産業大分類別とは分類の仕方が多少異なるが、大筋で比較する（図表—12）と、「サービス」、「卸・小売業」等の比率は、母集団（士別市民全体）の構成比よりかなり少なく、反面「農業」、「公務員」などの比率は母集団の構成比よりかなり多い。また、「無職」の比率が非常に多い。

【図表— 9】 回答者の職種



【図表— 10(1)】 サンプル集団と市民全体の比較（その他、無職、団体職員、無回答は除く）

Q10. 9-4 職種の割合	農業	林業	製造業	建設業	卸・小売業	金融・保険業	不動産業	運輸・通信業	電気・ガス・水道業	サービス業	公務員
アンケート調査のサンプル集団	29.2%	0.6%	7.6%	13.6%	4.8%	1.1%	0.3%	4.5%	1.1%	23.2%	13.9%
士別市民全体(H22年度国勢調査)	19.1%	0.7%	6.9%	10.4%	14.5%	1.6%	0.7%	5.2%	0.4%	35.9%	4.7%
割合の差(母集団比率との比較)	10.1p	-0.2p	0.8p	3.2p	-9.7p	-0.5p	-0.4p	-0.6p	0.7p	-12.p	9.2p

【図表— 12(2)】 サンプル集団と市民全体の比較（無回答は除く）（前回調査）

職種の割合(前回調査)	農業	林業	製造業	建設業	卸・小売業	金融・保険業	不動産業	運輸・通信業	電気・ガス・水道業	サービス業	公務員
アンケート調査のサンプル集団	11.3%	0.7%	3.7%	5.3%	3.7%	0.8%	0.1%	1.3%	0.4%	8.3%	8.5%
士別市民全体(H12年度国勢調査)	18.8%	0.6%	8.8%	15.1%	18.1%	1.8%	0.1%	4.9%	0.5%	27.3%	3.7%
割合の差(母集団比率との比較)	-7.5p	0.1p	-5.1p	-9.7p	-14p	-1.0p	-0.0p	-3.6p	-0.1p	-19p	4.8p

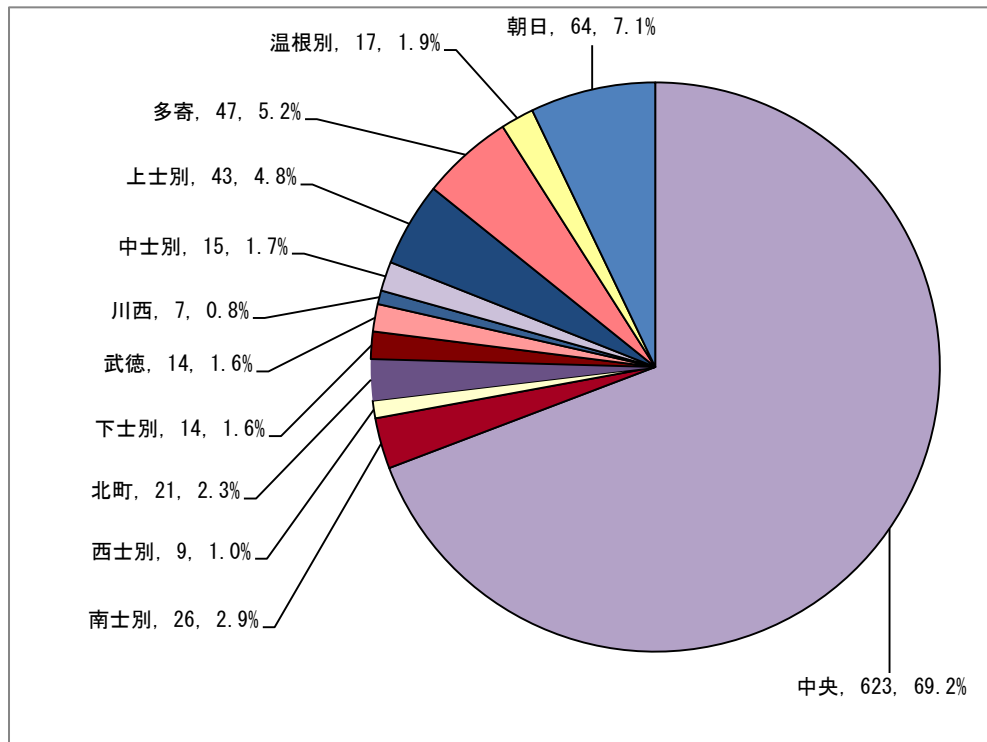
#### (4) 居住地区

サンプルは、士別市民全体（母集団）と比べて中央地区が少なく、この地区の意向が少なめに反映されていると思われる。

反対に南士別地区が多く、この地区の意向が多めに反映されていると想定される。

前回調査と比較すると、中央地区が少なめなのは同様であるが、前は朝日地区が多めだったのに対し、南士別地区が多めとなっている。

【図表－ 11】 回答者の居住地区



【図表－ 12(1)】 サンプル集団と市民全体の比較（無回答は除く）

Q10. 9-3 居住地区の割合	中央	南士別	西士別	北町	下士別	武徳	川西	中士別	上士別	多寄	温根別	朝日
アンケート調査のサンプル集団	69.2%	2.9%	1.0%	2.3%	1.6%	1.6%	0.8%	1.7%	4.8%	5.2%	1.9%	7.1%
士別市民全体(H22年度国勢調査)	74.1%	0.6%	0.7%	1.3%	1.2%	1.4%	0.5%	2.1%	4.1%	4.5%	1.8%	7.9%
割合の差(母集団比率との比較)	-4.9p	2.3p	0.3p	1.0p	0.3p	0.2p	0.3p	-0.4p	0.7p	0.8p	0.1p	-0.8p

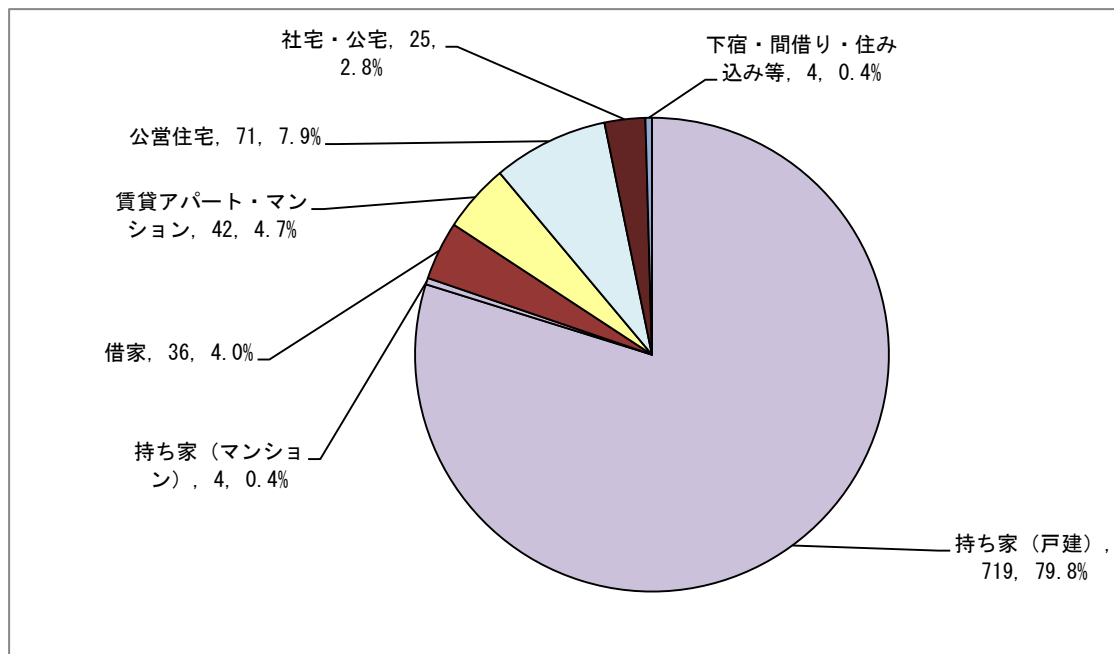
【図表－10(2)】 サンプル集団と市民全体の比較（無回答は除く）（前回調査）

Q8.3: 居住地区の割合(前回調査)	中央	南士別	西士別	北町	下士別	武徳	川西	中士別	上士別	多寄	温根別	朝日
アンケート調査のサンプル集団	67.5%	1.9%	1.0%	1.9%	2.1%	1.7%	0.4%	2.9%	3.9%	5.6%	1.8%	9.4%
士別市民全体(H17年度国勢調査)	70.6%	0.8%	0.8%	1.4%	1.9%	1.5%	0.6%	2.3%	4.9%	5.3%	2.3%	7.6%
割合の差(母集団比率との比較)	-3.1p	1.2p	0.1p	0.6p	0.1p	0.1p	-0.2%	0.6p	-1.1p	0.3p	-0.5p	1.8p

## (5) 居住住宅

サンプルは、士別市民全体（母集団）と比べて「賃貸アパート・マンション」、「公営住宅」が少なく、反面、「持ち家（戸建）」が多い。

【図表ー 13】 回答者の居住住宅



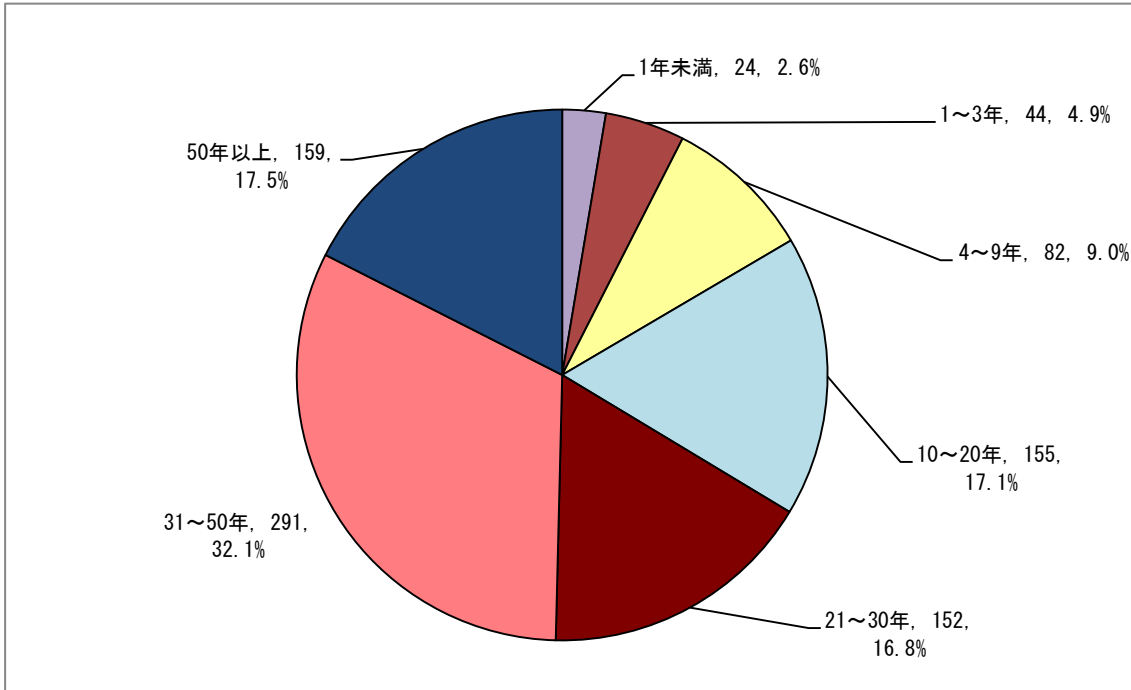
【図表ー 14】 サンプル集団と市民全体の比較（その他、無回答は除く）

Q10. 9-5 居宅住宅の割合	持ち家（戸建）	持ち家（マンション）	借家	賃貸アパート・マンション	公営住宅	社宅・公宅	下宿・間借り・住み込み等
アンケート調査のサンプル集団	79.8%	0.4%	4.0%	4.7%	7.9%	2.8%	0.4%
士別市民全体(H27年度国勢調査)	68.5%	0.5%	2.8%	10.4%	12.4%	4.2%	0.9%
割合の差(母集団比率との比較)	11.3p	-0.1p	1.2p	-5.7p	-4.5p	-1.4p	-0.5p

### (6) 通算居住年数

長期間の定住といえる「21年以上」は65%に達し、これにその前段階ともいえる「10～20年」を含めると、82%を占めることになる。流動傾向が少ない定着型の居住構造であることがわかる。

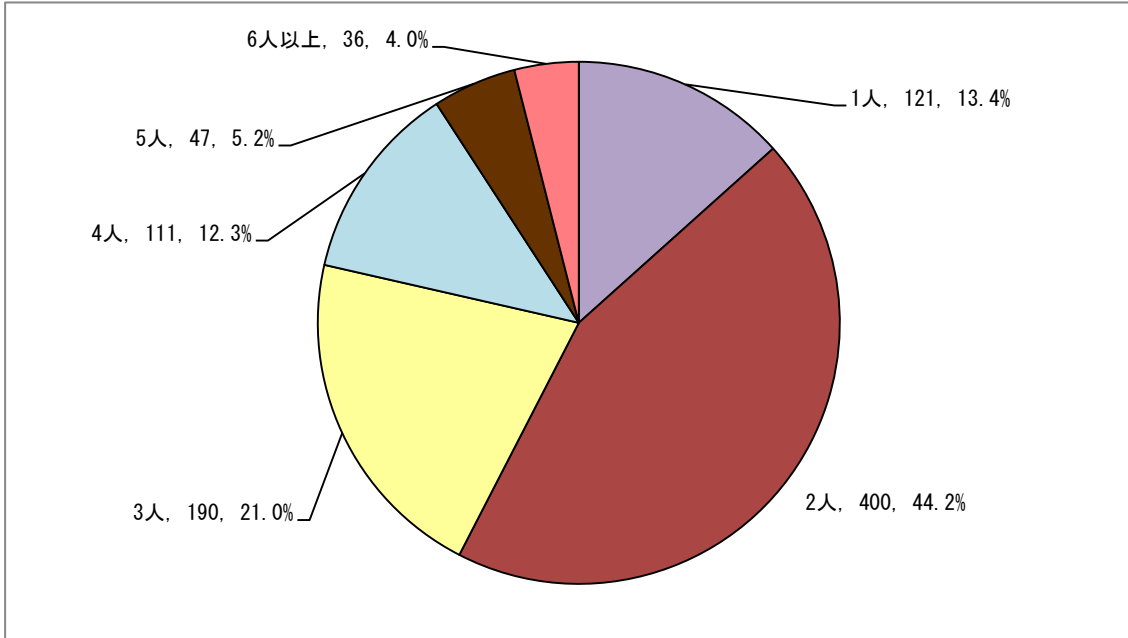
【図表－ 15】 回答者の通算居住年数



### (7) 世帯構成

サンプルは、士別市民全体（母集団）と比べて「1人」が少なく、反面、「2人」、「3人」が多い。

【図表－ 16】 回答者の世帯構成



【図表－ 17】 サンプル集団と市民全体の比較（無回答は除く）

Q10. 9-7 世帯構成の割合	1人	2人	3人	4人	5人	6人以上
アンケート調査のサンプル集団	13.4%	44.2%	21.0%	12.3%	5.2%	4.0%
士別市民全体(H27年度国勢調査)	31.3%	37.7%	16.0%	9.8%	3.4%	1.7%
割合の差(母集団比率との比較)	-18.0p	6.5p	5.0p	2.4p	1.8p	2.2p

## 2 集計結果

### 2-1. まちのイメージ

【問 1】 士別市全体に対して、あなたはどのようなイメージを感じていますか。次の各項目について、1～4までのなかから、あなたの考えに最も近いものを一つずつ選んで、番号を○で囲んでください。

#### (1) 単純集計（回答者全体）

【図表－ 18】 回答数（実数）

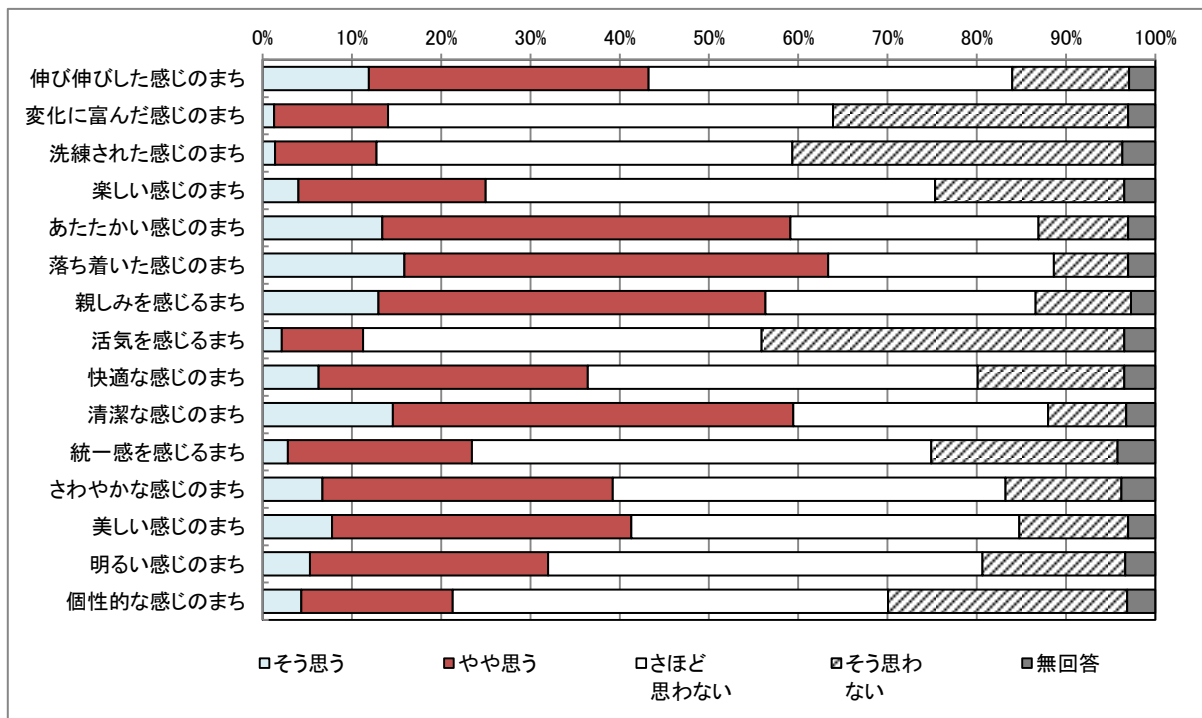
		そう思う	やや思う	さほど 思わない	そう思わ ない	無回答
Q1. 1	伸び伸びした感じのまち	110	290	377	121	27
Q1. 2	変化に富んだ感じのまち	12	118	461	306	28
Q1. 3	洗練された感じのまち	13	105	431	342	34
Q1. 4	楽しい感じのまち	37	194	466	196	32
Q1. 5	あたたかい感じのまち	124	423	257	93	28
Q1. 6	落ち着いた感じのまち	147	439	234	77	28
Q1. 7	親しみを感じるまち	120	401	280	99	25
Q1. 8	活気を感じるまち	20	84	413	376	32
Q1. 9	快適な感じのまち	58	279	404	152	32
Q1. 10	清潔な感じのまち	135	415	264	81	30
Q1. 11	統一感を感じるまち	26	191	476	193	39
Q1. 12	さわやかな感じのまち	62	301	407	120	35
Q1. 13	美しい感じのまち	72	310	402	113	28
Q1. 14	明るい感じのまち	49	247	450	148	31
Q1. 15	個性的な感じのまち	40	157	451	248	29

【図表－ 19】 構成比（%）

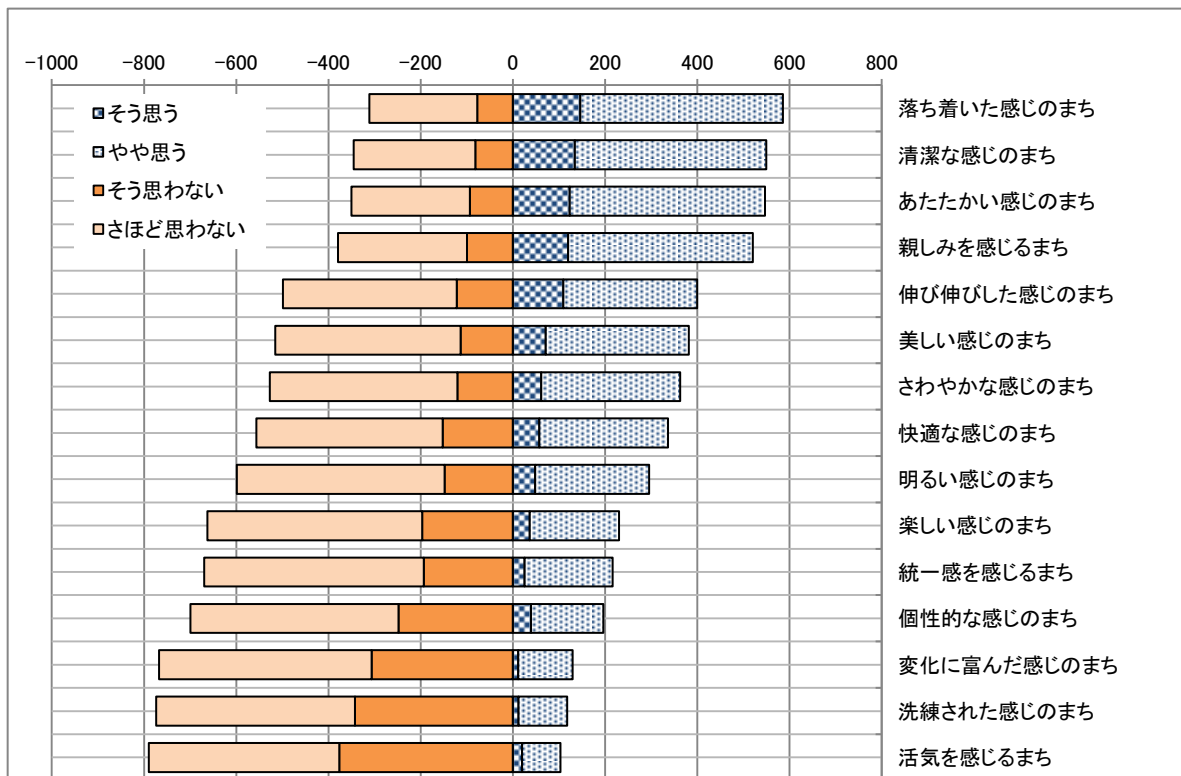
		そう思う	やや思う	さほど 思わない	そう思わ ない	無回答
Q1. 1	伸び伸びした感じのまち	11.9	31.4	40.8	13.1	2.9
Q1. 2	変化に富んだ感じのまち	1.3	12.8	49.8	33.1	3.0
Q1. 3	洗練された感じのまち	1.4	11.4	46.6	37.0	3.7
Q1. 4	楽しい感じのまち	4.0	21.0	50.4	21.2	3.5
Q1. 5	あたたかい感じのまち	13.4	45.7	27.8	10.1	3.0
Q1. 6	落ち着いた感じのまち	15.9	47.5	25.3	8.3	3.0
Q1. 7	親しみを感じるまち	13.0	43.4	30.3	10.7	2.7
Q1. 8	活気を感じるまち	2.2	9.1	44.6	40.6	3.5
Q1. 9	快適な感じのまち	6.3	30.2	43.7	16.4	3.5
Q1. 10	清潔な感じのまち	14.6	44.9	28.5	8.8	3.2
Q1. 11	統一感を感じるまち	2.8	20.6	51.5	20.9	4.2
Q1. 12	さわやかな感じのまち	6.7	32.5	44.0	13.0	3.8
Q1. 13	美しい感じのまち	7.8	33.5	43.5	12.2	3.0
Q1. 14	明るい感じのまち	5.3	26.7	48.6	16.0	3.4
Q1. 15	個性的な感じのまち	4.3	17.0	48.8	26.8	3.1



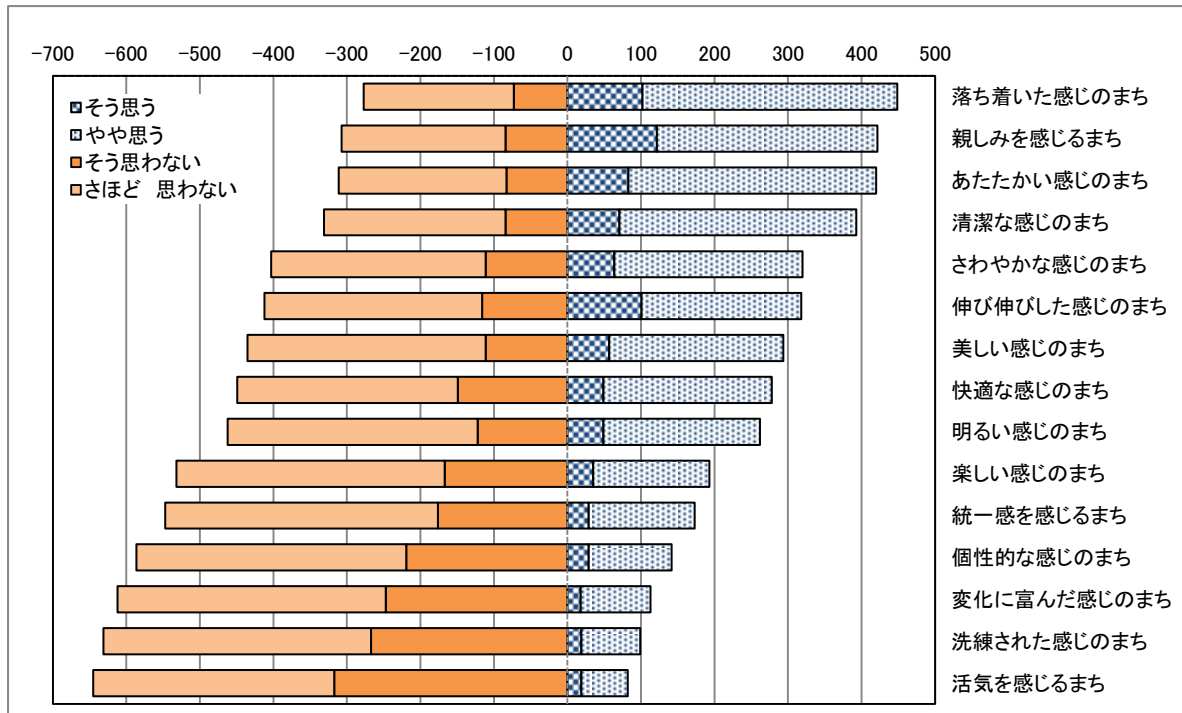
【図表－20】図表－19のグラフ化



【図表－21 (1)】図表－18のグラフ化(並べ替え)



【図表-21 (2)】 (前回調査)



地域のイメージを 15 の項目に分けて、それぞれの認識の度合いについて質問した。項目ごとに「そう思う」「やや思う」の合計の多い順に並べ替えたのが【図表-21】である。【図表-21】によると、そう思う度合いの大きい項目は「落ち着いた感じのまち」を筆頭に、どちらかというところ“温和で穏やか、静かなまちのイメージ”を肯定するものであって、反面そう思わない度合いの大きい項目は「活気を感じるまち」を筆頭に“活気や変化の少ないまちのイメージ”となっている。

これら両極のイメージ項目の間は、必ずしも漸増・漸減が明確となるものでもなく、またその途中で明確な段落を見て取れるようなグループに分かれているわけでもないが、【図表-21(1)】からは、上位 4 項目と中位 5 項目そして残りの下位 6 項目の 3 つにグループ分けされることが見て取れる。“温和で穏やか、静かなまちのイメージ”は上位のグループのイメージとよく、“活気や変化の少ないまちのイメージ”は下位のグループのイメージといえる。そして中位のグループはそれら双方に共通に適合するイメージであると捉えることもできる。

この上位 4 項目、中位 5 項目、下位 6 項目の構成は前回調査（【図表-21(2)】）と変わっていない。上位、中位、下位それぞれのカテゴリ内で順位が若干変わっているのみであり、まちのイメージは、10 年前と比較してそう変化していないことが伺える。

## (2) 因子分析

前述のこれら 3 つのグループが有意な差を示しているのかどうかについては【図表-21(1)】だけでは判然としないので、15 項目の背後に潜む潜在的な次元を発見するために因子分析を行った。

因子分析（【図表-22(1)】）によると、一見ばらばらに見える 15 項目に対する市民のイメージ認識は、大きく 2 つの次元（成分）で構成されていることが分かる。この 2 つの成分は、それぞれを構成している項目の共通性によって名称を与えることになるが、それぞれ「静かな感じ」と「活発な感じ」と定義付けることが可能である。これは、【図表-21(1)】とほぼ同じ結果となっている。また、【図表-21(1)】の上位と中位のグループが双方とも「静かな感じ」のグループを構成していると見なすこともできる。

以上から、士別市のまちのイメージは、“温和で穏やか、静かなまちのイメージだが、反面、活気や変化が少ない地方都市”ということになるものの、まちの「美しさ」や「快適さ」といった評価（中位の項目）を“温和で穏やかで静かなまち”の属性あるいは結果として受け入れていることを示していると解釈することができる。

【図表－ 22(1)】因子分析

回転後の成分行列		成分		認識（平均値）		共通因子
		1	2	項目別	成分別	
Q1. 6	落ち着いた感じのまち	0.846	-0.130	13.8	-9.2	温和で 穏やか 静かな 感じ
Q1. 5	あたたかい感じのまち	0.790	-0.029	7.5		
Q1. 7	親しみを感じるまち	0.743	0.041	10.5		
Q1. 10	清潔な感じのまち	0.661	0.029	3.4		
Q1. 1	伸び伸びした感じのまち	0.577	0.149	-7.5		
Q1. 9	快適な感じのまち	0.546	0.198	-18.6		
Q1. 12	さわやかな感じのまち	0.527	0.322	-9.0		
Q1. 13	美しい感じのまち	0.450	0.342	-13.4		
Q1. 14	明るい感じのまち	0.332	0.514	-18.9		
Q1. 4	楽しい感じのまち	0.261	0.557	-32.5		
Q1. 11	統一感を感じるまち	0.251	0.521	-36.2	-51.6	双方に 共通す る感じ
Q1. 8	活気を感じるまち	0.044	0.713	-59.2		
Q1. 15	個性的な感じのまち	-0.017	0.666	-43.5		
Q1. 3	洗練された感じのまち	-0.057	0.822	-53.4		
Q1. 2	変化に富んだ感じのまち	-0.059	0.789	-50.2		

因子抽出法：因子分析

回転法：斜交回転プロマックス法

4回の反復で回転が収束しました。

【図表－22 (2)】因子分析（前回調査）

回転後の成分行列		成分		認識（平均値）		共通因子
		1	2	項目別	成分別	
Q1. 6	落ち着いた感じのまち	0.796	0.148	55.3	48.2	温和で 穏やか 静かな 感じ
Q1. 5	あたたかい感じのまち	0.778	0.246	52.5		
Q1. 7	親しみを感じるまち	0.770	0.268	54.4		
Q1. 12	さわやかな感じのまち	0.757	0.326	45.9		
Q1. 10	清潔な感じのまち	0.733	0.191	50.9		
Q1. 13	美しい感じのまち	0.712	0.320	44.3		
Q1. 9	快適な感じのまち	0.650	0.388	41.5		
Q1. 1	伸び伸びした感じのまち	0.644	0.311	47.1		
Q1. 14	明るい感じのまち	0.613	0.511	42.0		
Q1. 3	洗練された感じのまち	0.255	0.785	26.4		
Q1. 8	活気を感じるまち	0.243	0.765	23.3		
Q1. 2	変化に富んだ感じのまち	0.188	0.743	27.9		
Q1. 15	個性的な感じのまち	0.204	0.729	31.0		
Q1. 4	楽しい感じのまち	0.475	0.665	36.0		
Q1. 11	統一感を感じるまち	0.456	0.605	34.4		

因子抽出法：主成分分析

回転法：Kaiser の正規化を伴わないプロマックス法

3回の反復で回転が収束しました。

## 2-2. まちの資源

【問 2】 士別市のさまざまな地域資源について、あなたは、どのように感じていますか。次の各項目の地域資源について、あなたの考えに最も近いものを一つずつ選んで、番号を○で囲んでください。

### (1) 単純集計 (回答者全体)

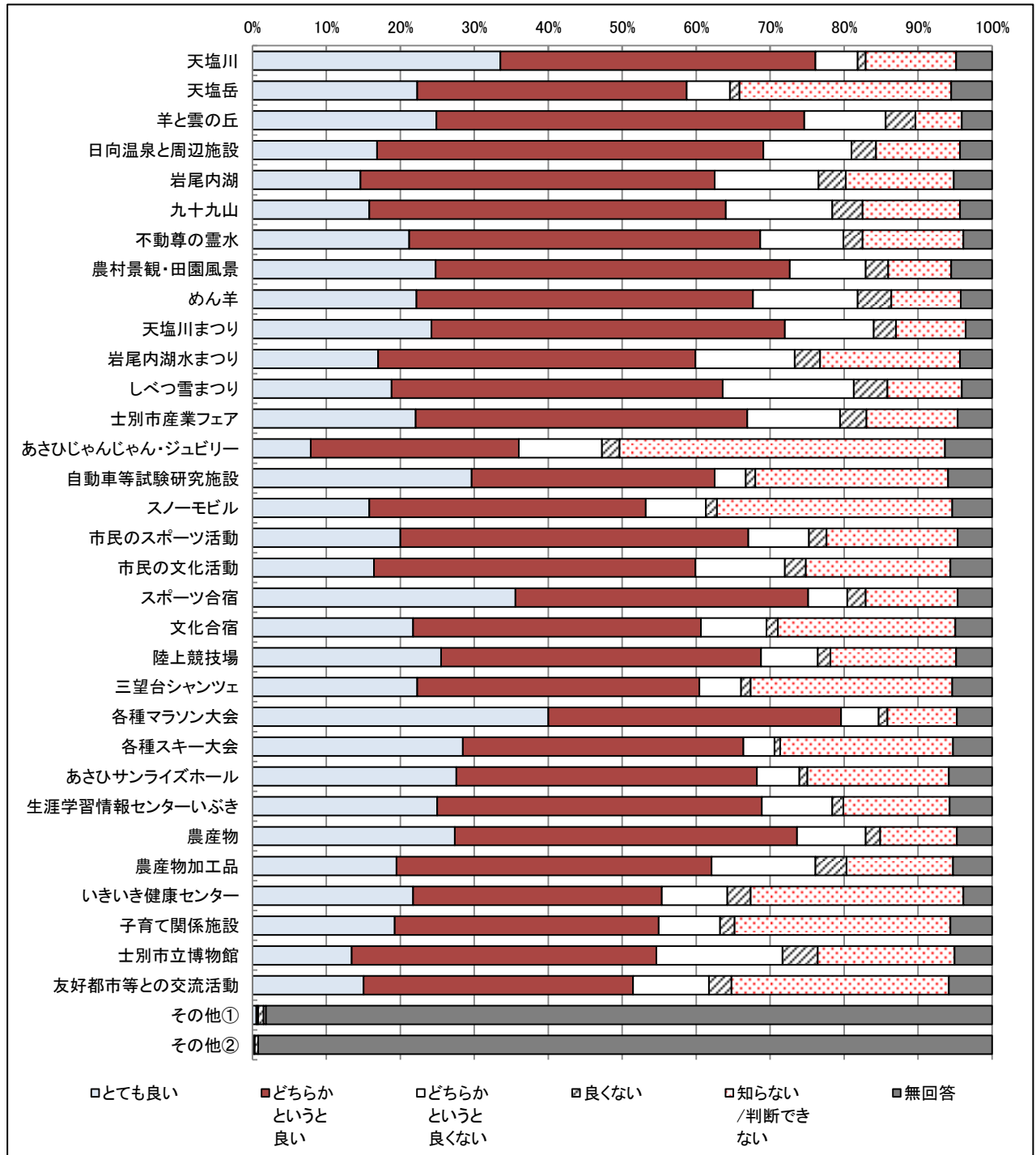
【図表- 23】 回答数 (実数)

		とても良い	どちらか という 良い	どちらか という 良くない	良くない	知らない /判断でき ない	無回答
Q2. 1	天塩川	310	394	53	10	113	45
Q2. 2	天塩岳	206	337	54	12	265	51
Q2. 3	羊と雲の丘	230	460	102	37	58	38
Q2. 4	日向温泉と周辺施設	156	483	110	31	105	40
Q2. 5	岩尾内湖	135	443	130	34	135	48
Q2. 6	九十九山	146	446	133	38	122	40
Q2. 7	不動尊の霊水	196	439	104	24	126	36
Q2. 8	農村景観・田園風景	229	443	95	28	79	51
Q2. 9	めん羊	205	421	131	42	87	39
Q2. 10	天塩川まつり	224	442	111	28	87	33
Q2. 11	岩尾内湖水まつり	157	397	124	32	175	40
Q2. 12	しべつ雪まつり	174	414	164	42	93	38
Q2. 13	士別市産業フェア	204	415	116	33	114	43
Q2. 14	あさひじゃんじゃん・ジュビリー	73	260	104	22	407	59
Q2. 15	自動車等試験研究施設	274	304	39	12	241	55
Q2. 16	スノーモビル	146	346	75	14	294	50
Q2. 17	市民のスポーツ活動	185	435	76	22	164	43
Q2. 18	市民の文化活動	152	402	112	26	181	52
Q2. 19	スポーツ合宿	329	366	49	23	115	43
Q2. 20	文化合宿	201	360	82	14	222	46
Q2. 21	陸上競技場	236	400	71	16	157	45
Q2. 22	三望台シャンツェ	206	353	52	12	252	50
Q2. 23	各種マラソン大会	370	366	47	11	87	44
Q2. 24	各種スキー大会	263	351	39	7	216	49
Q2. 25	あさひサンライズホール	255	376	53	10	177	54
Q2. 26	生涯学習情報センターいぶき	231	406	88	14	133	53
Q2. 27	農産物	253	428	86	18	96	44
Q2. 28	農産物加工品	180	394	130	39	133	49
Q2. 29	いきいき健康センター	201	311	82	29	266	36
Q2. 30	子育て関係施設	178	330	77	18	270	52
Q2. 31	士別市立博物館	124	381	158	44	171	47
Q2. 32	友好都市・姉妹都市等との交流活動	139	337	95	28	272	54
Q2. 33	その他①	5	1	1	7	3	908
Q2. 34	その他②	2	0	1	4	0	918

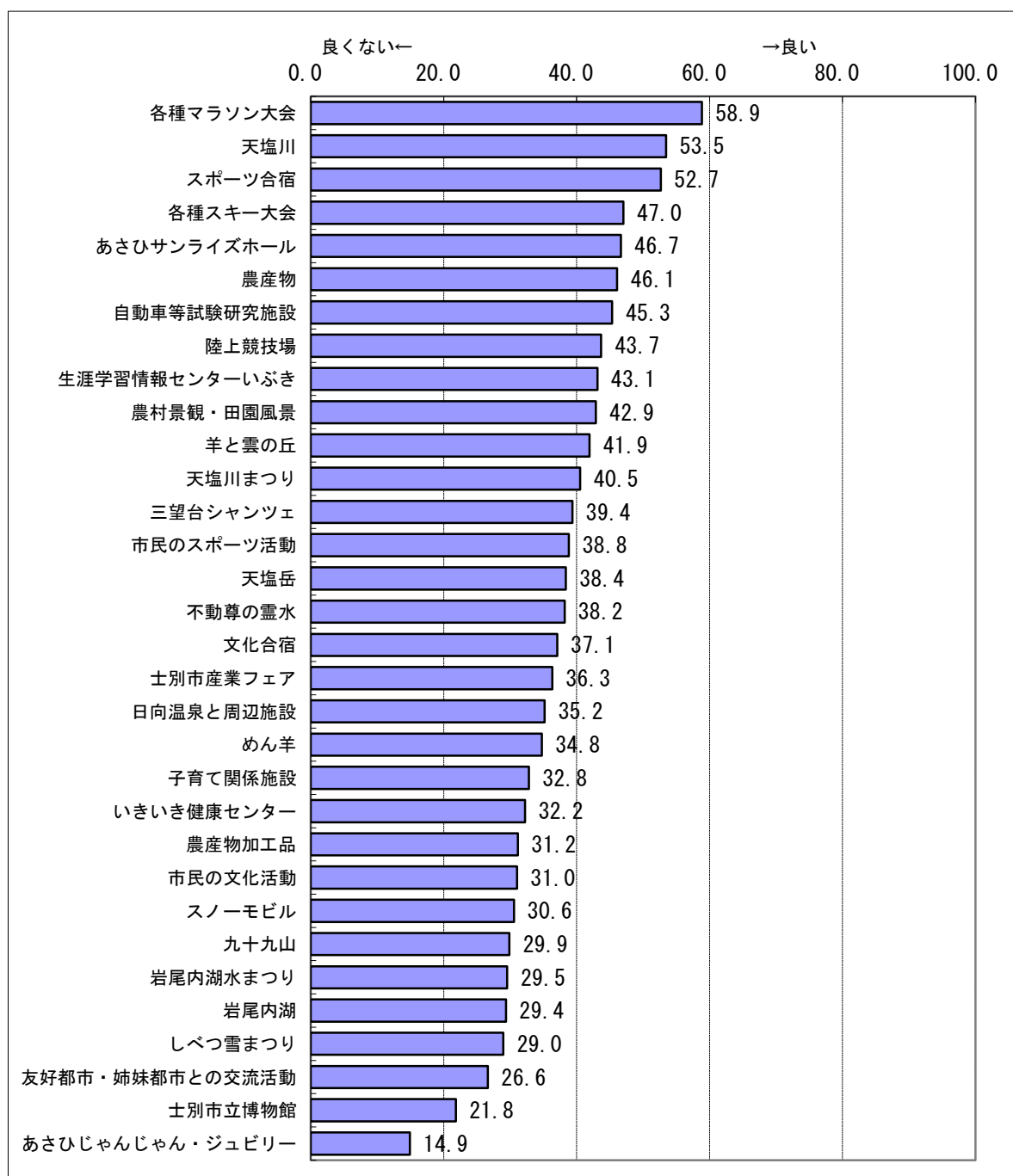
【図表－ 24】 回答数（実数） 構成比（％）

		とても良い	どちらか という 良い	どちらか という 良くない	良くない	知らない /判断でき ない	無回答
Q2. 1	天塩川	33.5	42.6	5.7	1.1	12.2	4.9
Q2. 2	天塩岳	22.3	36.4	5.8	1.3	28.6	5.5
Q2. 3	羊と雲の丘	24.9	49.7	11.0	4.0	6.3	4.1
Q2. 4	日向温泉と周辺施設	16.9	52.2	11.9	3.4	11.4	4.3
Q2. 5	岩尾内湖	14.6	47.9	14.1	3.7	14.6	5.2
Q2. 6	九十九山	15.8	48.2	14.4	4.1	13.2	4.3
Q2. 7	不動尊の霊水	21.2	47.5	11.2	2.6	13.6	3.9
Q2. 8	農村景観・田園風景	24.8	47.9	10.3	3.0	8.5	5.5
Q2. 9	めん羊	22.2	45.5	14.2	4.5	9.4	4.2
Q2. 10	天塩川まつり	24.2	47.8	12.0	3.0	9.4	3.6
Q2. 11	岩尾内湖水まつり	17.0	42.9	13.4	3.5	18.9	4.3
Q2. 12	しべつ雪まつり	18.8	44.8	17.7	4.5	10.1	4.1
Q2. 13	士別市産業フェア	22.1	44.9	12.5	3.6	12.3	4.6
Q2. 14	あさひじゃんじゃん・ジュビリー	7.9	28.1	11.2	2.4	44.0	6.4
Q2. 15	自動車等試験研究施設	29.6	32.9	4.2	1.3	26.1	5.9
Q2. 16	スノーモビル	15.8	37.4	8.1	1.5	31.8	5.4
Q2. 17	市民のスポーツ活動	20.0	47.0	8.2	2.4	17.7	4.6
Q2. 18	市民の文化活動	16.4	43.5	12.1	2.8	19.6	5.6
Q2. 19	スポーツ合宿	35.6	39.6	5.3	2.5	12.4	4.6
Q2. 20	文化合宿	21.7	38.9	8.9	1.5	24.0	5.0
Q2. 21	陸上競技場	25.5	43.2	7.7	1.7	17.0	4.9
Q2. 22	三望台シャンツェ	22.3	38.2	5.6	1.3	27.2	5.4
Q2. 23	各種マラソン大会	40.0	39.6	5.1	1.2	9.4	4.8
Q2. 24	各種スキー大会	28.4	37.9	4.2	0.8	23.4	5.3
Q2. 25	あさひサンライズホール	27.6	40.6	5.7	1.1	19.1	5.8
Q2. 26	生涯学習情報センターいぶき	25.0	43.9	9.5	1.5	14.4	5.7
Q2. 27	農産物	27.4	46.3	9.3	1.9	10.4	4.8
Q2. 28	農産物加工品	19.5	42.6	14.1	4.2	14.4	5.3
Q2. 29	いきいき健康センター	21.7	33.6	8.9	3.1	28.8	3.9
Q2. 30	子育て関係施設	19.2	35.7	8.3	1.9	29.2	5.6
Q2. 31	士別市立博物館	13.4	41.2	17.1	4.8	18.5	5.1
Q2. 32	友好都市・姉妹都市等との交流活動	15.0	36.4	10.3	3.0	29.4	5.8
Q2. 33	その他①	0.5	0.1	0.1	0.8	0.3	98.2
Q2. 34	その他②	0.2	0.0	0.1	0.4	0.0	99.2

【図表－25】図表－24 のグラフ化



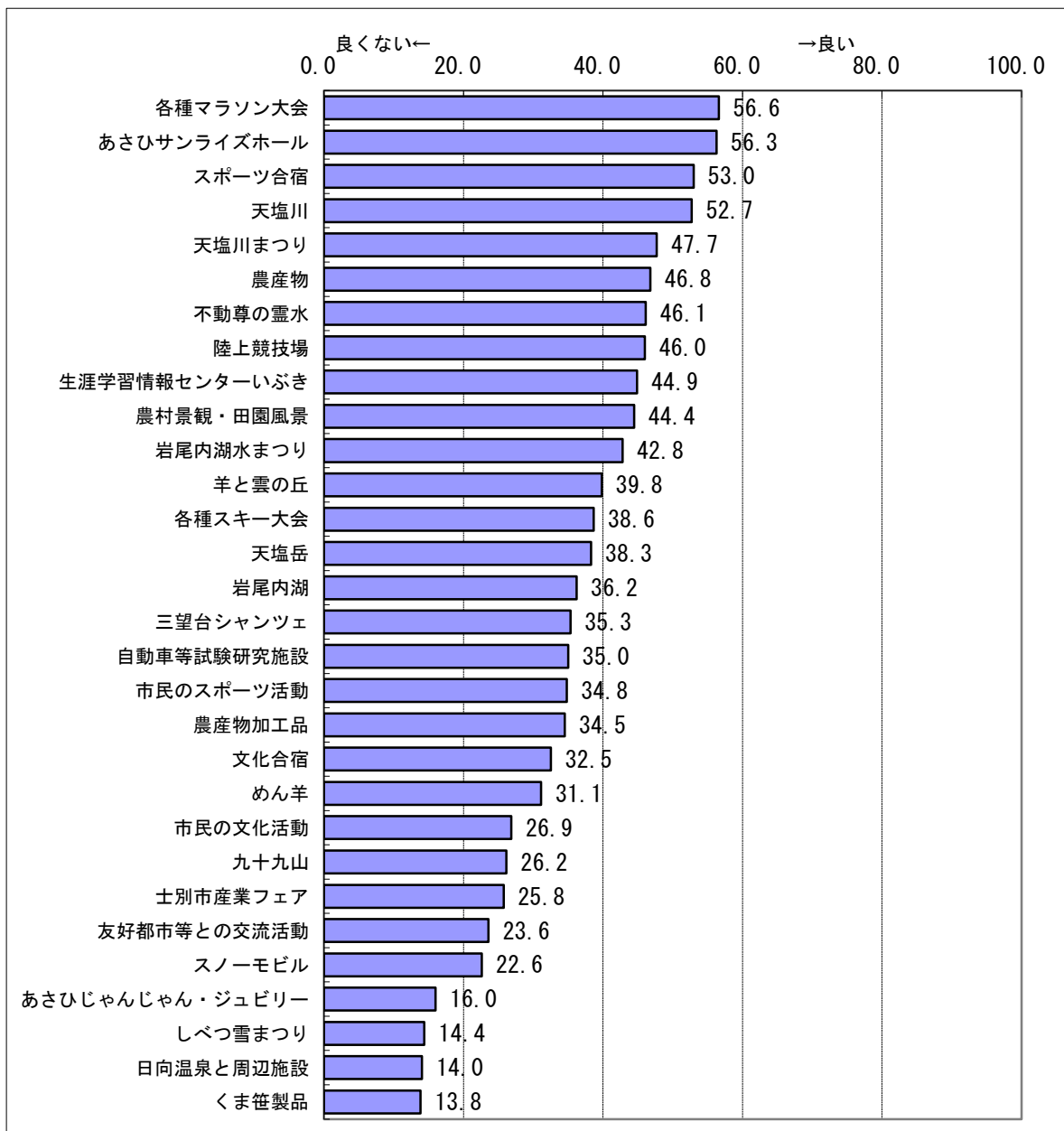
【図表－ 26(1)】地域資源に関する評価の平均



(「とても良い」=100、「どちらかというが良い」=50、「どちらかというと良くない」=-50、「良くない」=-100、「知らない/判断できない」=0)

地域資源の評価について、加重平均により評価の高い順に並べ替えた【図表－26 (1)】と、評価傾向(「とても良い」+「どちらかというよい」)の多い順に並べ替えた【図表－28 (1)】とでは、その順序に微妙な相違が見られる。この相違は計算手法上の違いに起因するものなので、大括りでそれらに共通する特徴を見ると、上位には3系統のグループが見て取れる。双方の上位グループに共通して含まれる地域資源をみると、「各種マラソン大会」や「スポーツ合宿」、「陸上競技場」などのスポーツ系、「サンライズホール」「生涯学習情報センターいぶき」などの文化施設系、「農産物」「農村景観」などの農業系などが高く評価されていることがわかる。

【図表-26(2)】地域資源に関する評価の平均（前回）

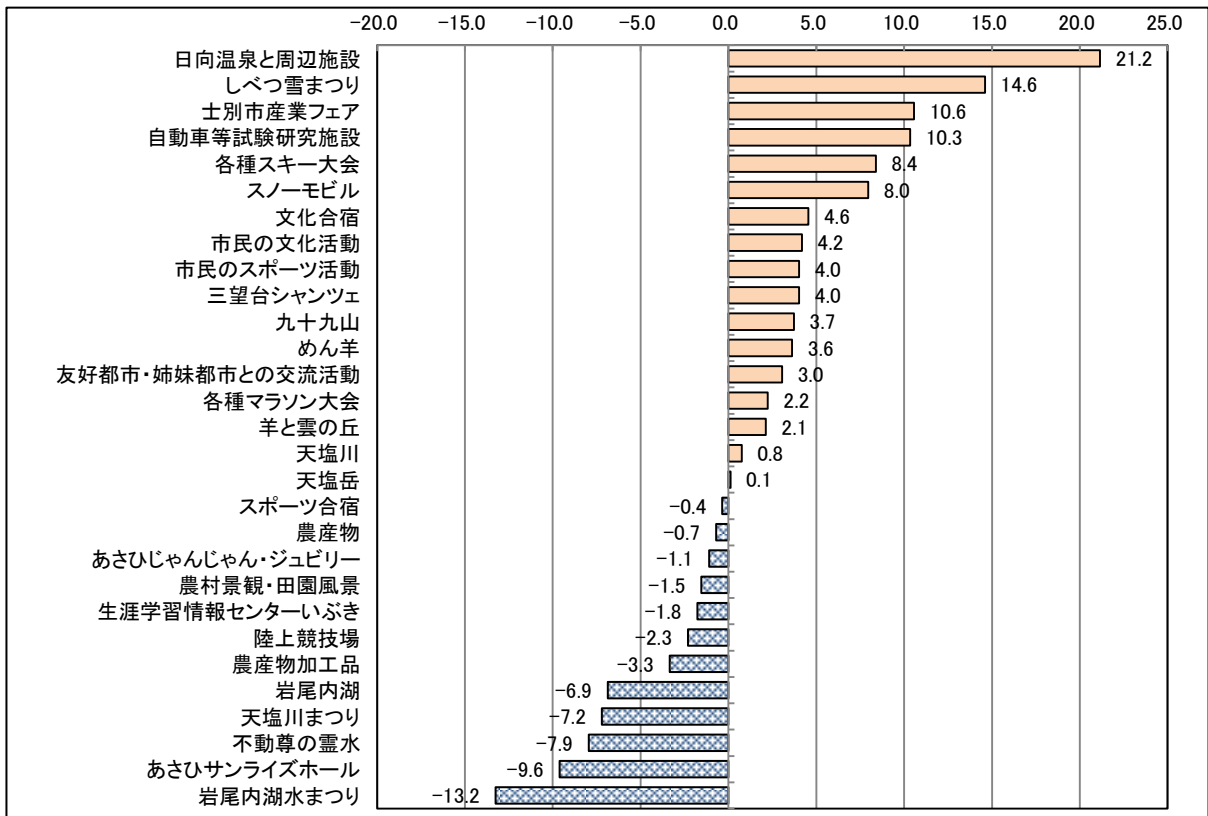


(「とても良い」=100、「どちらかというが良い」=50、「どちらかというと良くない」=-50、「良くない」=-100、「知らない/判断できない」=0)

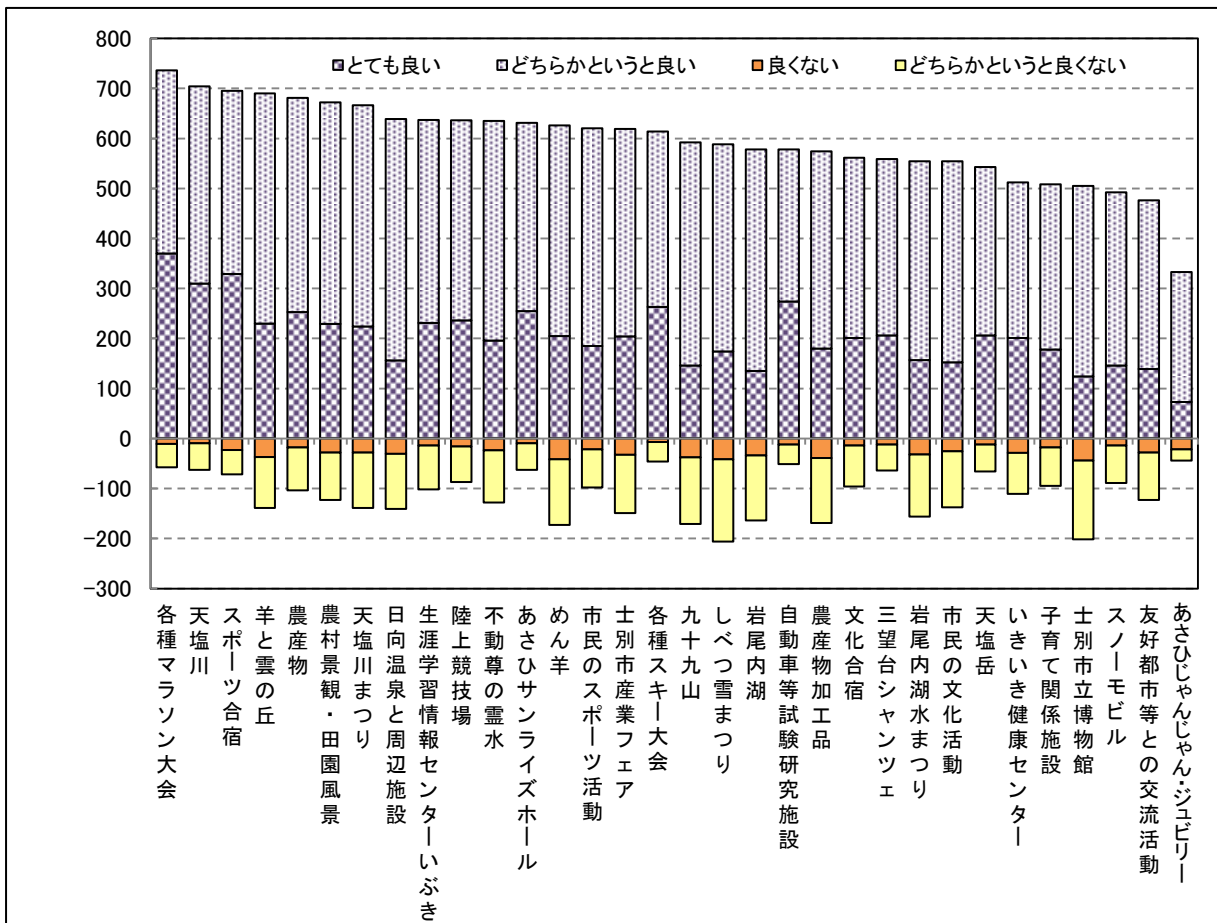
地域資源の評価について、前回と比較し今回の平均と前回の平均の差を示したのが【図表-27】である。前回と比較して評価が大きく上がっているものは、「日向温泉と周辺施設」「しべつ雪まつり」「士別市産業フェア」「自転車等試験研究施設」などである。反対に評価が大きく下がっているものは「岩尾内湖水まつり」「天塩川まつり」「あさひサンライズホール」などである。



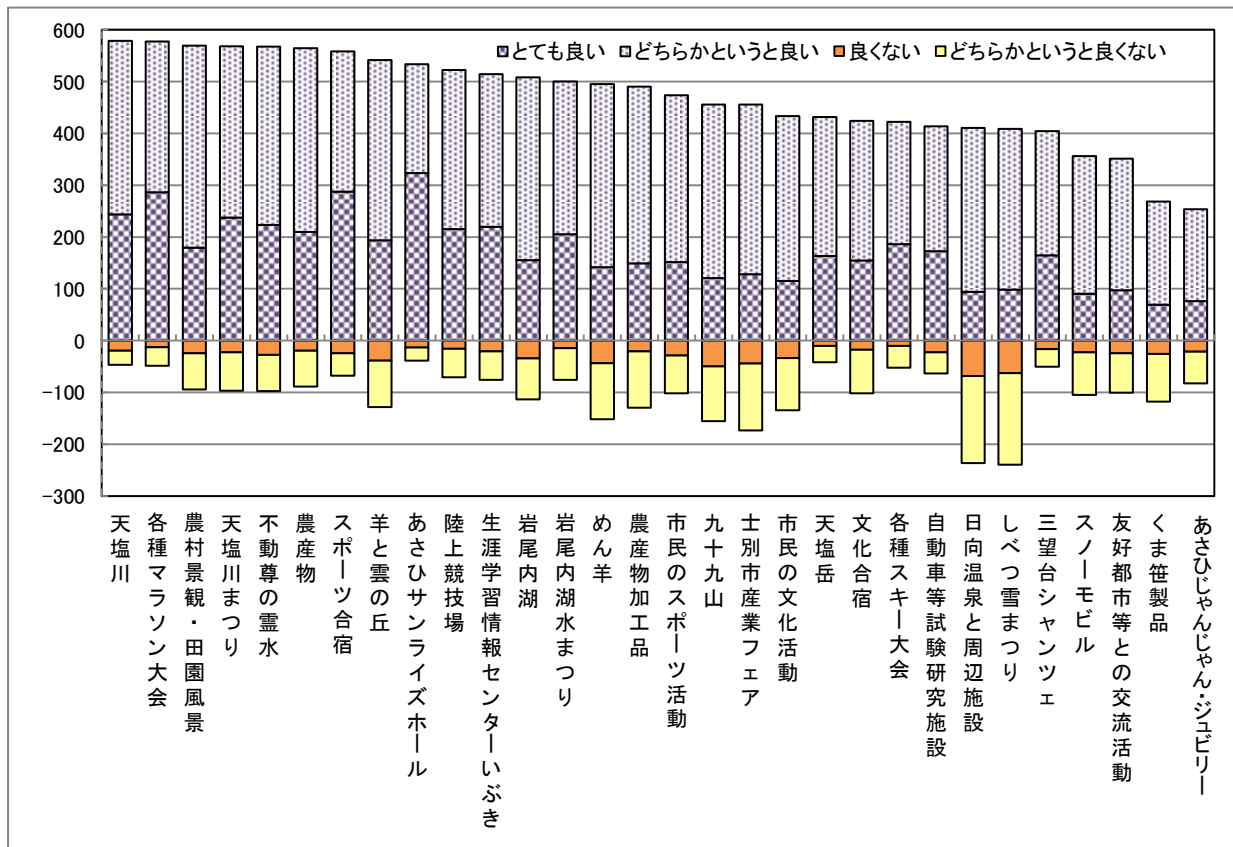
【図表－ 27】 地域資源に関する評価の平均 前回との比較



【図表－ 28 (1)】 図表 23 のグラフ化



【図表-28 (2)】 図表 23 のグラフ化 (前回調査)



地域資源に対する市民の評価が高い項目として、前述のように、スポーツ系、文化施設系、農業系などが見られたが、しかしそれらが評価構造を構成している5つないし6つのグルーピングに対応しているわけではない。そこで、評価の高い順に並べた場合（【図表-26 (1)】【図表-28 (1)】）の分類とは異なる観点から資源評価の基準を見出すために、地域資源32項目に関する市民評価をもとに因子分析を行った。（【図表-29(1)】）

因子分析の結果、32項目に潜在している共通因子として5成分が見出されたが、初期解の固有値が1以上となるものは1つしか見出されなかった。市街部、農村部の間で地域資源に対する認知が偏っていることが、このような混在の背景にあるものと思われる。

【図表－ 29 (1)】 因子分析

回転後の成分行列	成分				
	1	2	3	4	5
Q2.20 文化合宿	0.689	0.000	-0.032	0.090	-0.010
Q2.12 しべつ雪まつり	0.685	0.006	0.054	-0.125	-0.019
Q2.17 市民のスポーツ活動	0.684	-0.013	0.052	0.051	-0.039
Q2.13 土別市産業フェア	0.666	0.043	-0.006	-0.044	-0.054
Q2.10 天塩川まつり	0.655	0.040	0.034	-0.088	-0.044
Q2.18 市民の文化活動	0.653	0.014	0.026	0.029	0.013
Q2.19 スポーツ合宿	0.638	-0.080	0.098	0.102	-0.068
Q2.11 岩尾内湖水まつり	0.633	0.047	-0.012	-0.074	0.020
Q2.14 あさひじゃんじゃん・ジュビリー	0.631	-0.014	-0.171	-0.036	0.099
Q2.29 いきいき健康センター	0.628	0.128	-0.035	0.023	-0.013
Q2.16 スノーモビル	0.623	-0.144	0.003	0.090	0.008
Q2.23 各種マラソン大会	0.621	-0.037	0.150	0.062	-0.085
Q2.24 各種スキー大会	0.597	0.047	0.012	0.023	0.046
Q2.22 三望台ジャンツェ	0.592	0.041	-0.039	-0.048	0.136
Q2.21 陸上競技場	0.577	0.005	0.097	0.086	-0.033
Q2.25 あさひサンライズホール	0.564	-0.055	-0.011	0.163	0.083
Q2.30 子育て関係施設	0.540	0.096	-0.073	0.106	0.055
Q2.9 めん羊	0.537	0.161	0.030	-0.016	-0.068
Q2.32 友好都市等との交流活動	0.528	0.180	0.004	0.013	-0.022
Q2.31 土別市立博物館	0.520	0.190	-0.070	-0.027	0.056
Q2.26 生涯学習情報センターいぶき	0.520	0.124	-0.002	0.112	0.023
Q2.15 自動車等試験研究施設	0.520	-0.128	0.034	0.141	0.064
Q2.7 不動尊の霊水	0.472	0.058	0.091	-0.021	0.020
Q2.3 羊と雲の丘	0.469	0.073	0.093	0.004	0.009
Q2.4 日向温泉と周辺施設	0.456	0.039	0.100	-0.007	0.028
Q2.6 九十九山	0.431	0.068	0.163	-0.011	0.043
Q2.8 農村景観・田園風景	0.365	0.040	0.113	0.195	-0.005
Q2.5 岩尾内湖	0.327	0.045	0.205	0.039	0.084
Q2.28 農産物加工品	0.037	0.894	0.029	0.132	-0.003
Q2.2 天塩岳	0.027	-0.003	0.108	-0.001	0.931
Q2.1 天塩川	-0.004	0.014	0.960	-0.016	0.085
Q2.27 農産物	-0.027	0.197	-0.019	0.902	-0.004

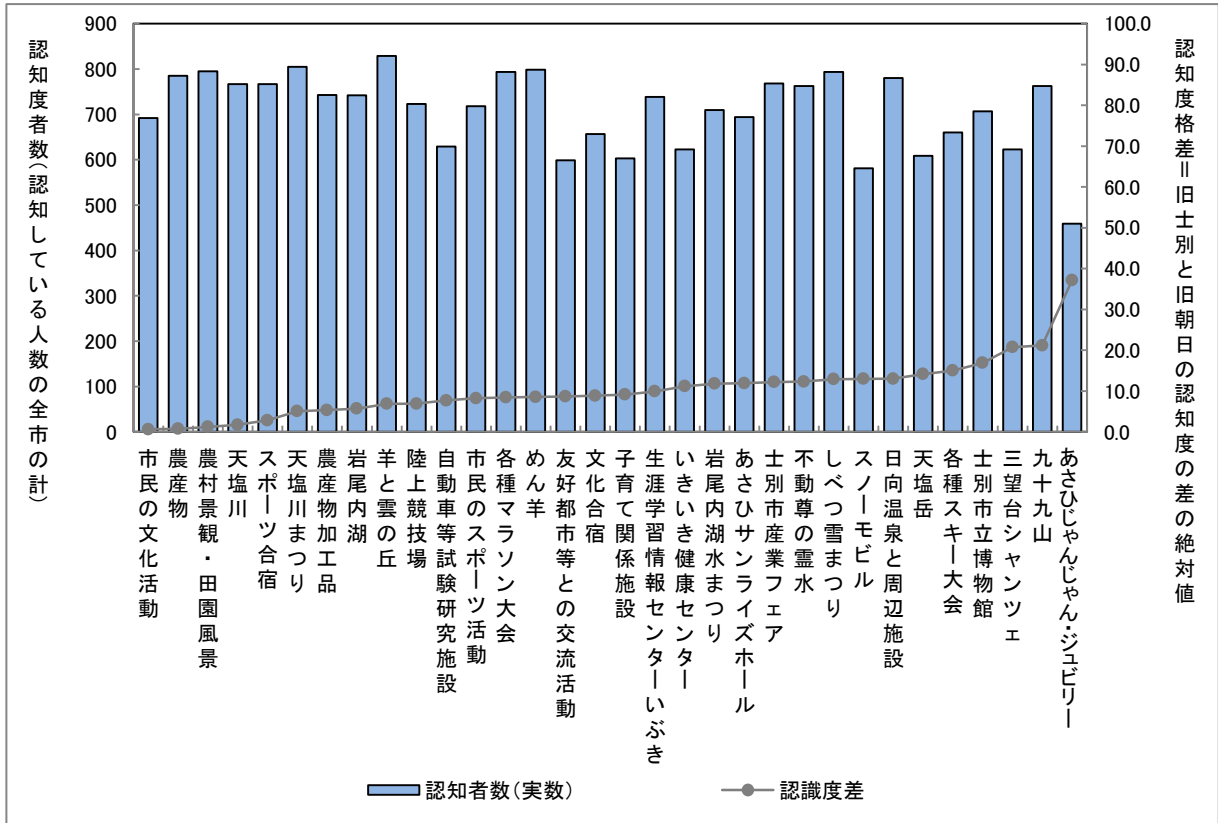
因子抽出法: 因子分析 回転法: 斜交回転プロマックス法  
11 回の反復で回転が収束しました。

【図表－29 (2)】 因子分析 (前回調査)

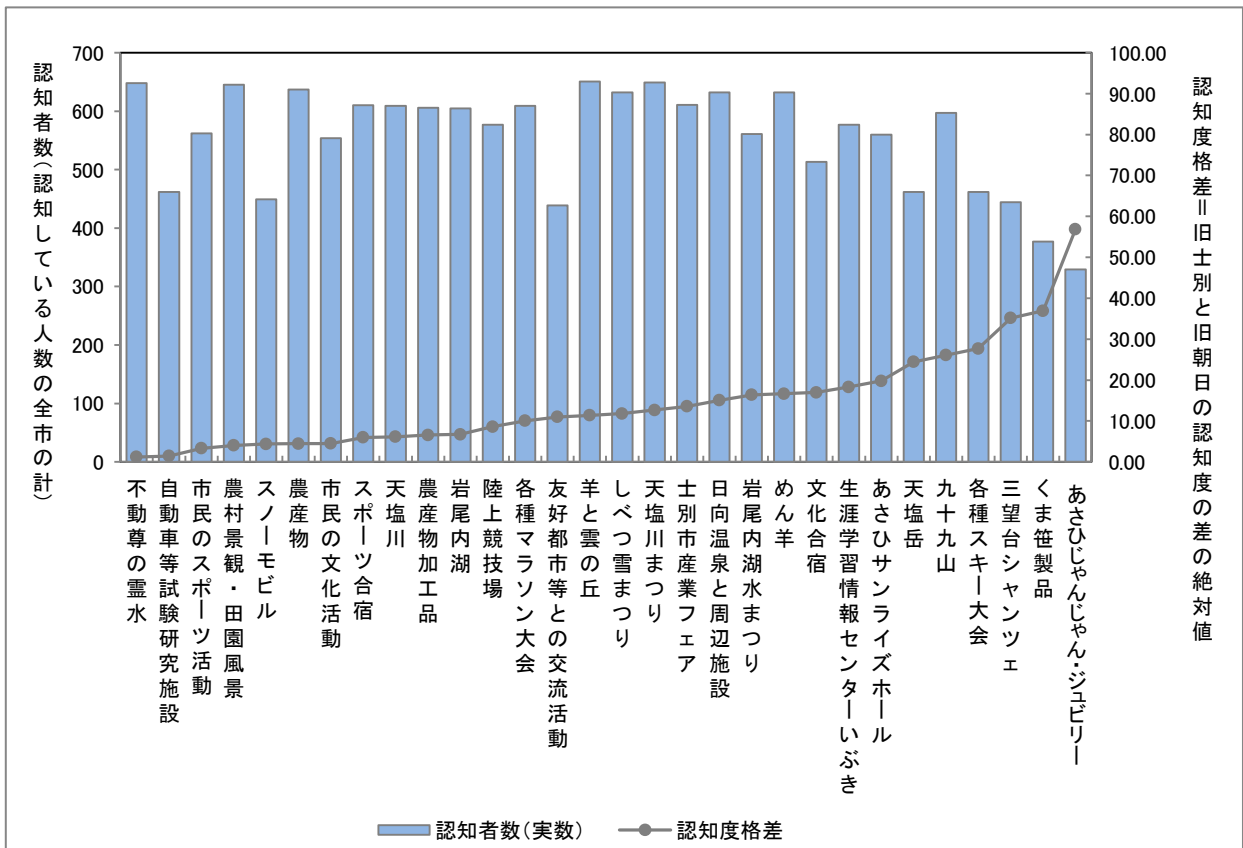
回転後の成分行列	成分						評価		共通因子
	1	2	3	4	5	6	項目別	成分別	
Q2.19 スポーツ合宿	0.774	0.190	0.138	0.053	0.073	0.155	53.0	43.7	スポーツ文化活動
Q2.21 陸上競技場	0.678	0.227	0.119	0.223	0.165	0.071	46.0		
Q2.23 各種マラソン大会	0.676	0.140	0.103	0.286	0.181	0.091	56.6		
Q2.17 市民のスポーツ活動	0.657	0.349	0.219	0.141	0.048	0.150	34.8		
Q2.18 市民の文化活動	0.585	0.343	0.351	0.071	0.065	0.082	26.9		
Q2.20 文化合宿	0.507	0.244	0.337	-0.026	0.271	0.122	32.5		
Q2.25 あさひサンライズホール	0.447	-0.171	0.280	0.314	0.298	0.205	56.3		
Q2.9 めん羊	0.288	0.672	0.160	0.128	0.014	0.106	31.1	25.0	羊
Q2.3 羊と雲の丘	0.253	0.655	0.166	0.220	-0.099	0.234	39.8		
Q2.4 日向温泉と周辺施設	0.073	0.569	0.009	0.301	0.176	0.252	14.0		
Q2.13 土別市産業フェア	0.218	0.535	0.315	0.238	0.270	-0.172	25.8		
Q2.12 しべつ雪まつり	0.155	0.522	0.204	0.391	0.374	-0.154	14.4		
Q2.28 農産物加工品	0.209	0.181	0.756	0.187	0.120	0.064	34.5	32.7	加工品
Q2.29 くま笹製品	0.076	0.135	0.730	0.021	0.316	0.155	13.8		
Q2.27 農産物	0.272	0.080	0.626	0.330	-0.007	0.166	46.8		
Q2.26 生涯学習情報センターいぶき	0.416	0.062	0.416	0.326	0.047	0.030	44.9		
Q2.30 友好都市等との交流活動	0.369	0.296	0.414	0.035	0.104	0.078	23.6		
Q2.6 九十九山	0.172	0.238	0.101	0.691	0.020	0.189	26.2	41.1	自然環境
Q2.7 不動尊の霊水	0.116	0.154	0.119	0.679	0.060	0.239	46.1		
Q2.10 天塩川まつり	0.276	0.397	0.169	0.476	0.290	-0.105	47.7		
Q2.8 農村景観・田園風景	0.156	0.194	0.280	0.340	-0.061	0.317	44.4		
Q2.14 あさひじゃんじゃん・ジュビリー	0.033	0.176	0.367	0.032	0.616	0.196	16.0	31.1	イベント
Q2.22 三望台ジャンツェ	0.441	-0.048	0.050	0.129	0.586	0.285	35.3		
Q2.24 各種スキー大会	0.533	-0.007	0.008	0.108	0.570	0.162	38.6		
Q2.11 岩尾内湖水まつり	0.123	0.195	0.277	0.468	0.528	0.018	42.8		
Q2.16 スノーモビル	0.250	0.476	0.115	-0.046	0.489	0.226	22.6		
Q2.2 天塩岳	0.104	0.040	0.128	0.061	0.168	0.773	38.3	40.6	源流部の自然
Q2.1 天塩川	0.205	0.072	0.092	0.201	0.077	0.755	52.7		
Q2.5 岩尾内湖	0.071	0.206	0.154	0.387	0.197	0.512	36.2		
Q2.15 自動車等試験研究施設	0.396	0.206	0.008	-0.009	0.347	0.424	35.0		

因子抽出法: 主成分分析 回転法: Kaiser の正規化を伴わないプロマックス法  
a 21 回の反復で回転が収束しました。

【図表－ 30 (1)】 地域資源に関する認知者数と認知度格差



【図表－ 30 (2)】 地域資源に関する認知者数と認知度格差 (前回調査)



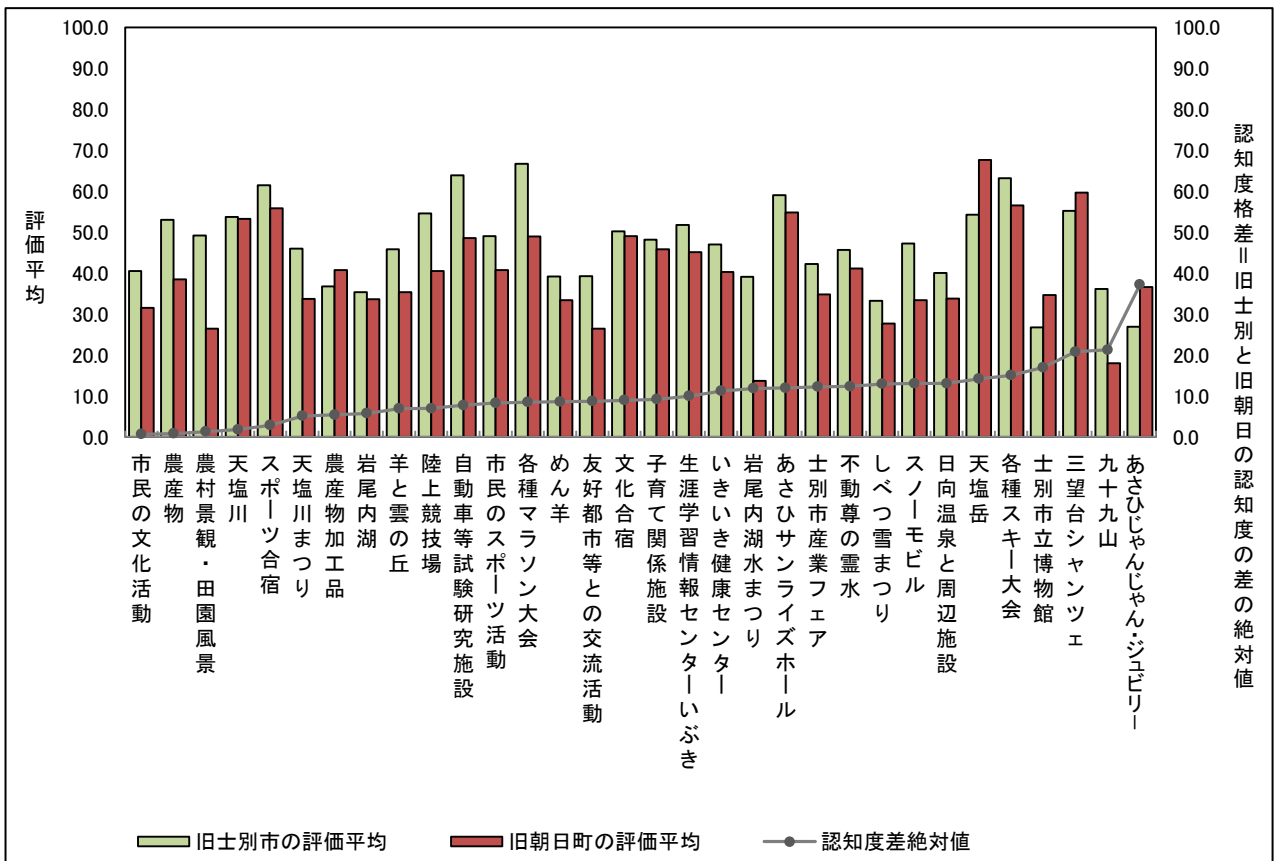
前回は旧士別、旧朝日両地区住民間における地域資源に関する認知の偏りがあった。そこで、今回も前回同様、その認知の偏りの度合いを「認知度格差」として指標化し、認知者数（その地域資源をどの程度の人数が認知しているか）や両地区別の評価平均と重ねてみることにした。【図表-30(1)】

認知度格差は、選択肢の1から4まで（つまり知っていて評価ができる）を選んだ旧士別、旧朝日両地区の人数の差（絶対値）で示している。認知度格差の小さい項目は、両地区で共通に認知されていることを示しているが、その一方で、認知している人数（認知者数）が多いか少ないかという観点も重要である。そこで、認知度格差が小さくて認知者数が多い項目ほど、現時点での普遍性があるともいえる。

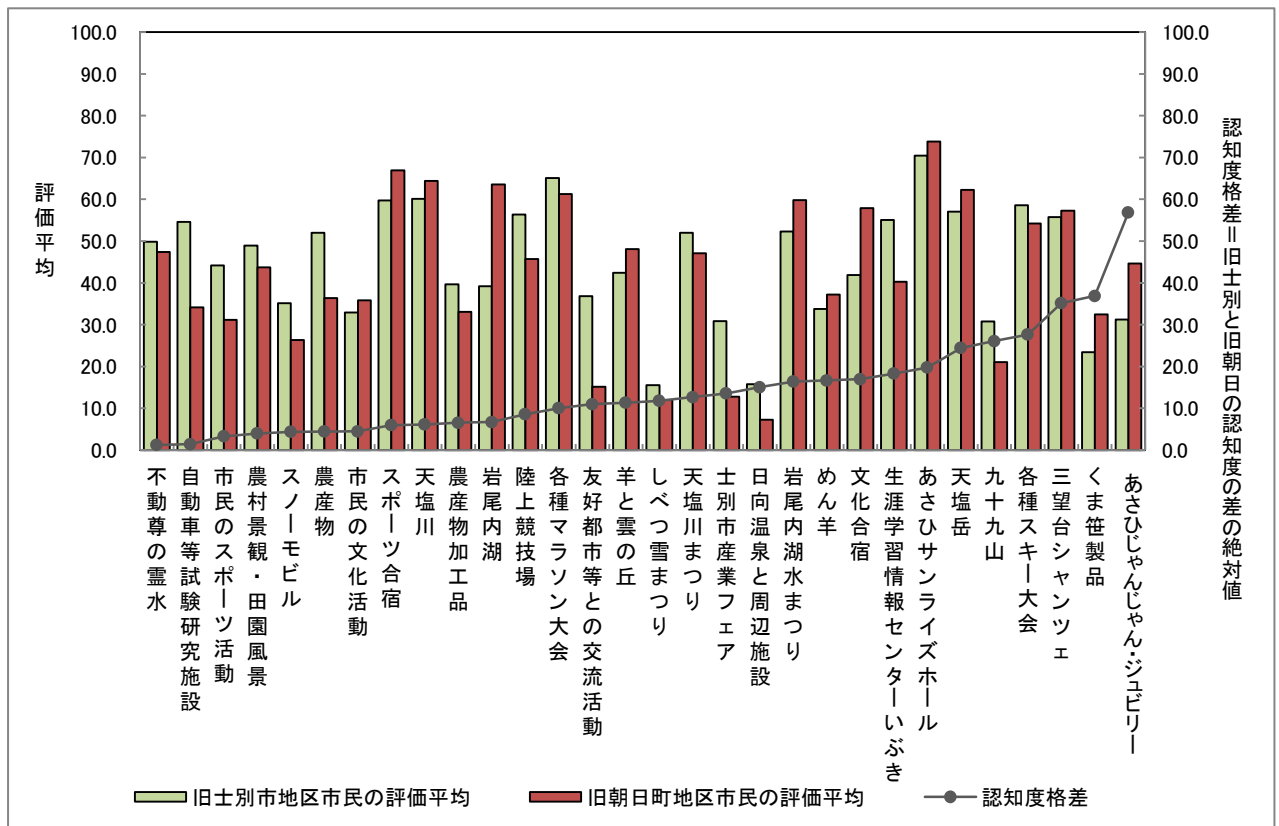
【図表-30(1)】から、農産物、農村景観、天塩川まつり、羊と雲の丘、各種マラソン大会、めん羊などが、認知度格差が小さくて認知者数も多い地域資源であることがわかる。また【図表-31(1)】からは、天塩川、スポーツ合宿などが、認知度格差が小さくて両地区とも評価が高い地域資源であることが分かる。

前回と比較すると、認知度差に順序の入れ替わりがみられ、「羊と雲の丘」や「めん羊」の認知度差が縮まっていることが分かる。

【図表-31(1)】地域資源に関する地区別の評価平均と認知度格差



【図表-31 (2)】地域資源に関する地区別の評価平均と認知度格差 (前回調査)



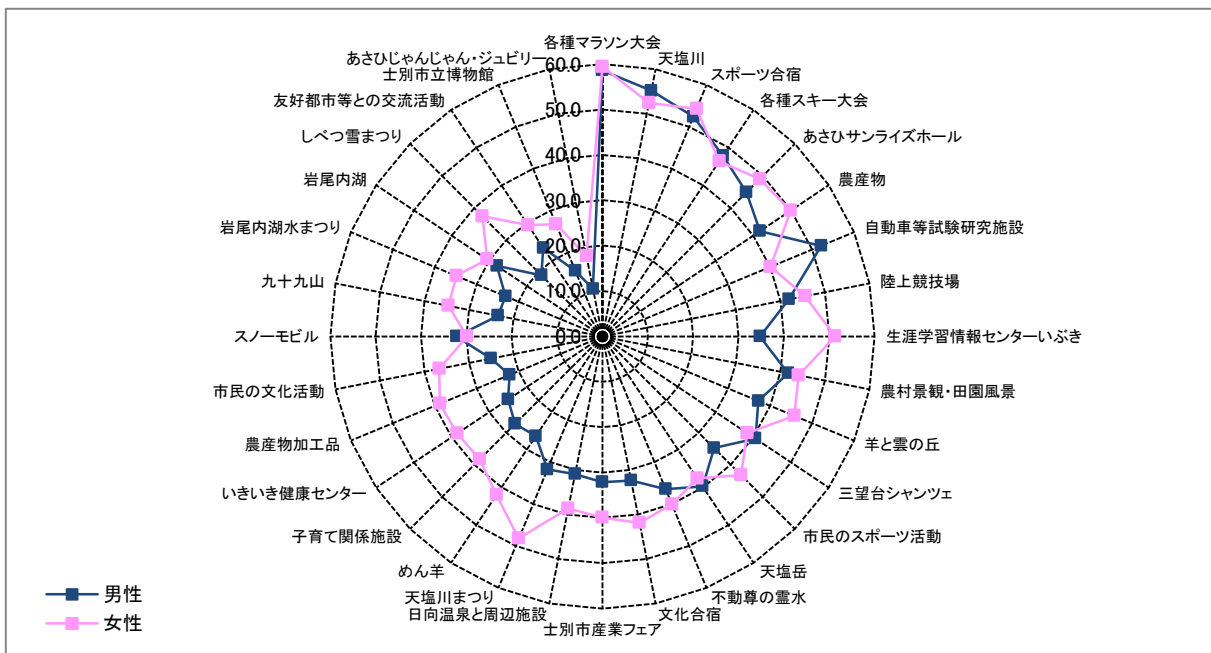
### ①性別による地域資源評価

地域資源に関する評価（加重平均）を性別で見ると、全体として女性の方が評価の高い傾向がある。しかし、個別には男性の方が高い項目もあり、天塩川や各種スキー大会、天塩岳、自動車等試験研究施設、スノーモビルなど、自然やスポーツについては男性の評価が高い。

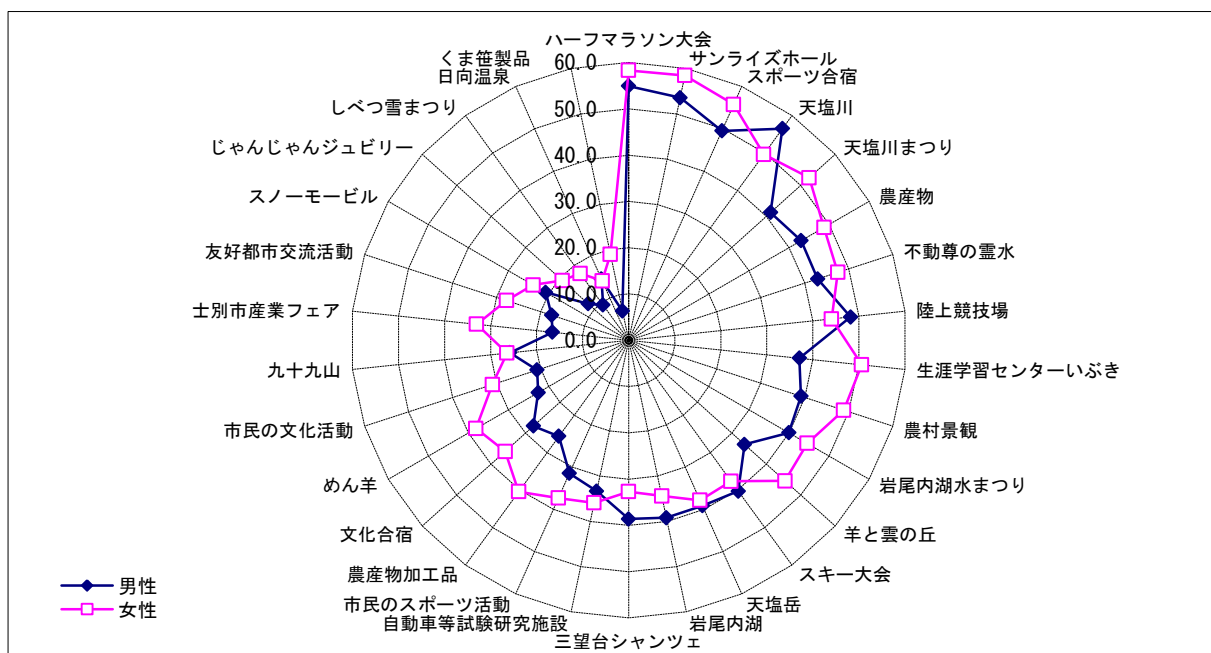
反対に、女性の方が高い評価を示している項目は、天塩川まつり、しべつ雪まつり、生涯学習センター、農産物、農産加工品などで、まつりや農産物関連が目立つ。

前回と比較すると、全体的に男性女性ともに評価が上がっているが、特に女性の評価が上がっていることがわかる。

【図表— 32 (1)】性別による地域資源評価（平均値）



【図表— 32 (2)】性別による地域資源評価（平均値）（前回調査）

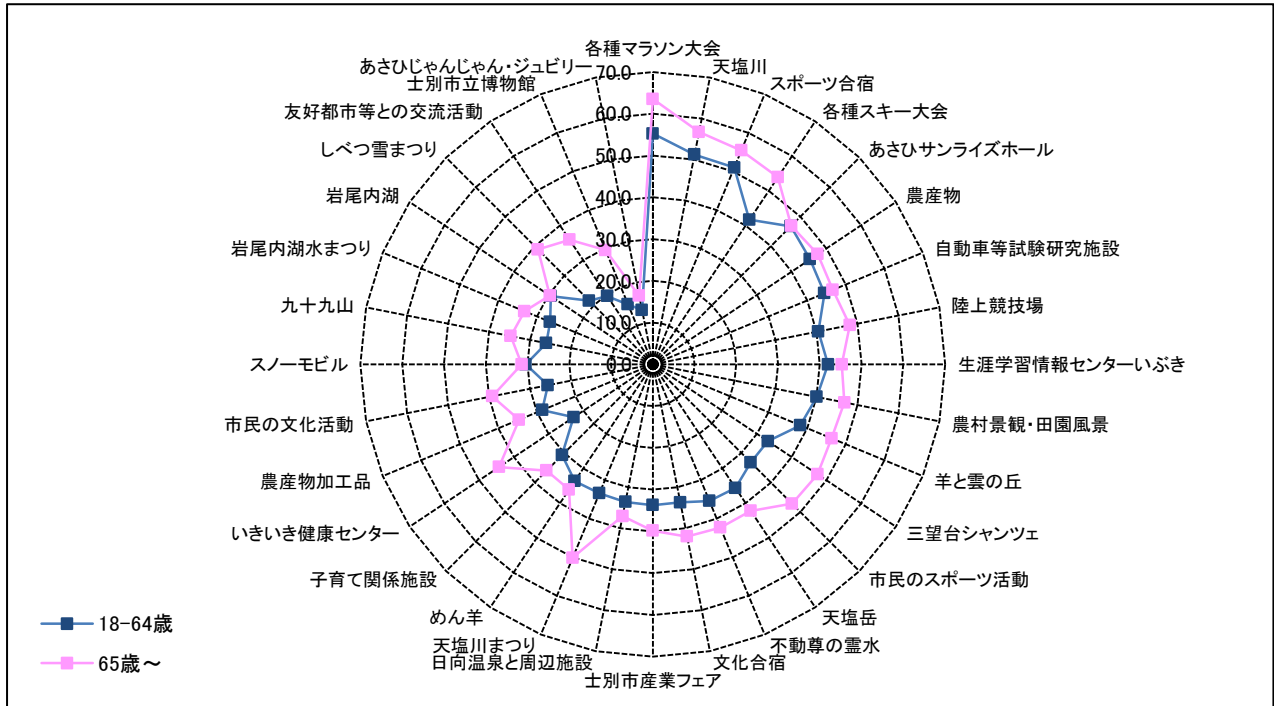


## ②年齢別による地域資源評価

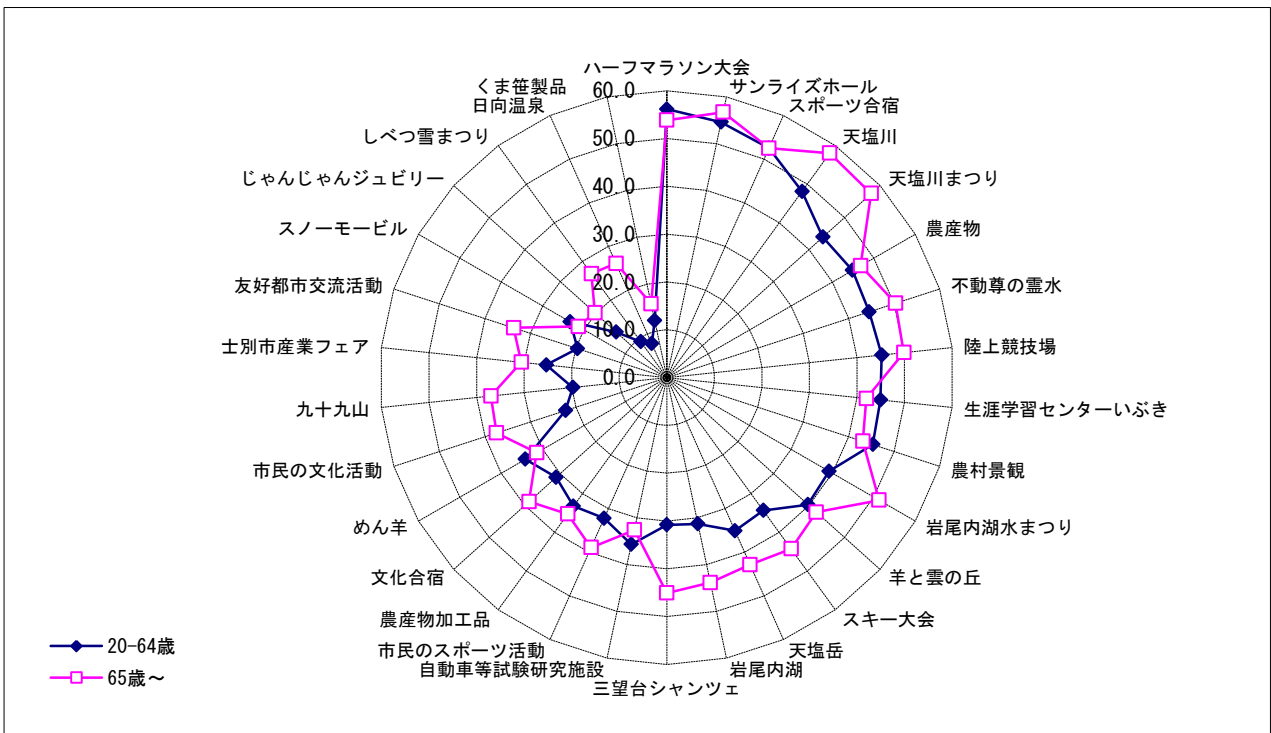
高齢化（65歳以上とする）に伴う地域資源評価への影響を見るため、年齢階層を65歳未満（18歳以上）と65歳以上に区分して、地域資源に関する評価も違いを見た。すべての地域資源で65歳以上の方が評価は高い傾向を示し、特に各種マラソン大会、各種スキー大会、陸上競技場、市民のスポーツ活動などで、評価が高い傾向にある。

前回と比較すると、全体的に65歳以上の評価が上がっていることがわかる。しかし、岩尾内湖や岩尾内湖水まつりなどは評価が大きく下がっている。

【図表-33 (1)】年齢別の地域資源評価（平均値）



【図表-33 (2)】年齢別の地域資源評価（平均値）（前回調査）





### ③地区別による地域資源評価

地区によって、地域資源の評価にはばらつきが多い。

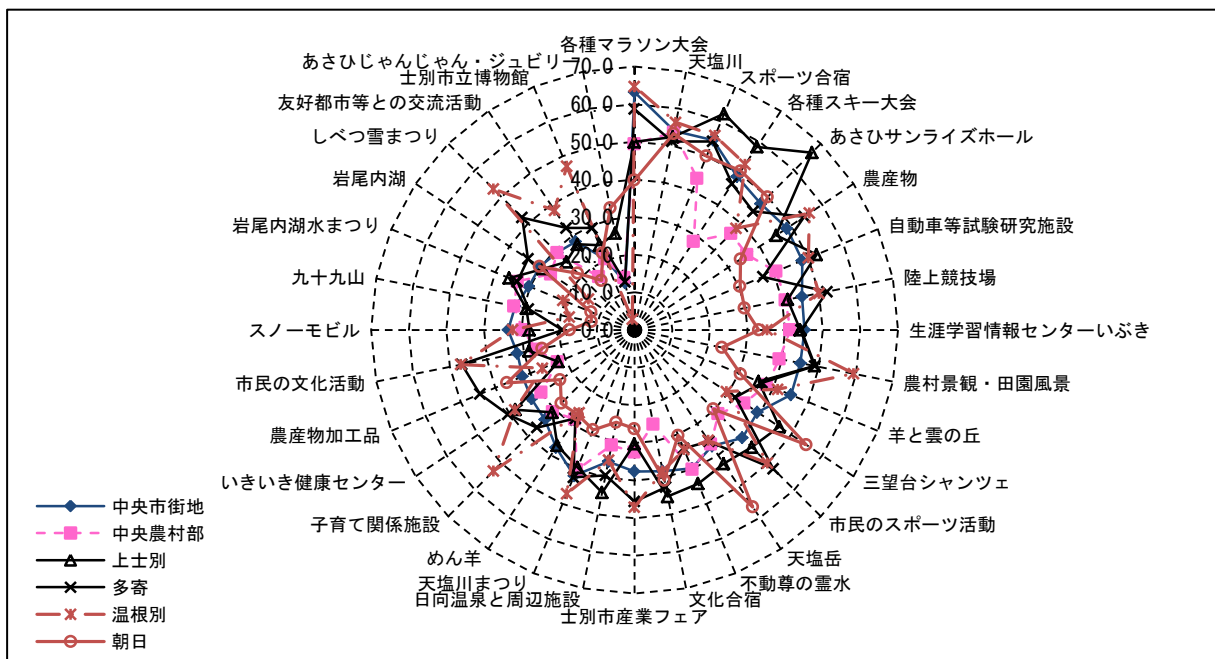
中央農村部では、九十九山の評価は他地区よりも高いが、スポーツ合宿や各種スキー大会、文化合宿などの評価は他地域よりも低い。

温根別地区では、農村景観、子育て関係施設、しべつ雪まつり、士別市立博物館の評価が際立って高い。朝日地区では、三望台シャンツェ、天塩岳の評価が高い。

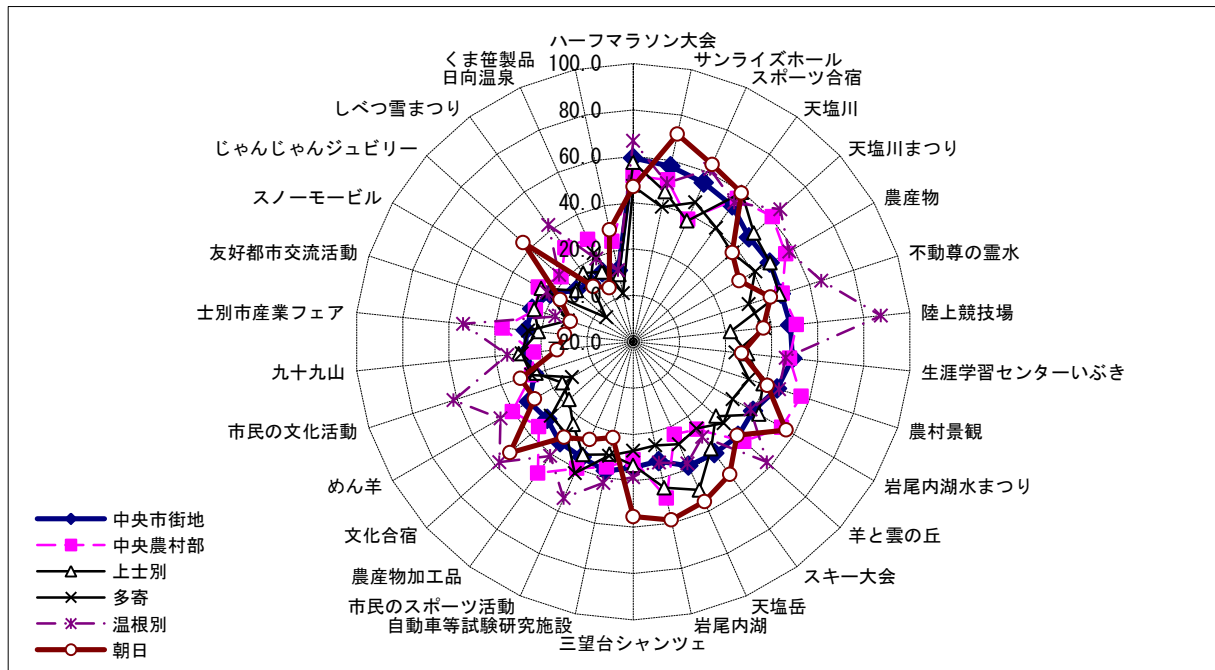
上士別地区では、スポーツ合宿、各種スキー大会、あさひサンライズホールなどの評価が高い。

前回と比較すると、地区別の地域資源の評価の差はばらつきがあるものの、その差は縮まってきている。また、前回では温根別地区で90ポイント近くと評価が高かった陸上競技場が今回は50ポイント程度の評価となっている。

【図表— 34 (1)】地区別の地域資源評価（平均値）



【図表—34 (2)】地区別の地域資源評価（平均値）（前回調査）



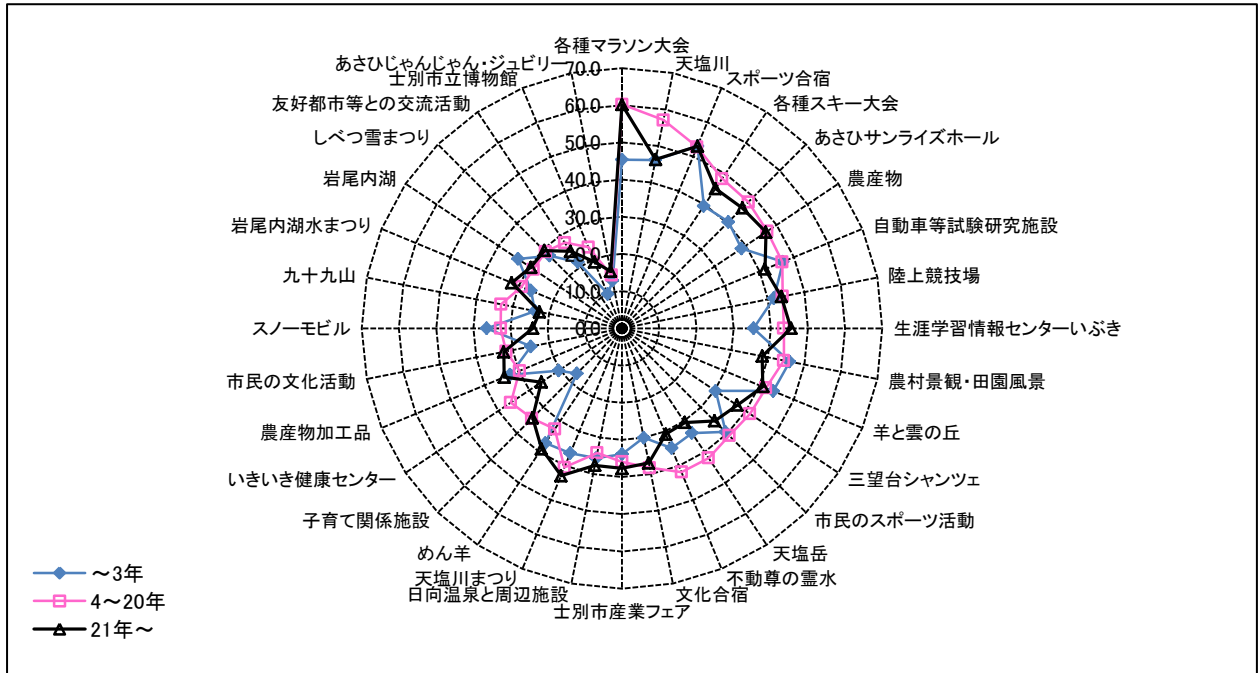
#### ④居住年数別地域資源の評価

居住歴による評価には大きな相違はない。居住歴3年以下では農村景観、羊と雲の丘、スノーモビル、岩尾内湖の評価が居住歴4年以上より高い。

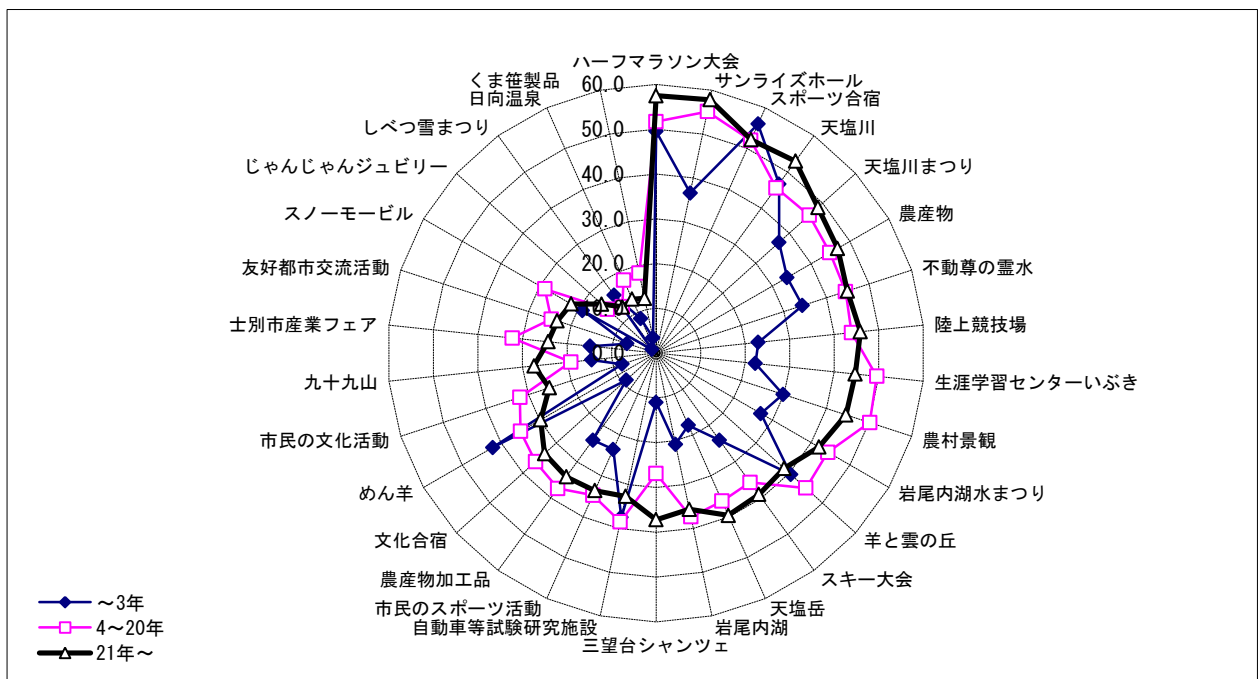
居住歴21年以上では農産加工品、めん羊、天塩川まつり、生涯学習情報センターいぶきなどが居住歴20年以下より高い。

前回と比較すると、居住歴3年以下の評価が全体に大きく上昇していることが分かる。

【図表-35 (1)】居住年数別の地域資源評価（平均値）



【図表-35 (2)】居住年数別の地域資源評価（平均値）（前回調査）



## 2-3. 市民生活やまちづくりに関する満足度

【問 3】 あなたは、現在の市民生活やまちづくりにどの程度満足していますか。次の項目ごとに 1～5の中から一つだけ選んで、番号を○で囲んでください。

### (1) 住まいや住居環境

#### a. 単純集計（回答者全体）

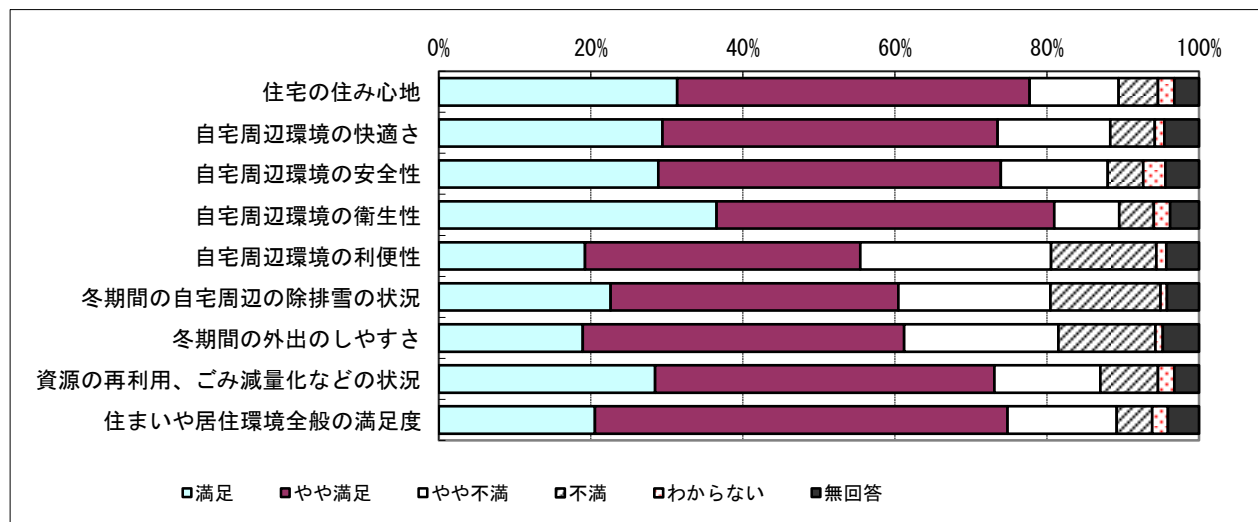
【図表- 36】 回答数（実数）

		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
Q3.1.1	住宅の住み心地	290	429	108	48	20	30
Q3.1.2	自宅周辺環境の快適性	272	408	137	54	12	42
Q3.1.3	自宅周辺環境の安全性	267	417	130	43	27	41
Q3.1.4	自宅周辺環境の衛生性	338	411	79	42	20	35
Q3.1.5	自宅周辺環境の利便性	178	335	232	128	12	40
Q3.1.6	冬期間の自宅周辺の除排雪の環境	209	350	185	134	8	39
Q3.1.7	冬期間の外出のしやすさ	175	391	188	118	9	44
Q3.1.8	ゴミ処理やリサイクルなどの方法	263	413	129	70	20	30
Q3.1.9	住まいや居住環境全般の満足度	190	502	133	43	19	38

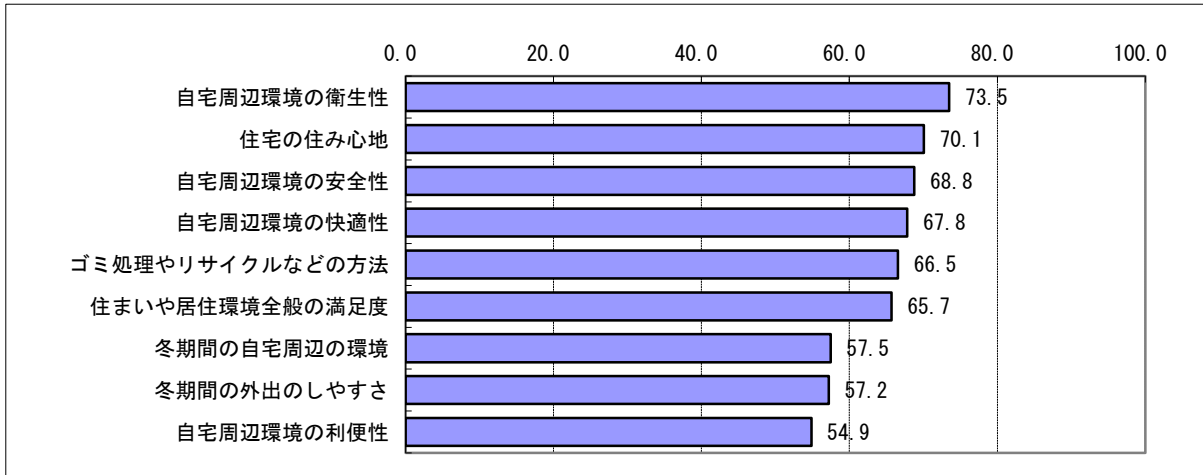
【図表- 37】 構成比（%）

		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
Q3.1.1	住宅の住み心地	31.4	46.4	11.7	5.2	2.2	3.2
Q3.1.2	自宅周辺環境の快適性	29.4	44.1	14.8	5.8	1.3	4.5
Q3.1.3	自宅周辺環境の安全性	28.9	45.1	14.1	4.6	2.9	4.4
Q3.1.4	自宅周辺環境の衛生性	36.5	44.4	8.5	4.5	2.2	3.8
Q3.1.5	自宅周辺環境の利便性	19.2	36.2	25.1	13.8	1.3	4.3
Q3.1.6	冬期間の自宅周辺の除排雪の環境	22.6	37.8	20.0	14.5	0.9	4.2
Q3.1.7	冬期間の外出のしやすさ	18.9	42.3	20.3	12.8	1.0	4.8
Q3.1.8	ゴミ処理やリサイクルなどの方法	28.4	44.6	13.9	7.6	2.2	3.2
Q3.1.9	住まいや居住環境全般の満足度	20.5	54.3	14.4	4.6	2.1	4.1

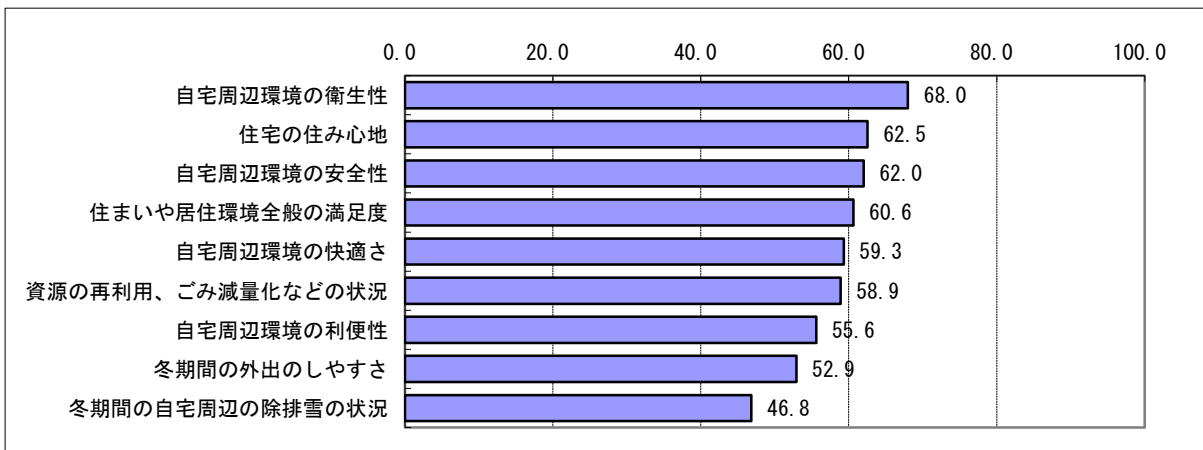
【図表- 38】 図表 37 のグラフ化



【図表－ 39(1)】 住まいや居住環境の満足度の平均

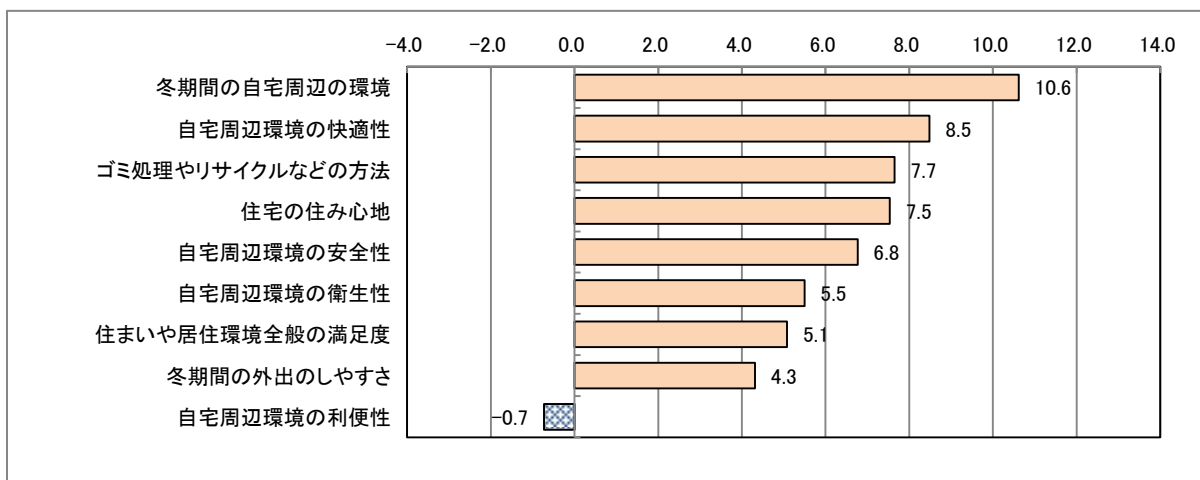


【図表－39(2)】 住まいや居住環境の満足度の平均（前回調査）



※平均値は次の重み付けで算出：「満足」=100、「やや満足」=67、「やや不満」=33、「不満」=0。  
平均値を算出する分母は、上記4つの選択肢のいずれかを選択した人の総数。

【図表－ 40】 住まいや居住環境の満足度の平均 前回との比較



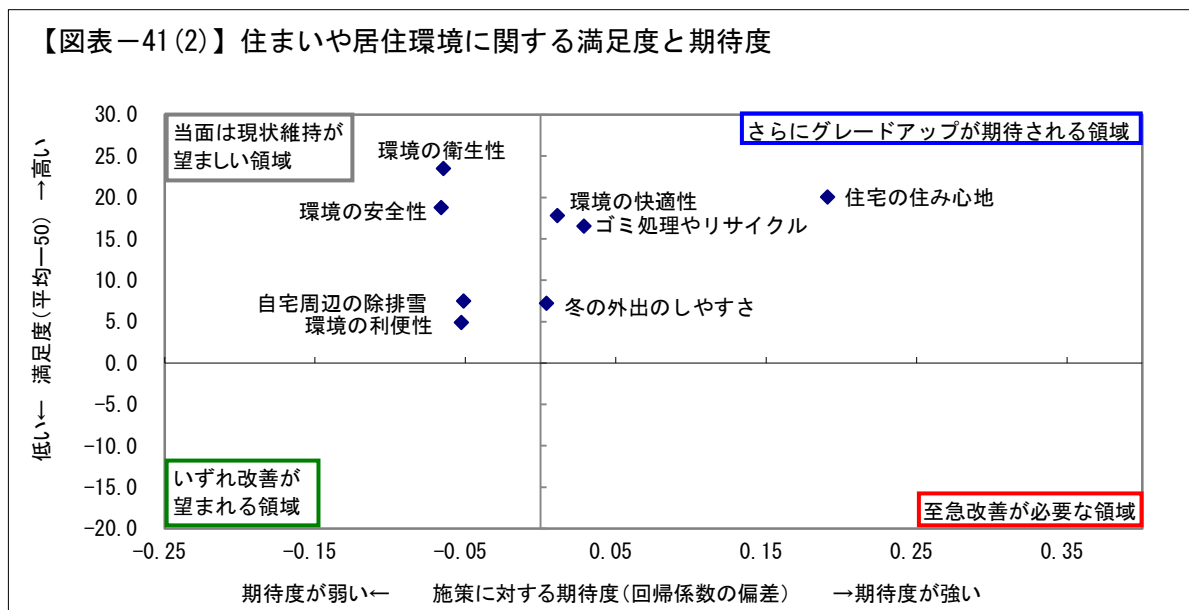
**b. 最適化指標（回答者全体）**

【図表－41（1）】重回帰分析の結果

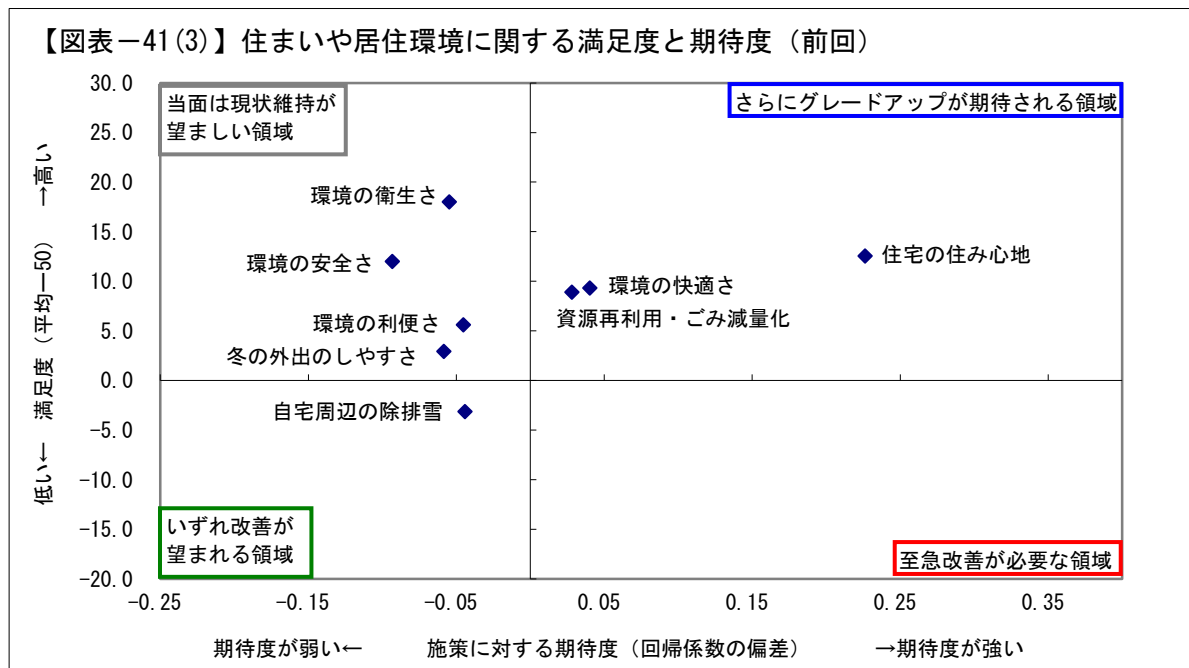
	R		調整済み R2 乗		推定値の標準誤差				
	0.788		0.621		0.617				
	非標準化係数		標準化係数		t 値	有意確率	満足度の 平均値	重視度 $\beta$ の偏差	満足度 平均-50
B	標準誤差	$\beta$							
(定数)	2.542	1.992			1.276	0.202			
Q3.1.1 住宅の住み心地	0.304	0.026	0.33		11.904	0.000	70.1	0.19	20.1
Q3.1.2 自宅周辺環境の快適性	0.131	0.028	0.15		4.629	0.000	67.8	0.01	17.8
Q3.1.3 自宅周辺環境の安全性	0.066	0.029	0.07		2.255	0.024	68.8	-0.07	18.8
Q3.1.4 自宅周辺環境の衛生性	0.069	0.029	0.07		2.415	0.016	73.5	-0.06	23.5
Q3.1.5 自宅周辺環境の利便性	0.065	0.022	0.08		2.959	0.003	54.9	-0.05	4.9
Q3.1.6 冬期間の自宅周辺の除排雪の環境	0.064	0.021	0.09		3.057	0.002	57.5	-0.05	7.5
Q3.1.7 冬期間の外出のしやすさ	0.113	0.025	0.14		4.584	0.000	57.2	0.00	7.2
Q3.1.8 ゴミ処理やリサイクルなどの方法	0.142	0.024	0.17		6.009	0.000	66.5	0.03	16.5

従属変数：Q3.1.9：住まいや居住環境全般の満足度

【図表－41（2）】住まいや居住環境に関する満足度と期待度



【図表－41（3）】住まいや居住環境に関する満足度と期待度（前回）



### c. 最適化指標（地区別）

【図表－ 42】地区別の最適化指標（係数）

		中央市街地		中央農村部		上士別		多寄		温根別		朝日	
		重視度	満足度	重視度	満足度	重視度	満足度	重視度	満足度	重視度	満足度	重視度	満足度
		$\beta$ の偏差	平均-50	$\beta$ の偏差	平均-50	$\beta$ の偏差	平均-50	$\beta$ の偏差	平均-50	$\beta$ の偏差	平均-50	$\beta$ の偏差	平均-50
Q3.1.1	住宅の住み心地	0.19	21.6	0.05	18.5	0.32	15.3	0.53	16.0		14.8	0.10	19.0
Q3.1.2	自宅周辺環境の快適性	0.00	18.2	-0.03	12.6	-0.12	20.1	-0.02	22.7	0.24	24.6	0.09	19.5
Q3.1.3	自宅周辺環境の安全性	-0.07	19.4	-0.05	12.6	-0.23	21.6	-0.19	24.8	0.09	22.6	-0.07	17.4
Q3.1.4	自宅周辺環境の衛生性	-0.07	26.0	-0.15	16.5	-0.10	16.0	0.08	16.8	-0.32	20.6	0.13	24.3
Q3.1.5	自宅周辺環境の利便性	-0.02	9.4	0.09	-1.3	-0.03	-1.9	-0.23	-1.5	-0.05	-6.9	0.05	-13.2
Q3.1.6	自宅周辺の除排雪の状況	-0.08	5.0	0.01	11.8	0.15	16.0	0.20	16.0	0.07	22.7	-0.09	9.4
Q3.1.7	冬期間の外出のしやすさ	0.04	7.8	-0.11	7.2	-0.11	10.1	-0.42	7.9	0.30	9.0	-0.09	0.9
Q3.1.8	ゴミ処理リサイクルなどの方法	0.01	18.0	0.19	11.1	0.11	10.3	0.05	17.5	-0.32	10.9	-0.12	20.8

【図表－ 43 (1)】地区別の最適化指標（類型）

		最適化指標						
		居住地区別						市全体
		中央市街地	中央農村部	上士別	多寄	温根別	朝日	
Q3.1.1	住宅の住み心地	I	I	I	I		I	I
Q3.1.2	自宅周辺環境の快適性	I	II	II	II	I	I	I
Q3.1.3	自宅周辺環境の安全性	II	II	II	II	I	II	II
Q3.1.4	自宅周辺環境の衛生性	II	II	II	I	II	I	II
Q3.1.5	自宅周辺環境の利便性	II	IV	III	III	III	IV	II
Q3.1.6	自宅周辺の除排雪の状況	II	I	I	I	I	II	II
Q3.1.7	冬期間の外出のしやすさ	I	II	II	II	I	II	I
Q3.1.8	ゴミ処理リサイクルなどの方法	I	I	I	I	II	II	I

従属変数：Q3.1.9：住まいや居住環境全般の満足度

※凡例

I	さらにグレードアップが期待される領域
II	当面は現状維持が望ましい領域
III	いずれ改善が望まれる領域
IV	至急改善が必要な領域
	(指標が算出されなかった項目)

【図表－43 (2)】地区別の最適化指標（類型）（前回調査）

		最適化指標						
		居住地区別						市全体
		中央市街地	中央農村部	上士別	多寄	温根別	朝日	
Q3.1.1	住宅の住み心地	I	I	I	I	I	I	I
Q3.1.2	自宅周辺環境の快適さ	I	I	I	II	II	II	I
Q3.1.3	自宅周辺環境の安全性	II	II	II	II	I	I	II
Q3.1.4	自宅周辺環境の衛生性	II	I	II	II	II	II	II
Q3.1.5	自宅周辺環境の利便性	II	II	I	III	III	III	II
Q3.1.6	冬期間の自宅周辺の除排雪の状況	III	II	III	IV	I	IV	III
Q3.1.7	冬期間の外出のしやすさ	II	I	I	III	II	III	II
Q3.1.8	資源の再利用、ごみ減量化などの状況	I	I	IV	IV	I	I	I

「住まいや居住環境」に関する士別市全体と地区別の最適化指標について、4つの領域のうち特に《Ⅰ：さらにグレードアップが期待される領域》と《Ⅳ：至急改善が必要な領域》に注目して整理する。

市全体としては、「住宅の住み心地」「自宅周辺環境の快適性」「冬期間の外出のしやすさ」「ゴミ処理リサイクルなどの方法」は、《Ⅰ：さらにグレードアップが期待される領域》とされる。特に、「住宅の住み心地」は温根別を除く地区において同様の領域となっている。「ゴミ処理リサイクルなどの方法」も、温根別、朝日地区以外の全ての属性において同様の領域となっている。しかし、「自宅周辺環境の利便性」に関しては、地区によって大きく異なる最適化指標となっている。また、この項目について全体を見ても《Ⅲ：いずれは改善が望まれる領域》と《Ⅳ：至急改善が必要な領域》がある唯一の項目となっているため、今後も大きな関心を集める政策課題であることを示したものといえる。地区別に見ると、中央市街地以外は、《Ⅲ：いずれは改善が望まれる領域》以上の領域となっており、特に中央農村部、朝日地区は《Ⅳ：至急改善が必要な領域》となっている。

前回と比較すると、市全体として最適化指標が上がっているものではなく、冬期間の自宅周辺の除排雪の状況が《Ⅲ：いずれは改善が望まれる領域》から《Ⅱ：当面は現状維持が望ましい領域》となっている。また、冬期間の外出のしやすさも《Ⅱ：当面は現状維持が望ましい領域》から《Ⅰ：さらにグレードアップが期待される領域》となっている。地区別にみると、前回ではゴミ処理関連で《Ⅳ：至急改善が必要な領域》となっていた上士別、多寄地区が《Ⅰ：さらにグレードアップが期待される領域》となっている。また、冬期間の自宅周辺の除排雪の状況で《Ⅳ：至急改善が必要な領域》となっていた多寄、朝日地区が《Ⅰ：さらにグレードアップが期待される領域》と《Ⅱ：当面は現状維持が望ましい領域》となっている。しかし、自宅周辺環境の利便性は前回では《Ⅱ：当面は現状維持が望ましい領域》と《Ⅲ：いずれは改善が望まれる領域》だった中央農村部と朝日地区が《Ⅳ：至急改善が必要な領域》となっている。

## (2) 余暇

### a. 単純集計 (回答者全体)

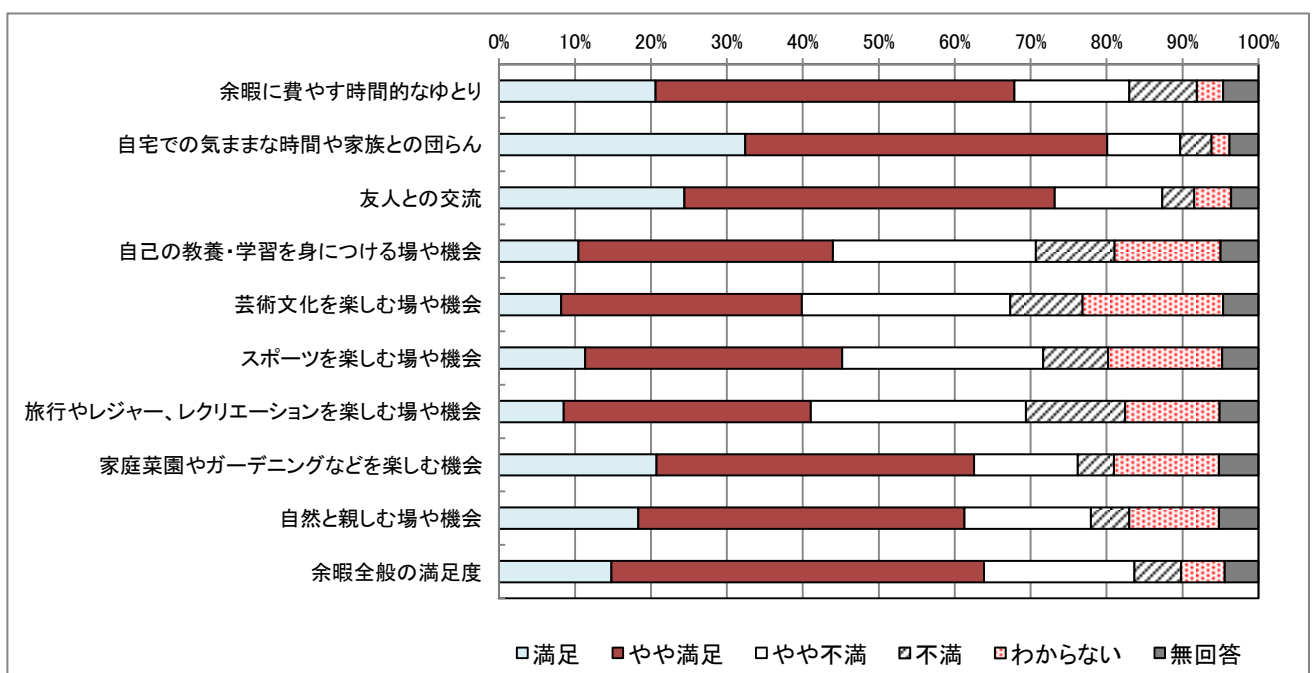
【図表－ 44】 回答数 (実数)

	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
Q3.2.1 余暇に費やす時間的なゆとり	191	437	140	82	32	43
Q3.2.2 自宅での気ままな時間や家族との団らん	300	441	89	38	22	35
Q3.2.3 友人との交流	226	451	131	39	45	33
Q3.2.4 自己の教養・学習を身につける場や機会	97	310	247	96	129	46
Q3.2.5 芸術文化を楽しむ場や機会	76	293	254	88	171	43
Q3.2.6 スポーツを楽しむ場や機会	105	313	245	79	139	44
Q3.2.7 旅行やレジャー、レクリエーションを楽しむ場や機会	79	301	262	121	115	47
Q3.2.8 家庭菜園やガーデニングなどを楽しむ機会	192	387	126	44	128	48
Q3.2.9 自然と親しむ場や機会	170	397	154	47	109	48
Q3.2.10 余暇全般の満足度	137	454	183	57	53	41

【図表－ 45】 構成比 (%)

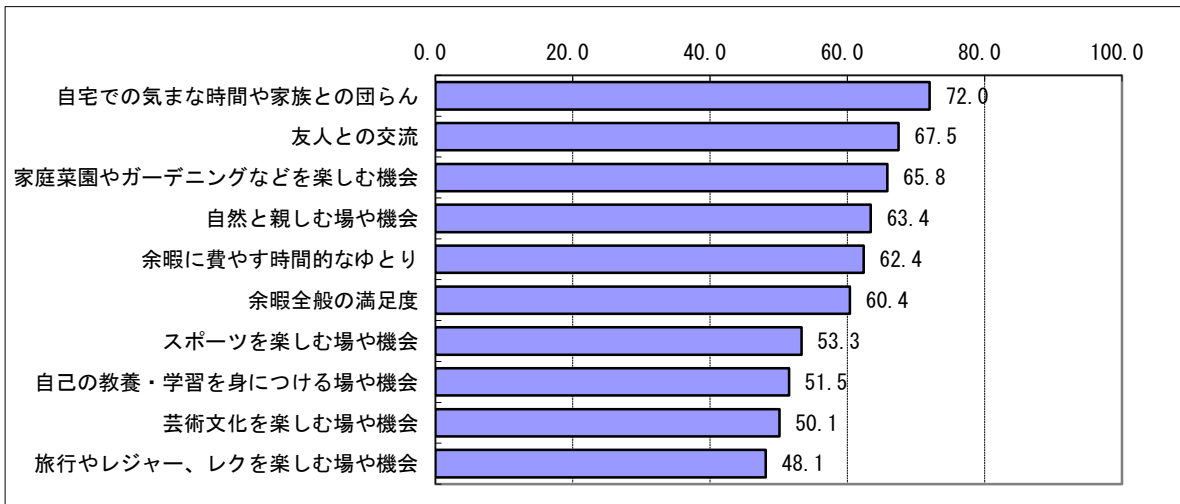
	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
Q3.2.1 余暇に費やす時間的なゆとり	20.6	47.2	15.1	8.9	3.5	4.6
Q3.2.2 自宅での気ままな時間や家族との団らん	32.4	47.7	9.6	4.1	2.4	3.8
Q3.2.3 友人との交流	24.4	48.8	14.2	4.2	4.9	3.6
Q3.2.4 自己の教養・学習を身につける場や機会	10.5	33.5	26.7	10.4	13.9	5.0
Q3.2.5 芸術文化を楽しむ場や機会	8.2	31.7	27.5	9.5	18.5	4.6
Q3.2.6 スポーツを楽しむ場や機会	11.4	33.8	26.5	8.5	15.0	4.8
Q3.2.7 旅行やレジャー、レクリエーションを楽しむ場や機会	8.5	32.5	28.3	13.1	12.4	5.1
Q3.2.8 家庭菜園やガーデニングなどを楽しむ機会	20.8	41.8	13.6	4.8	13.8	5.2
Q3.2.9 自然と親しむ場や機会	18.4	42.9	16.6	5.1	11.8	5.2
Q3.2.10 余暇全般の満足度	14.8	49.1	19.8	6.2	5.7	4.4

【図表－ 46】 図表 45 のグラフ化

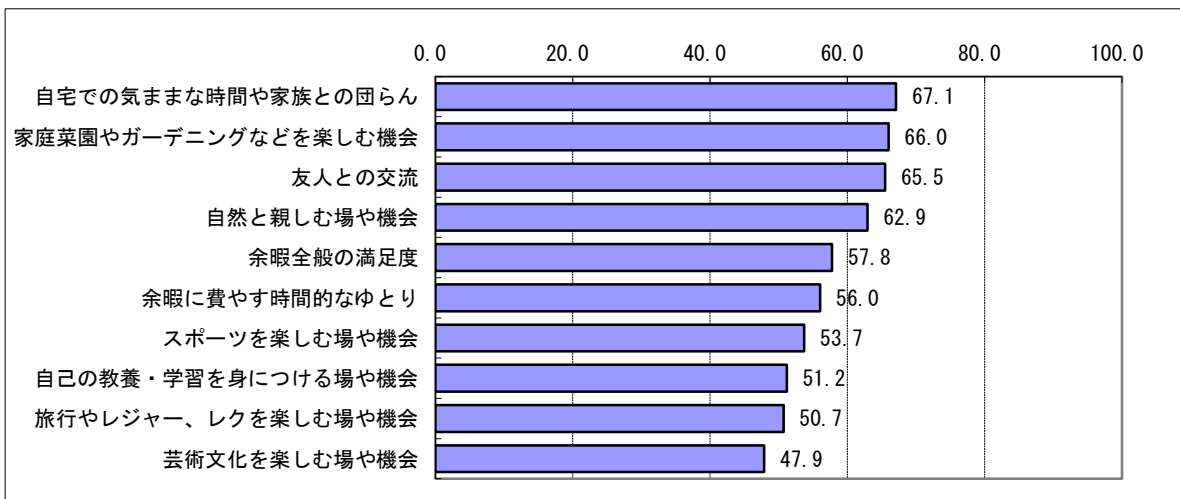




【図表－ 47(1)】 余暇の満足度の平均

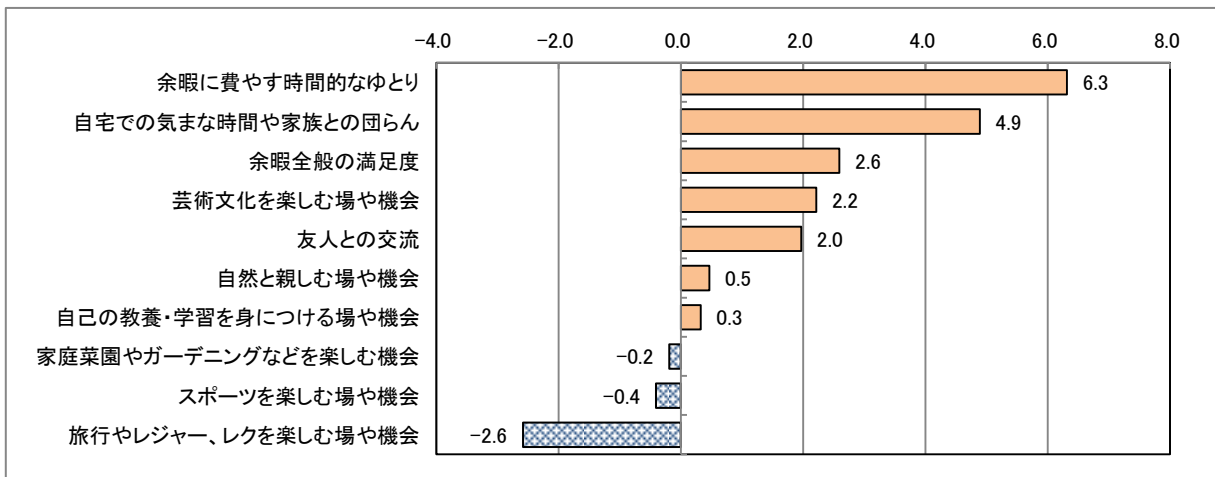


【図表－47(2)】 余暇の満足度の平均（前回調査）



※平均値は次の重み付けで算出：「満足」=100、「やや満足」=67、「やや不満」=33、「不満」=0。  
平均値を算出する分母は、上記4つの選択肢のいずれかを選択した人の総数。

【図表－ 48】 余暇の満足度の平均 前回との比較



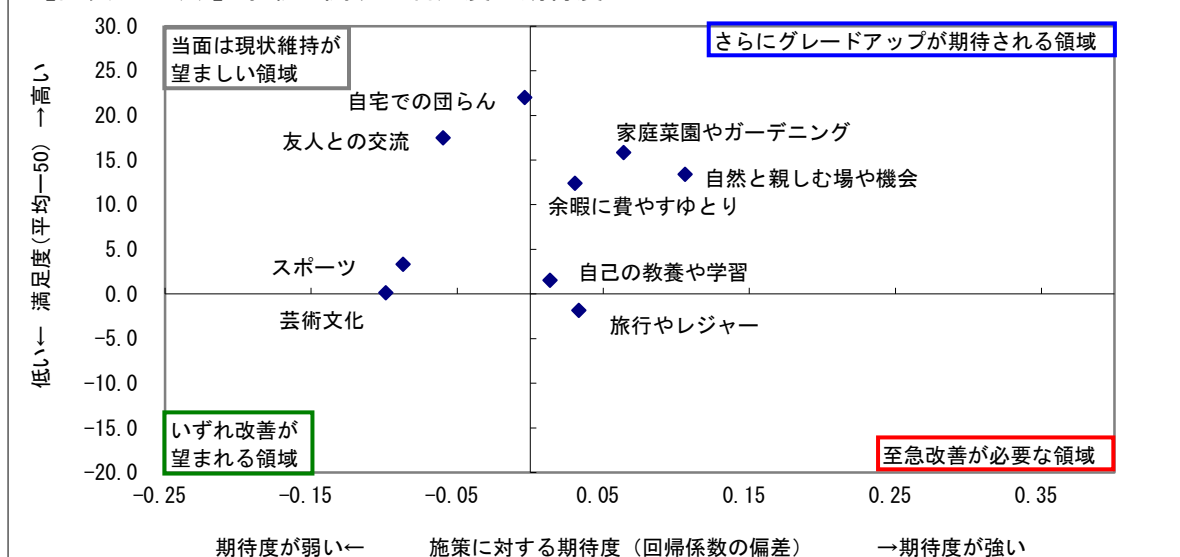
## b. 最適化指標（回答者全体）

【図表－49（1）】重回帰分析の結果

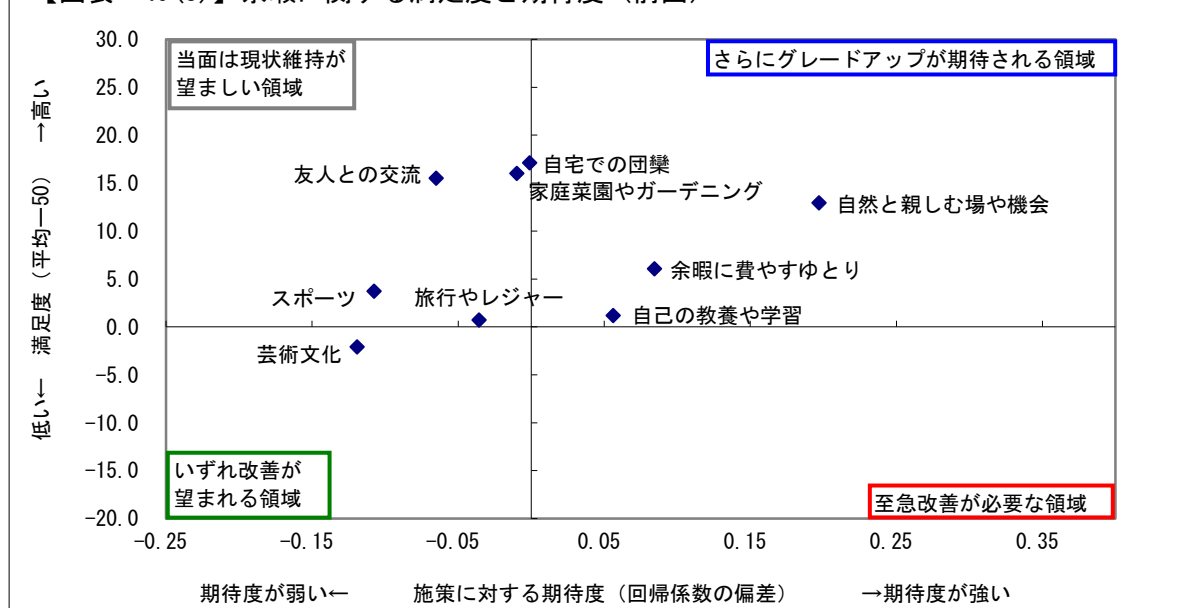
(定数)	R		調整済み R2 乗		推定値の標準誤差		t 値	有意確率	満足度の平均値	重視度 $\beta$ の偏差	満足度 平均-50
	B	標準誤差	$\beta$								
		0.837	0.701	0.696							
(定数)	-1.057	2.008			-0.526	0.599					
Q3.2.1 余暇に費やす時間的なゆとり	0.135	0.032	0.15		4.233	0.000	62.4	0.03	12.4		
Q3.2.2 自宅での気ままな時間や家族との団らん	0.120	0.037	0.11		3.205	0.001	72.0	0.00	22.0		
Q3.2.3 友人との交流	0.059	0.034	0.06		1.744	0.082	67.5	-0.06	17.5		
Q3.2.4 自己の教養・学習を身につける場や機会	0.120	0.037	0.13		3.244	0.001	51.5	0.01	1.5		
Q3.2.5 芸術文化を楽しむ場や機会	0.018	0.040	0.02		0.441	0.660	50.1	-0.10	0.1		
Q3.2.6 スポーツを楽しむ場や機会	0.029	0.038	0.03		0.760	0.448	53.3	-0.09	3.3		
Q3.2.7 旅行やレジャー、レクを楽しむ場や機会	0.136	0.033	0.15		4.150	0.000	48.1	0.03	-1.9		
Q3.2.8 家庭菜園やガーデニングなどを楽しむ機会	0.175	0.037	0.18		4.673	0.000	65.8	0.06	15.8		
Q3.2.9 自然と親しむ場や機会	0.220	0.037	0.22		5.948	0.000	63.4	0.11	13.4		

従属変数：Q3.2.10：余暇全般の満足度

【図表－49（2）】余暇に関する満足度と期待度



【図表－49（3）】余暇に関する満足度と期待度（前回）



c. 最適化指標（地区別）

【図表－ 50】地区別の最適化指標（係数）

	中央市街地		中央農村部		上士別		多寄		温根別		朝日	
	重視度	満足度	重視度	満足度	重視度	満足度	重視度	満足度	重視度	満足度	重視度	満足度
	βの偏差	平均-50	βの偏差	平均-50	βの偏差	平均-50	βの偏差	平均-50	βの偏差	平均-50	βの偏差	平均-50
Q3.2.1 余暇に費やす時間的なゆとり	0.05	12.7	0.01	11.0	0.03	11.2	0.03	12.4	0.82	18.8	0.13	11.1
Q3.2.2 自宅での気ままな時間や家族との団らん	-0.04	22.7	-0.07	20.5	0.23	19.2	-0.61	20.5		30.5	0.06	18.6
Q3.2.3 友人との交流	-0.07	18.7	-0.04	13.9	-0.06	12.7	0.38	16.8		18.7	-0.10	14.5
Q3.2.4 自己の教養・学習を身につける場や機会	0.08	1.9	-0.23	-2.1	-0.24	2.4	-0.56	3.8		7.8	0.12	-0.6
Q3.2.5 芸術文化を楽しむ場や機会	-0.17	-0.3	0.02	-0.4	0.11	-2.4	0.41	3.8	0.64	3.8	0.32	2.5
Q3.2.6 スポーツを楽しむ場や機会	-0.06	4.0	0.13	0.4	-0.26	3.9	0.21	5.6	-1.46	5.6	-0.48	-2.0
Q3.2.7 旅行やレジャー、レクを楽しむ場や機会	0.03	-2.4	-0.02	1.3	0.04	-3.2	-0.28	-1.2		4.3	-0.13	-6.0
Q3.2.8 家庭菜園やガーデニングなどを楽しむ機会	0.06	14.5	0.04	18.0	0.00	20.4	0.14	15.2		24.6	-0.32	18.2
Q3.2.9 自然と親しむ場や機会	0.11	11.8	0.16	16.8	0.17	12.5	0.28	15.9		22.6	0.39	20.3



【図表－ 51 (1)】地区別の最適化指標（類型）

	最適化指標							市全体
	居住地区別							
	中央市街地	中央農村部	上士別	多寄	温根別	朝日		
Q3.2.1 余暇に費やす時間的なゆとり	I	I	I	I	I	I	I	
Q3.2.2 自宅での気ままな時間や家族との団らん	II	II	I	II		I	I	
Q3.2.3 友人との交流	II	II	II	I		II	II	
Q3.2.4 自己の教養・学習を身につける場や機会	I	III	II	II		IV	I	
Q3.2.5 芸術文化を楽しむ場や機会	III	IV	IV	I	I	I	II	
Q3.2.6 スポーツを楽しむ場や機会	II	I	II	I	II	III	II	
Q3.2.7 旅行やレジャー、レクを楽しむ場や機会	IV	II	IV	III		III	IV	
Q3.2.8 家庭菜園やガーデニングなどを楽しむ機会	I	I	I	I		II	I	
Q3.2.9 自然と親しむ場や機会	I	I	I	I		I	I	

従属変数： Q3. 2. 10：余暇全般の満足度

※凡例

I	さらにグレードアップが期待される領域
II	当面は現状維持が望ましい領域
III	いずれ改善が望まれる領域
IV	至急改善が必要な領域
	(指標が算出されなかった項目)

【図表－51 (2)】地区別の最適化指標（類型）（前回調査）

	最適化指標							市全体
	居住地区別							
	中央市街地	中央農村部	上士別	多寄	温根別	朝日		
Q3.5.1 余暇に費やす時間的なゆとり	I	I	I	IV	I	I	I	
Q3.5.2 自宅での気ままな時間や家族との団らん	II	II	II	II	II	II	II	
Q3.5.3 友人との交流	II	II	II	I	II	II	II	
Q3.5.4 自己の教養・学習を身につける場や機会	I	I	I	III	I	I	I	
Q3.5.5 芸術文化を楽しむ場や機会	III	II	III	III	III	II	III	
Q3.5.6 スポーツを楽しむ場や機会	II	II	III	III	I	I	II	
Q3.5.7 旅行やレジャー、レクを楽しむ場や機会	IV	II	II	III	II	II	II	
Q3.5.8 家庭菜園やガーデニングなどを楽しむ機会	I	I	I	II	I	I	II	
Q3.5.9 自然と親しむ場や機会	I	I	II	I	II	II	I	

「余暇」に関する士別市全体と地区別の最適化指標について、4つの領域のうち特に《Ⅰ：さらにグレードアップが期待される領域》と《Ⅳ：至急改善が必要な領域》に注目して整理する。

市全体としては、「余暇に費やす時間的なゆとり」「自宅での気ままな時間や家族との団らん」「自己の教養・学習を身につける場や機会」「家庭菜園やガーデニングなどを楽しむ機会」「自然と親しむ場や機会」が《Ⅰ：さらにグレードアップが期待される領域》とされる。このほか地区別には、多寄地区で「友人との交流」が、多寄、温根別、朝日地区で「芸術文化を楽しむ場や機会」が、中央農村部、多寄地区で「スポーツを楽しむ場や機会」が《Ⅰ：さらにグレードアップが期待される領域》となっている。また、朝日地区で「自己の教養・学習を身につける場や機会」について、中央農村部、上士別地区で「芸術文化を楽しむ場や機会」について、中央市街地、上士別地区で「旅行やレジャー、レクを楽しむ場や機会」について、《Ⅳ：至急改善が必要な領域》となっている。

前回と比較すると、市全体として「自宅での気ままな時間や家族との団らん」「家庭菜園やガーデニングなどを楽しむ機会」が新たに《Ⅰ：さらにグレードアップが期待される領域》となっている。しかし、「旅行やレジャー、レクを楽しむ場や機会」が《Ⅱ：当面は現状維持が望ましい領域》から《Ⅳ：至急改善が必要な領域》になっている。地区別にみると、朝日地区で「自己の教養・学習を身につける場や機会」が、中央農村部、上士別地区で「芸術文化を楽しむ場や機会」が、上士別地区で新たに「旅行やレジャー、レクを楽しむ場や機会」が《Ⅳ：至急改善が必要な領域》となっている。

### (3) 消費や家計

#### a. 単純集計 (回答者全体)

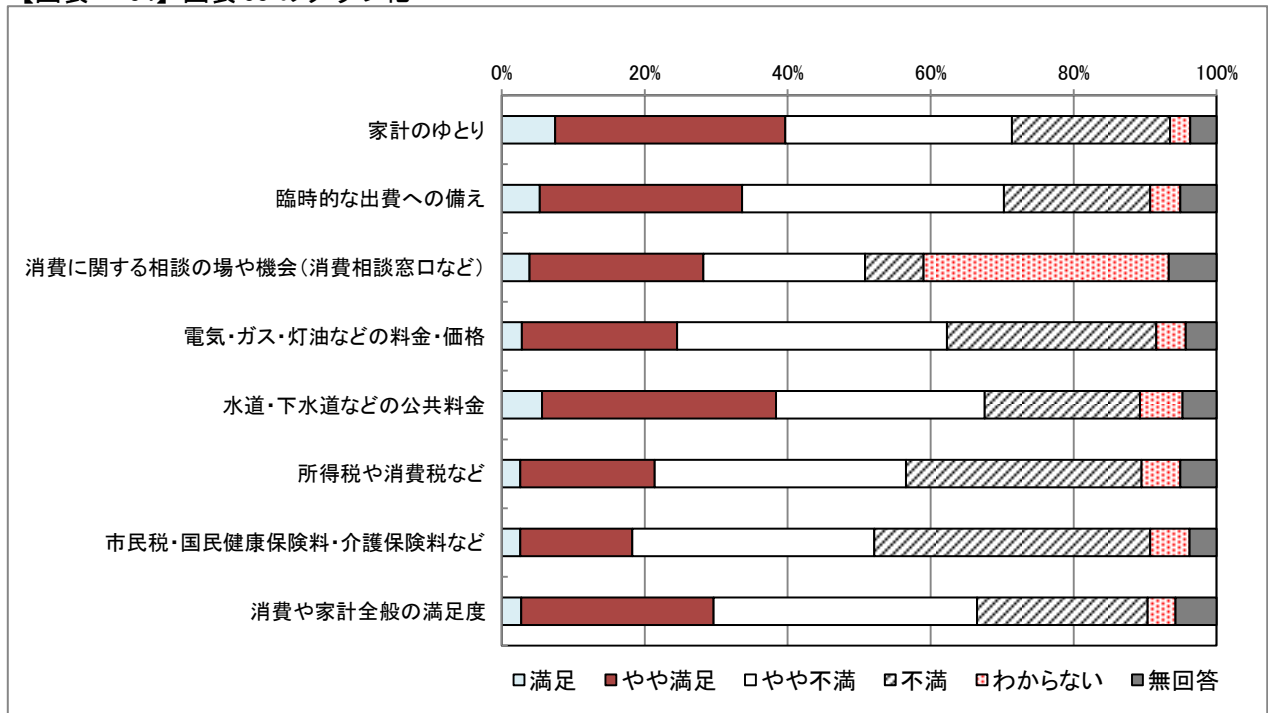
【図表－ 52】 回答数 (実数)

		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
Q3.3.1	家計のゆとり	69	298	293	205	26	34
Q3.3.2	臨時的な出費への備え	49	262	339	189	39	47
Q3.3.3	消費に関する相談の場や機会(消費相談窓口など)	36	225	209	76	317	62
Q3.3.4	電気・ガス・灯油などの料金・価格	26	201	349	271	38	40
Q3.3.5	水道・下水道などの公共料金	52	303	270	201	55	44
Q3.3.6	所得税や消費税など	24	174	325	305	50	47
Q3.3.7	市民税・国民健康保険料・介護保険料など	24	145	313	357	51	35
Q3.3.8	消費や家計全般の満足度	25	249	341	221	36	53

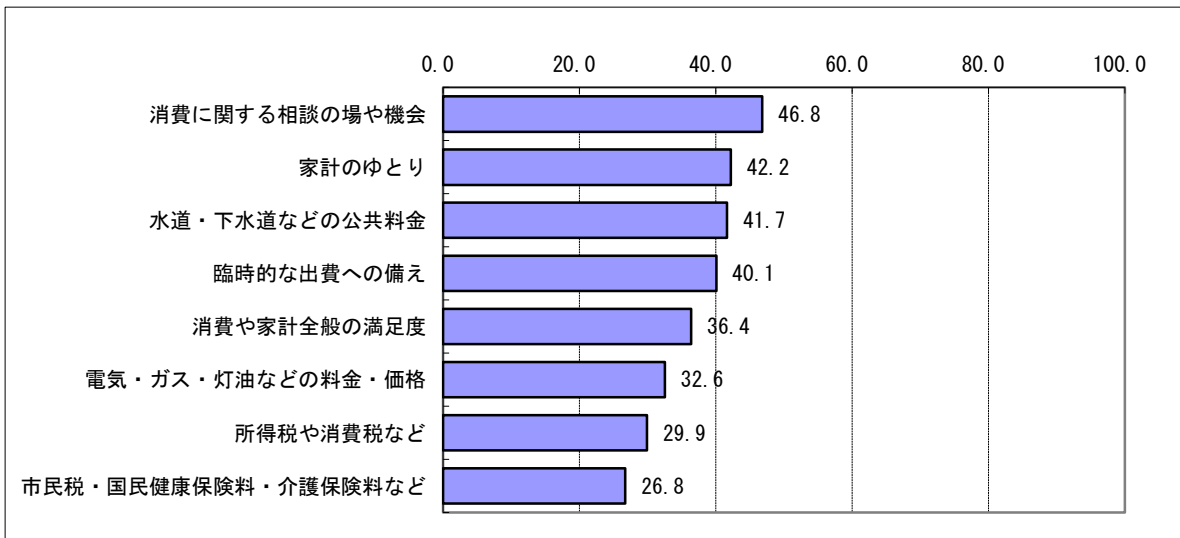
【図表－ 53】 構成比 (%)

		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
Q3.3.1	家計のゆとり	7.5	32.2	31.7	22.2	2.8	3.7
Q3.3.2	臨時的な出費への備え	5.3	28.3	36.6	20.4	4.2	5.1
Q3.3.3	消費に関する相談の場や機会(消費相談窓口など)	3.9	24.3	22.6	8.2	34.3	6.7
Q3.3.4	電気・ガス・灯油などの料金・価格	2.8	21.7	37.7	29.3	4.1	4.3
Q3.3.5	水道・下水道などの公共料金	5.6	32.8	29.2	21.7	5.9	4.8
Q3.3.6	所得税や消費税など	2.6	18.8	35.1	33.0	5.4	5.1
Q3.3.7	市民税・国民健康保険料・介護保険料など	2.6	15.7	33.8	38.6	5.5	3.8
Q3.3.8	消費や家計全般の満足度	2.7	26.9	36.9	23.9	3.9	5.7

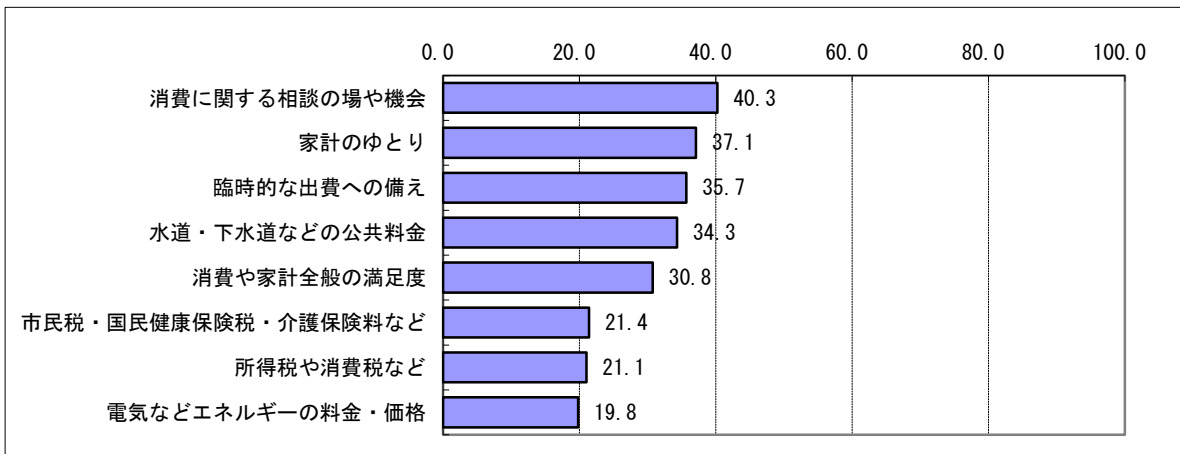
【図表－ 54】 図表 53 のグラフ化



【図表－ 55(1)】消費や家計の満足度の平均

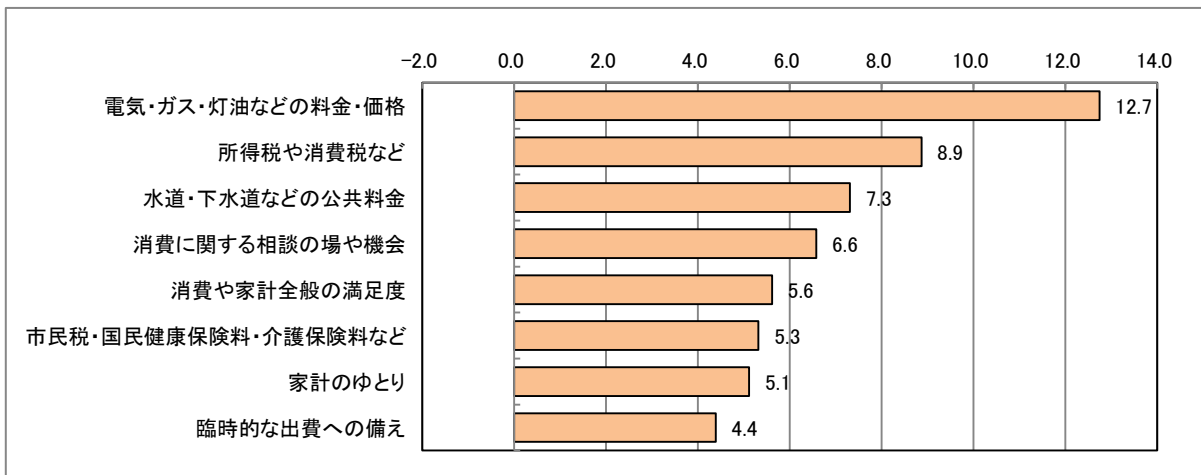


【図表－55(2)】消費や家計の満足度の平均（前回調査）



※平均値は次の重み付けで算出：「満足」=100、「やや満足」=67、「やや不満」=33、「不満」=0。  
平均値を算出する分母は、上記4つの選択肢のいずれかを選択した人の総数。

【図表－ 56】消費や家計の満足度の平均 前回との比較



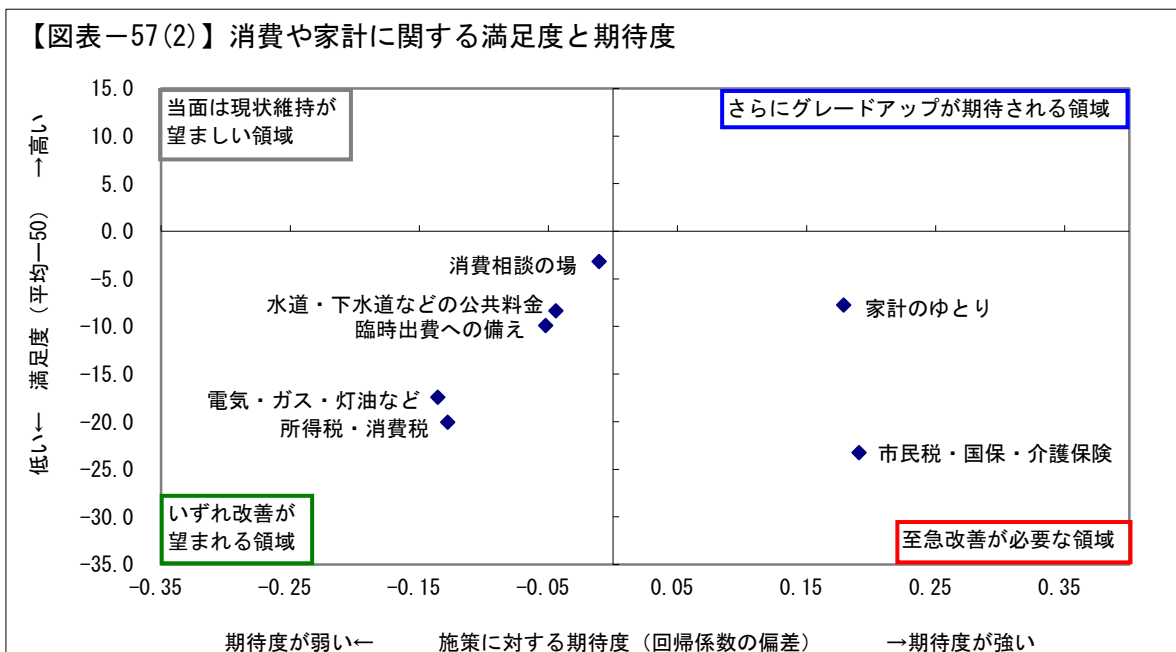
**b. 最適化指標（回答者全体）**

【図表－ 57 (1)】重回帰分析の結果

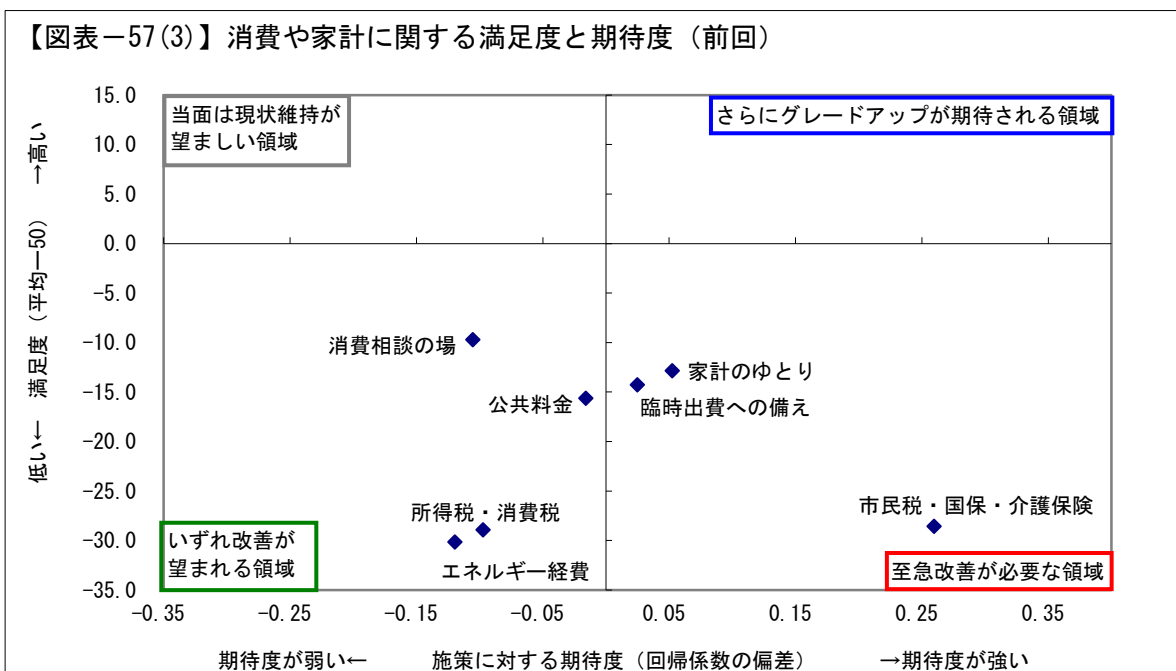
		R	R2 乗	調整済み R2 乗	推定値の標準誤差				
		0.822	0.676	0.67					
		非標準化係数		標準化係数	t 値	有意確率	満足度の平均値	重視度 $\beta$ の偏差	満足度 平均-50
		B	標準誤差	$\beta$					
(定数)		0.118	1.564		0.075	0.940			
Q3.3.1	家計のゆとり	0.306	0.047	0.32	6.508	0.000	42.2	0.18	-7.8
Q3.3.2	臨時的な出費への備え	0.091	0.051	0.09	1.793	0.074	40.1	-0.05	-9.9
Q3.3.3	消費に関する相談の場や機会	0.138	0.036	0.13	3.836	0.000	46.8	-0.01	-3.2
Q3.3.4	電気・ガス・灯油などの料金・価格	0.009	0.043	0.01	0.212	0.832	32.6	-0.14	-17.4
Q3.3.5	水道・下水道などの公共料金	0.095	0.040	0.10	2.382	0.018	41.7	-0.04	-8.3
Q3.3.6	所得税や消費税など	0.016	0.044	0.02	0.372	0.710	29.9	-0.13	-20.1
Q3.3.7	市民税・国民健康保険料・介護保険料など	0.335	0.042	0.34	8.036	0.000	26.8	0.19	-23.2

従属変数: Q3.3.8 : 消費や家計全般の満足度

【図表－57(2)】消費や家計に関する満足度と期待度



【図表－57(3)】消費や家計に関する満足度と期待度（前回）



c. 最適化指標（地区別）

【図表－ 58】地区別の最適化指標（係数）

	中央市街地		中央農村部		上士別		多寄		温根別		朝日	
	重視度	満足度	重視度	満足度	重視度	満足度	重視度	満足度	重視度	満足度	重視度	満足度
	$\beta$ の偏差	平均-50	$\beta$ の偏差	平均-50	$\beta$ の偏差	平均-50	$\beta$ の偏差	平均-50	$\beta$ の偏差	平均-50	$\beta$ の偏差	平均-50
Q3.3.1 家計のゆとり	0.22	-8.5	0.19	-2.9	-0.36	-4.8	0.43	-4.5	1.15	-2.9	0.08	-13.2
Q3.3.2 臨時的な出費への備え	-0.01	-10.7	-0.15	-5.5	0.52	-6.5	-0.48	-8.6	-0.83	1.0	-0.24	-13.6
Q3.3.3 消費に関する相談の場や機会	-0.04	-3.0	0.02	-2.8	-0.01	-6.5	-0.24	0.5	0.47	3.9	0.11	-7.2
Q3.3.4 電気・ガス・灯油などの料金・価格	-0.13	-17.1	-0.29	-15.4	-0.41	-19.1	0.30	-13.7	-0.75	-10.6	-0.10	-23.6
Q3.3.5 水道・下水道などの公共料金	-0.13	-7.4	0.26	-9.4	0.39	-9.0	-0.08	-5.5	-0.15	-6.9	0.53	-14.3
Q3.3.6 所得税や消費税など	-0.08	-19.1	-0.02	-25.0	-0.32	-17.5	-0.16	-18.2	-0.38	-25.1	-0.63	-19.7
Q3.3.7 市民税・国民健康保険税など	0.18	-22.1	-0.01	-26.7	0.19	-21.8	0.22	-25.8	0.50	-24.6	0.24	-21.8

【図表－ 59 (1)】地区別の最適化指標（類型）

		最適化指標						
		居住地区別						市全体
		中央市街地	中央農村部	上士別	多寄	温根別	朝日	
Q3.3.1	家計のゆとり	IV	IV	III	IV	IV	IV	IV
Q3.3.2	臨時的な出費への備え	III	III	IV	III	II	III	III
Q3.3.3	消費に関する相談の場や機会	III	IV	III	II	I	IV	III
Q3.3.4	電気・ガス・灯油などの料金・価格	III	III	III	IV	III	III	III
Q3.3.5	水道・下水道などの公共料金	III	IV	IV	III	III	IV	III
Q3.3.6	所得税や消費税など	III	III	III	III	III	III	III
Q3.3.7	市民税・国民健康保険税など	IV	III	IV	IV	IV	IV	IV

従属変数：Q3.3.8：消費や家計全般の満足度

※凡例

I	さらにグレードアップが期待される領域
II	当面は現状維持が望ましい領域
III	いずれ改善が望まれる領域
IV	至急改善が必要な領域

【図表－59 (2)】地区別の最適化指標（類型）（前回調査）

		最適化指標						
		居住地区別						市全体
		中央市街地	中央農村部	上士別	多寄	温根別	朝日	
Q3.7.1	家計のゆとり	IV	III	IV	IV			IV
Q3.7.2	臨時的な出費への備え	III	IV	III	III			IV
Q3.7.3	消費に関する相談の場や機会	III	IV	III	IV	IV	IV	III
Q3.7.4	電気などエネルギーの料金・価格	III	III	III	III	IV	IV	III
Q3.7.5	水道・下水道などの公共料金	IV	IV	III	III	III	III	III
Q3.7.6	所得税や消費税など	III	III	IV	IV	III	III	III
Q3.7.7	市民税・国民健康保険税など	IV	IV	IV	IV	IV	IV	IV



「消費や家計」に関する士別市全体と地区別の最適化指標について、4つの領域のうち特に《Ⅰ：さらにグレードアップが期待される領域》と《Ⅳ：至急改善が必要な領域》に注目して整理する。

市全体としては、「家計のゆとり」「市民税・国民健康保険など」が《Ⅳ：至急改善が必要な領域》となっている。そのほか、上士別地区で「臨時的な出費への備え」について、中央農村部、朝日地区で「消費に関する相談の場や機会」について、多寄地区で「電気・ガス・灯油などの料金・価格」について、中央農村部、上士別、朝日地区で「水道・下水道などの公共料金」について《Ⅳ：至急改善が必要な領域》となっている。また、温根別地区のみ「消費に関する相談の場や機会」が《Ⅰ：さらにグレードアップが期待される領域》となっている。

前回と比較すると、市全体としては、「臨時的な出費への備え」が《Ⅳ：至急改善が必要な領域》から《Ⅲ：いずれ改善が望まれる領域》となっている。また、温根別、朝日地区で「家計のゆとり」について、多寄地区で「電気・ガス・灯油などの料金・価格」について、上士別、朝日地区が「水道・下水道などの公共料金」について新たに《Ⅳ：至急改善が必要な領域》となっている。ほかには、温根別地区の「消費に関する相談の場や機会」が《Ⅳ：至急改善が必要な領域》から《Ⅰ：さらにグレードアップが期待される領域》となっている。

#### (4) 市民による地域活動・社会活動

##### a. 単純集計（回答者全体）

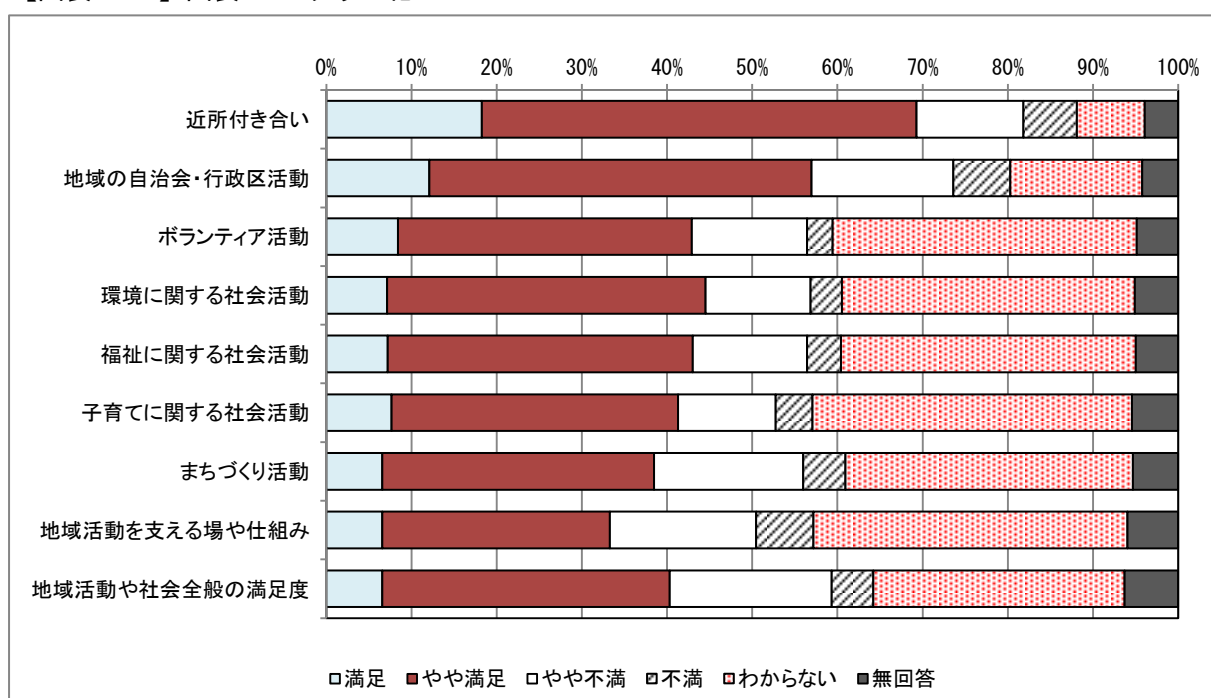
【図表－ 60】 回答数（実数）

		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
Q3.4.1	近所付き合い	169	472	116	58	74	36
Q3.4.2	地域の自治会・行政区活動	112	415	154	62	143	39
Q3.4.3	周りで行われているボランティア活動	78	319	125	28	330	45
Q3.4.4	周りで行われている環境に関する社会活動	66	346	114	34	318	47
Q3.4.5	周りで行われている福祉に関する社会活動	67	331	124	37	320	46
Q3.4.6	周りで行われている子育てに関する社会活動	71	311	106	40	347	50
Q3.4.7	周りで行われているまちづくり活動	61	295	162	46	312	49
Q3.4.8	地域活動を支える場や仕組み	61	247	159	62	341	55
Q3.4.9	地域活動や社会全般の満足度	61	312	176	45	273	58

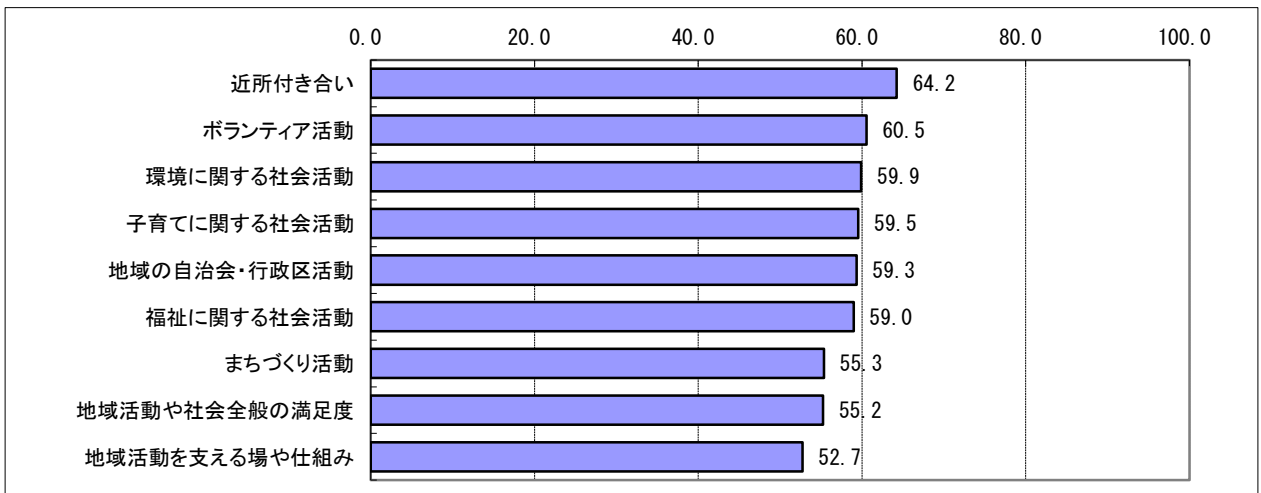
【図表－ 61】 構成比（%）

		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
Q3.4.1	近所付き合い	18.3	51.0	12.5	6.3	8.0	3.9
Q3.4.2	地域の自治会・行政区活動	12.1	44.9	16.6	6.7	15.5	4.2
Q3.4.3	周りで行われているボランティア活動	8.4	34.5	13.5	3.0	35.7	4.9
Q3.4.4	周りで行われている環境に関する社会活動	7.1	37.4	12.3	3.7	34.4	5.1
Q3.4.5	周りで行われている福祉に関する社会活動	7.2	35.8	13.4	4.0	34.6	5.0
Q3.4.6	周りで行われている子育てに関する社会活動	7.7	33.6	11.5	4.3	37.5	5.4
Q3.4.7	周りで行われているまちづくり活動	6.6	31.9	17.5	5.0	33.7	5.3
Q3.4.8	地域活動を支える場や仕組み	6.6	26.7	17.2	6.7	36.9	5.9
Q3.4.9	地域活動や社会全般の満足度	6.6	33.7	19.0	4.9	29.5	6.3

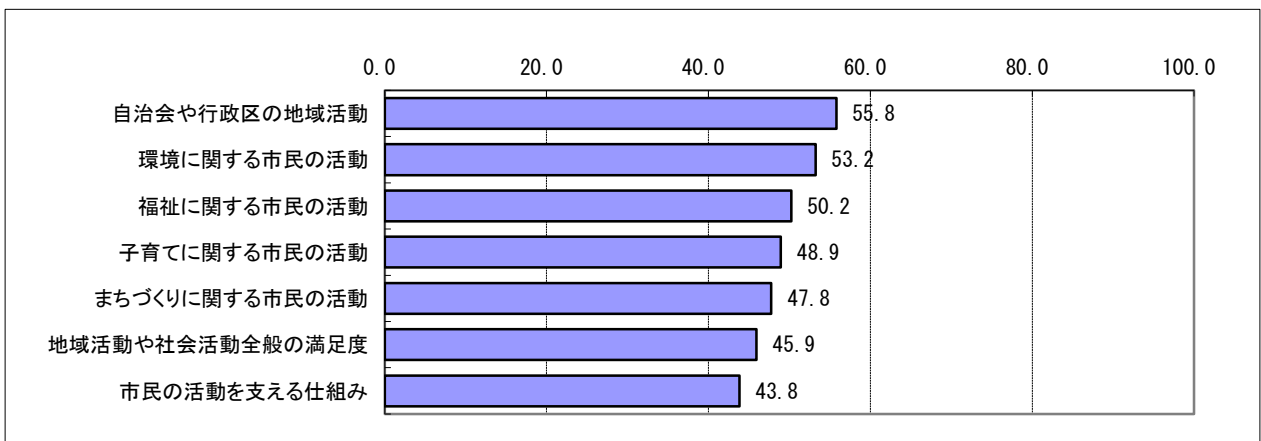
【図表－ 62】 図表 61 のグラフ化



【図表－ 63(1)】 市民による地域活動や社会活動の満足度の平均

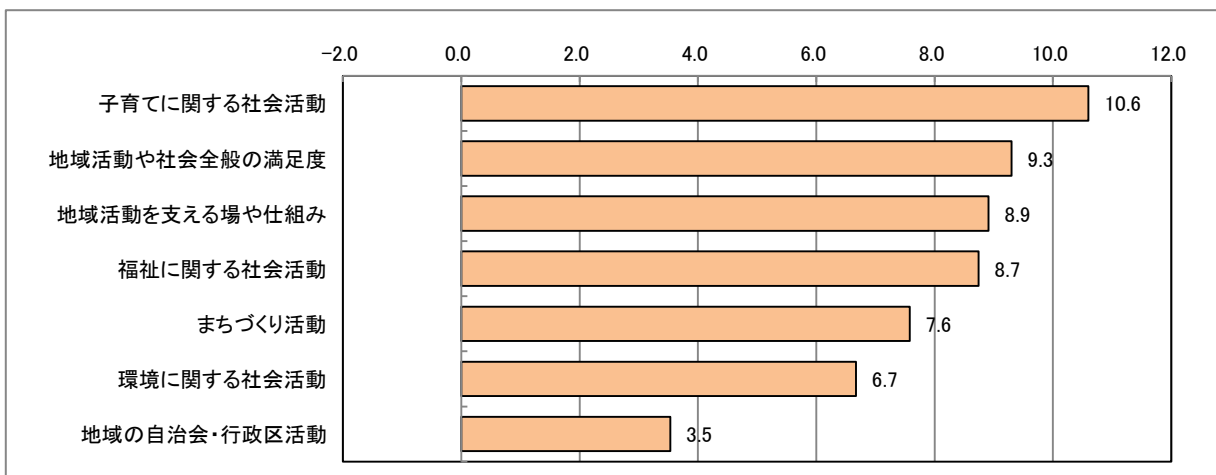


【図表－63 (2)】 市民による地域活動や社会活動の満足度の平均（前回調査）



※平均値は次の重み付けで算出：「満足」=100、「やや満足」=67、「やや不満」=33、「不満」=0。  
平均値を算出する分母は、上記4つの選択肢のいずれかを選択した人の総数。

【図表－ 64】 市民による地域活動や社会活動の満足度の平均 前回との比較



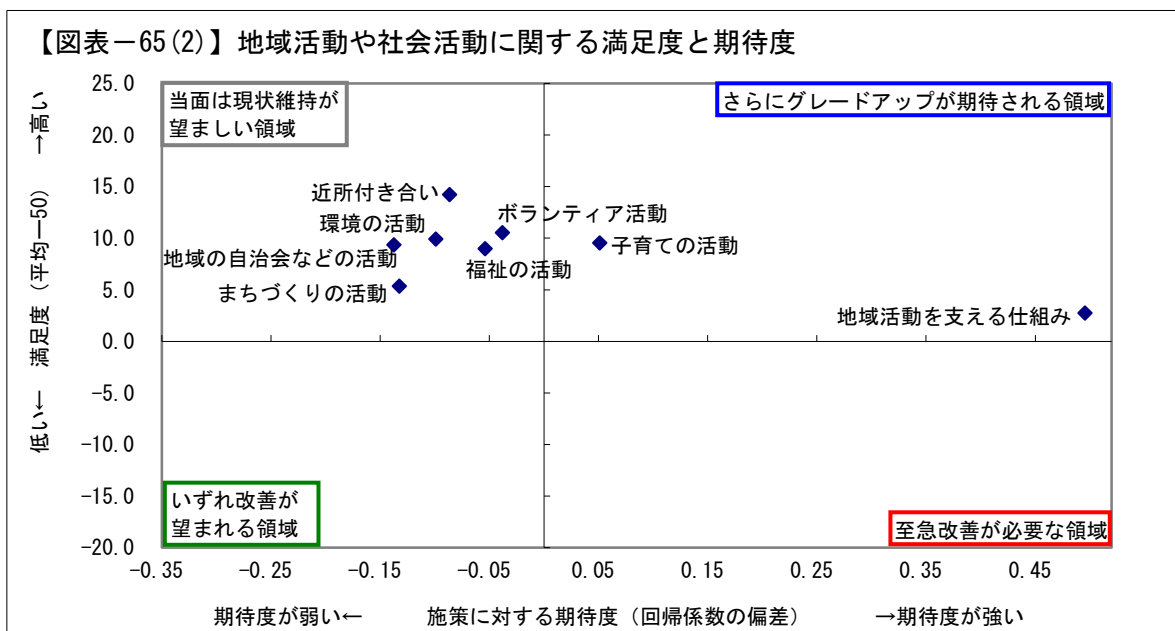
**b. 最適化指標（回答者全体）**

【図表－ 65 (1)】重回帰分析の結果

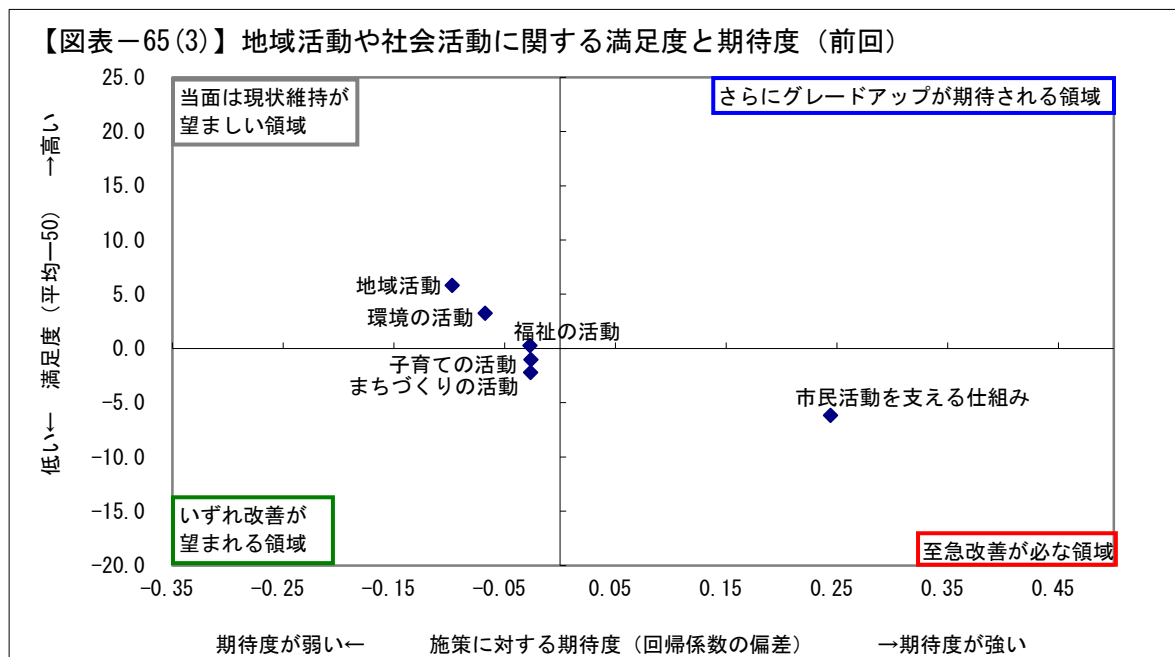
(定数)	R	R2 乗	調整済み R2 乗	推定値の標準誤差	有意確率	満足度の平均値	重視度 $\beta$ の偏差	満足度 平均-50
	非標準化係数		標準化係数	t 値				
	B	標準誤差	$\beta$					
	3.235	1.705		1.897	0.059			
Q3.4.1 近所付き合い	0.036	0.031	0.04	1.175	0.241	64.2	-0.09	14.2
Q3.4.2 地域の自治会・行政区活動	-0.014	0.037	-0.01	-0.373	0.710	59.3	-0.14	9.3
Q3.4.3 周りで行われているボランティア活動	0.090	0.049	0.09	1.830	0.068	60.5	-0.04	10.5
Q3.4.4 周りで行われている環境に関する社会活動	0.026	0.058	0.02	0.451	0.652	59.9	-0.10	9.9
Q3.4.5 周りで行われている福祉に関する社会活動	0.073	0.055	0.07	1.332	0.184	59.0	-0.05	9.0
Q3.4.6 周りで行われている子育てに関する社会活動	0.179	0.043	0.17	4.170	0.000	59.5	0.05	9.5
Q3.4.7 周りで行われているまちづくり活動	-0.009	0.041	-0.01	-0.218	0.827	55.3	-0.13	5.3
Q3.4.8 地域活動を支える場や仕組み	0.576	0.038	0.62	15.271	0.000	52.7	0.50	2.7

従属変数：Q3.4.9：地域活動や社会全般の満足度

【図表－65(2)】地域活動や社会活動に関する満足度と期待度



【図表－65(3)】地域活動や社会活動に関する満足度と期待度（前回）



c. 最適化指標（地区別）

【図表－ 66】地区別の最適化指標（係数）

		中央市街地		中央農村部		上士別		多寄		温根別		朝日	
		重視度	満足度	重視度	満足度	重視度	満足度	重視度	満足度	重視度	満足度	重視度	満足度
		$\beta$ の偏差	平均-50	$\beta$ の偏差	平均-50	$\beta$ の偏差	平均-50	$\beta$ の偏差	平均-50	$\beta$ の偏差	平均-50	$\beta$ の偏差	平均-50
Q3.4.1	近所付き合い	-0.10	13.8	0.13	19.7	-0.17	16.0		12.3		18.9	-0.42	12.2
Q3.4.2	地域の自治会・行政区活動	-0.17	9.6	-0.34	8.0	-0.12	6.5		7.7		14.8	0.30	12.3
Q3.4.3	ボランティア活動	0.07	11.1	-0.39	10.1	-0.17	4.8		9.4		16.8	-0.16	12.6
Q3.4.4	環境に関する社会活動	-0.18	10.6	0.32	7.6	-0.26	5.6		10.2		10.7	-0.02	11.1
Q3.4.5	福祉に関する社会活動	-0.08	9.3	-0.20	7.0	-0.04	3.6	0.68	14.1		11.3	-0.06	10.3
Q3.4.6	子育てに関する社会活動	0.06	10.0	0.04	9.7	0.76	3.3		15.4		5.6	0.25	9.1
Q3.4.7	まちづくり活動	-0.10	5.2	-0.26	8.3	-0.34	-2.8	-1.22	15.6		12.6	-0.37	2.6
Q3.4.8	地域活動を支える場や仕組み	0.48	2.7	0.69	2.2	0.34	0.0	0.54	7.7		11.6	0.48	3.9

【図表－ 67 (1)】地区別の最適化指標（類型）

		最適化指標						市全体
		居住地区別						
		中央市街地	中央農村部	上士別	多寄	温根別	朝日	
Q3.4.1	近所付き合い	II	I	II			II	II
Q3.4.2	地域の自治会・行政区活動	II	II	II			I	II
Q3.4.3	ボランティア活動	I	II	II			II	II
Q3.4.4	環境に関する社会活動	II	I	II			II	II
Q3.4.5	福祉に関する社会活動	II	II	II	I		II	II
Q3.4.6	子育てに関する社会活動	I	I	I			I	I
Q3.4.7	まちづくり活動	II	II	III	II		II	II
Q3.4.8	地域活動を支える場や仕組み	I	I	I	I		I	I

従属変数：Q3.4.9：地域活動や社会全般の満足度

※凡例

I	さらにグレードアップが期待される領域
II	当面は現状維持が望ましい領域
III	いずれ改善が望まれる領域
IV	至急改善が必要な領域
	(指標が算出されなかった項目)

【図表－67 (2)】地区別の最適化指標（類型）（前回調査）

		最適化指標						市全体
		居住地区別						
		中央市街地	中央農村部	上士別	多寄	温根別	朝日	
Q3.8.1	自治会や行政区の地域活動	II	II	II	III			II
Q3.8.2	環境に関する市民の活動	II	I	I	III	II	III	II
Q3.8.3	福祉に関する市民の活動	I	I	II	III	II	III	II
Q3.8.4	子育てに関する市民の活動	III	I	I	IV	I	IV	III
Q3.8.5	まちづくりに関する市民の活動	III	II	IV	IV	I	IV	III
Q3.8.6	市民の活動を支える仕組み	IV	I	IV	III	II	III	IV

「市民による地域活動・社会活動」に関する士別市全体と地区別の最適化指標について、4つの領域のうち特に《Ⅰ：さらにグレードアップが期待される領域》と《Ⅳ：至急改善が必要な領域》に注目して整理する。

市全体としては、「子育てに関する社会活動」「地域活動を支える場や仕組み」が《Ⅰ：さらにグレードアップが期待される領域》となっている。そのほか、中央農村部で「近所付き合い」について、朝日地区で「地域の自治会・行政区活動」について、中央市街地で「ボランティア活動」について、中央農村部で「環境に関する社会活動」について、多寄地区で「福祉に関する社会活動」について《Ⅰ：さらにグレードアップが期待される領域》となっている。

前回と比較すると、市全体としては、「子育てに関する社会活動」「地域活動を支える場や仕組み」が新たに《Ⅰ：さらにグレードアップが期待される領域》となっている。そのほか地区別にみると、朝日地区で「地域の自治会・行政区活動」について、多寄地区で「福祉に関する社会活動」について新たに《Ⅰ：さらにグレードアップが期待される領域》となっている。

## (5) 市政への参加や協働

### a. 単純集計 (回答者全体)

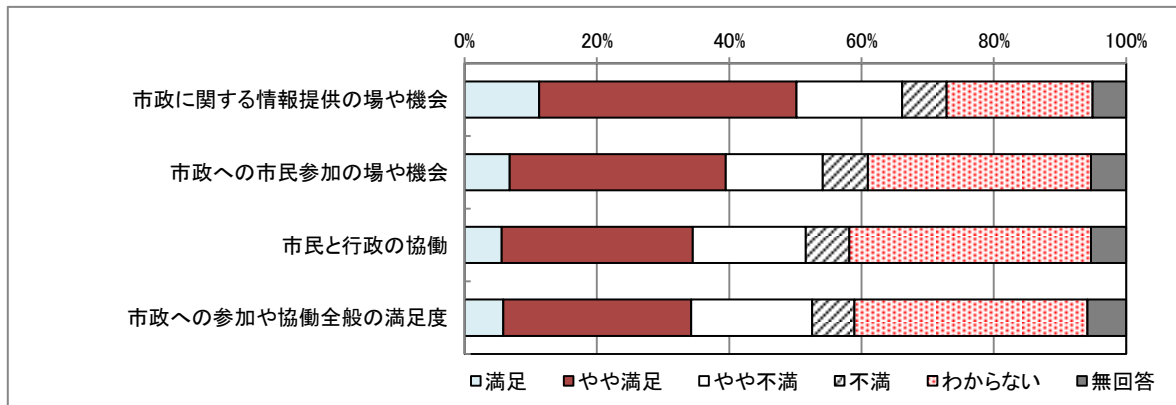
【図表－ 68】 回答数 (実数)

		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
Q3.5.1	市政に関する情報提供の場や機会	104	360	148	62	204	47
Q3.5.2	市政への市民参加の場や機会	63	302	136	63	312	49
Q3.5.3	市民と行政の協働	52	267	158	61	338	49
Q3.5.4	市政への参加や協働全般の満足度	54	263	169	59	326	54

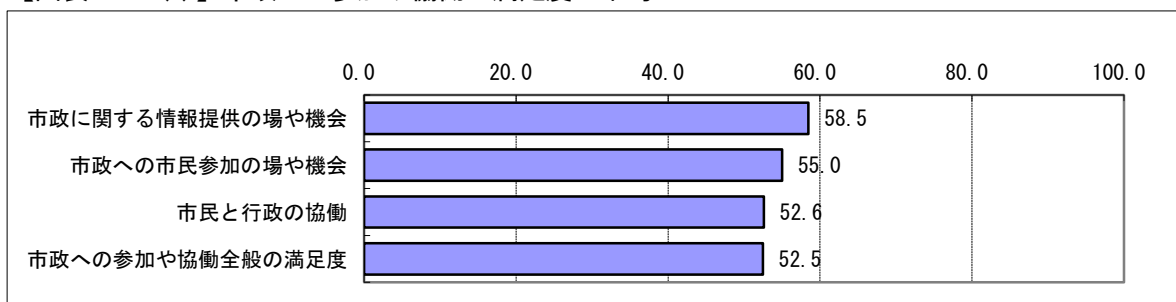
【図表－ 69】 構成比 (%)

		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
Q3.5.1	市政に関する情報提供の場や機会	11.2	38.9	16.0	6.7	22.1	5.1
Q3.5.2	市政への市民参加の場や機会	6.8	32.6	14.7	6.8	33.7	5.3
Q3.5.3	市民と行政の協働	5.6	28.9	17.1	6.6	36.5	5.3
Q3.5.4	市政への参加や協働全般の満足度	5.8	28.4	18.3	6.4	35.2	5.8

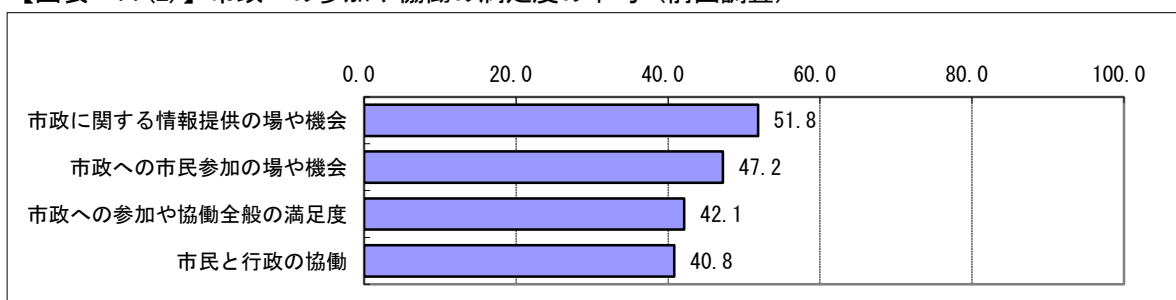
【図表－ 70】 図表 69 のグラフ化



【図表－ 71(1)】 市政への参加や協働の満足度の平均

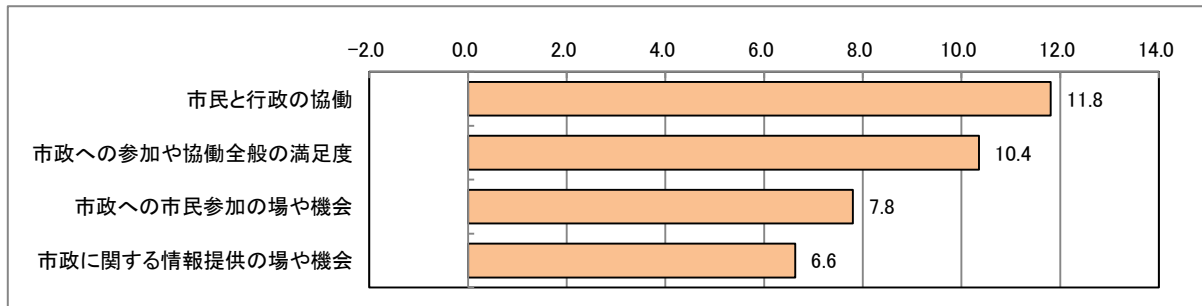


【図表－71(2)】 市政への参加や協働の満足度の平均 (前回調査)



※平均値は次の重み付けで算出：「満足」=100、「やや満足」=67、「やや不満」=33、「不満」=0。  
平均値を算出する分母は、上記4つの選択肢のいずれかを選択した人の総数。

【図表－ 72】 市政への参加や協働の満足度の平均 前回との比較



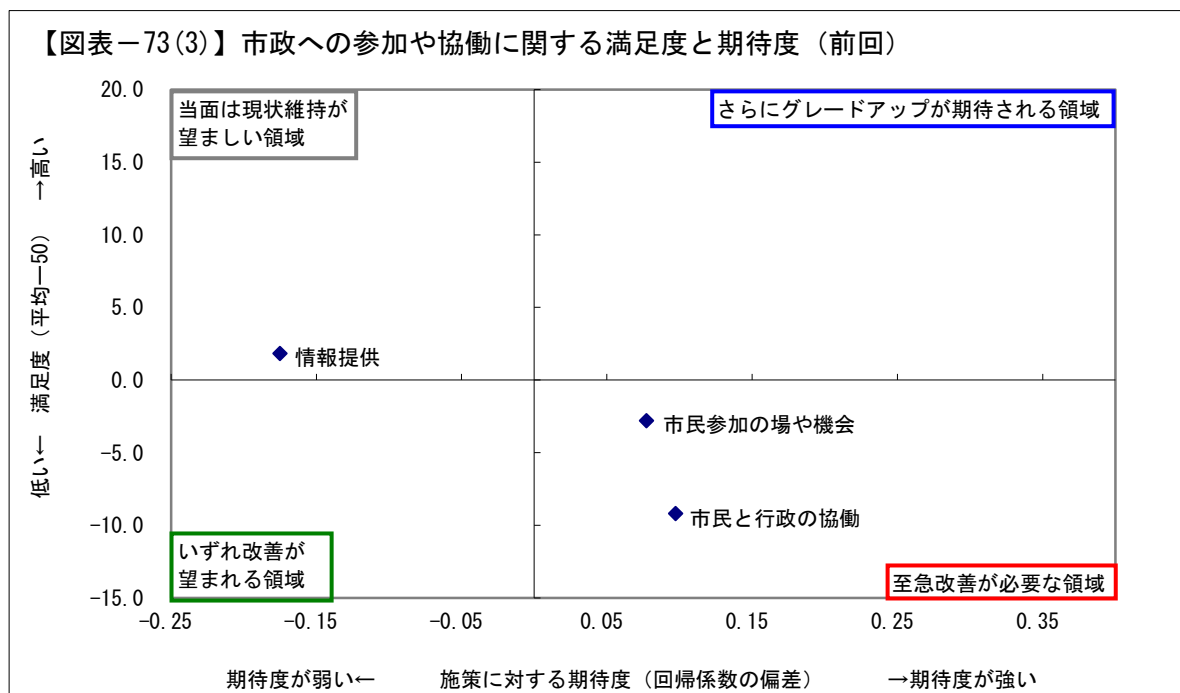
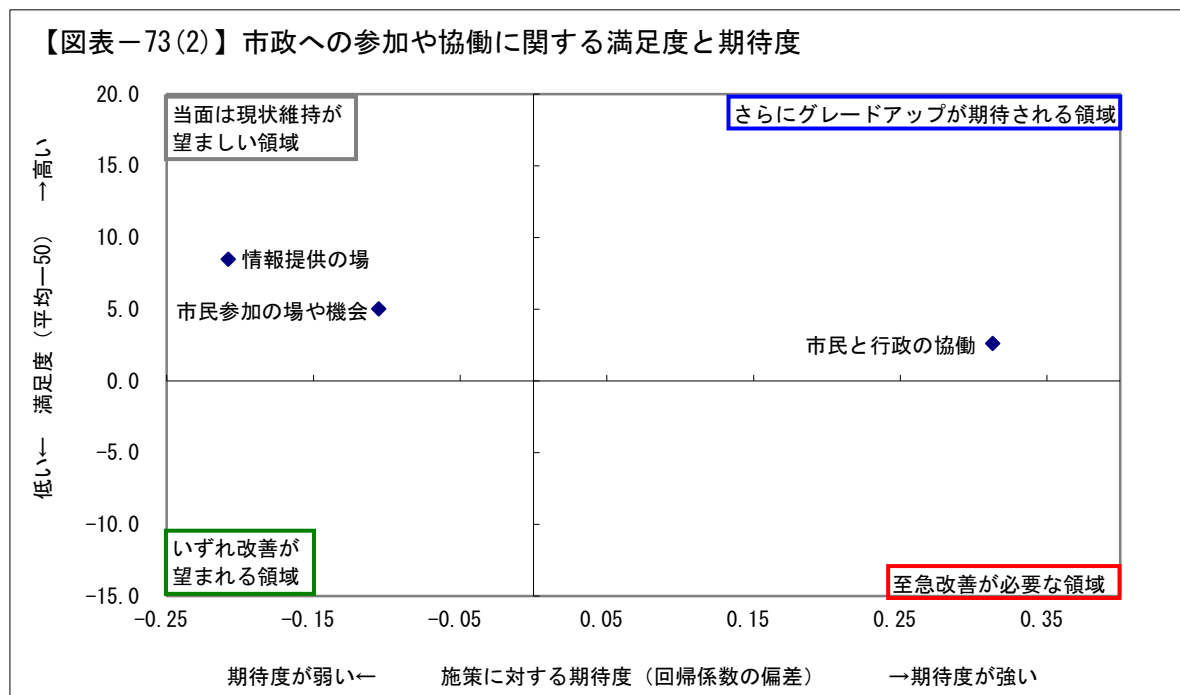


**b. 最適化指標（回答者全体）**

【図表－73（1）】重回帰分析の結果

		R	R2 乗	調整済み R2 乗	推定値の 標準誤差				
		0.929	0.864	0.86					
		非標準化係数		標準化係数	t 値	有意確率	満足度の 平均値	重視度 βの偏差	満足度 平均-50
		B	標準誤差	β					
(定数)		0.522	1.065		0.490	0.625			
Q3.5.1	市政に関する情報提供の場や機会	0.111	0.031	0.12	3.603	0.000	58.5	-0.21	8.5
Q3.5.2	市政への市民参加の場や機会	0.217	0.040	0.22	5.404	0.000	55.0	-0.11	5.0
Q3.5.3	市民と行政の協働	0.637	0.033	0.64	19.384	0.000	52.6	0.31	2.6

従属変数: Q3.5.4: 市政への参加や協働全般の満足度



### c. 最適化指標（地区別）

【図表－ 74】地区別の最適化指標（係数）

		中央市街地		中央農村部		上士別		多寄		温根別		朝日	
		重視度	満足度	重視度	満足度	重視度	満足度	重視度	満足度	重視度	満足度	重視度	満足度
		$\beta$ の偏差	平均-50	$\beta$ の偏差	平均-50	$\beta$ の偏差	平均-50	$\beta$ の偏差	平均-50	$\beta$ の偏差	平均-50	$\beta$ の偏差	平均-50
Q3.5.1	市政に関する情報提供の場や機会	-0.25	8.7	-0.28	10.0	0.25	9.2	0.12	15.7	-0.33	1.1	-0.75	3.6
Q3.5.2	市政への市民参加の場や機会	-0.01	4.3	-0.06	6.5	-0.43	6.5	-0.29	16.9	-0.33	4.6	-1.00	3.7
Q3.5.3	市民と行政の協働の場や機会	0.26	2.9	0.35	-0.5	0.18	5.2	0.17	12.5	0.67	0.0	-0.18	4.1

【図表－ 75 (1)】地区別の最適化指標（類型）

		最適化指標						
		居住地区別						市全体
		中央市街地	中央農村部	上士別	多寄	温根別	朝日	
Q3.5.1	市政に関する情報提供の場や機会	II	II	I	I	II	II	II
Q3.5.2	市政への市民参加の場や機会	II	II	II	II	II	II	II
Q3.5.3	市民と行政の協働の場や機会	I	IV	I	I	I	II	I

従属変数: Q3.5.4: 市政への参加や協働全般の満足度

※凡例

I	さらにグレードアップが期待される領域
II	当面は現状維持が望ましい領域
III	いずれ改善が望まれる領域
IV	至急改善が必要な領域

【図表－75 (2)】地区別の最適化指標（類型）（前回調査）

		最適化指標						
		居住地区別						市全体
		中央市街地	中央農村部	上士別	多寄	温根別	朝日	
Q3.9.1	市政に関する情報提供の場や機会	II	I	III	III	II	III	II
Q3.9.2	市政への市民参加の場や機会	IV	II	I	I	I	IV	IV
Q3.9.3	市民と行政の協働	IV	IV	III	IV	III	III	IV

「市政への参加や協働」に関する士別市全体と地区別の最適化指標について、4つの領域のうち特に《I：さらにグレードアップが期待される領域》と《IV：至急改善が必要な領域》に注目して整理する。

市全体としては、「市民と行政の協働の場や機会」が《I：さらにグレードアップが期待される領域》となっている。

前回と比較すると、前回《IV：至急改善が必要な領域》だった「市政への市民参加の場や機会」と「市民と行政の協働の場や機会」が《II：当面は現状維持が望ましい領域》と《I：さらにグレードアップが期待される領域》となっている。

## (6) 市民生活の足としての市内でのバス運行

### a. 単純集計 (回答者全体)

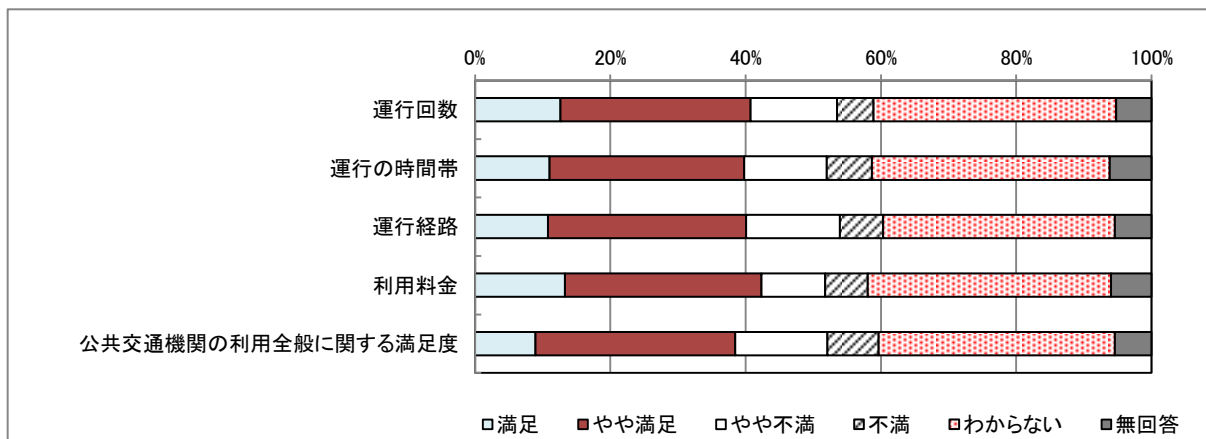
【図表－ 76】 回答数 (実数)

		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
Q3.6.1	運行回数	117	260	118	50	332	48
Q3.6.2	運行の時間帯	102	266	113	62	325	57
Q3.6.3	運行経路	100	271	128	59	317	50
Q3.6.4	利用料金	123	269	87	58	333	55
Q3.6.5	公共交通機関の利用全般に関する満足度	83	273	126	70	323	50

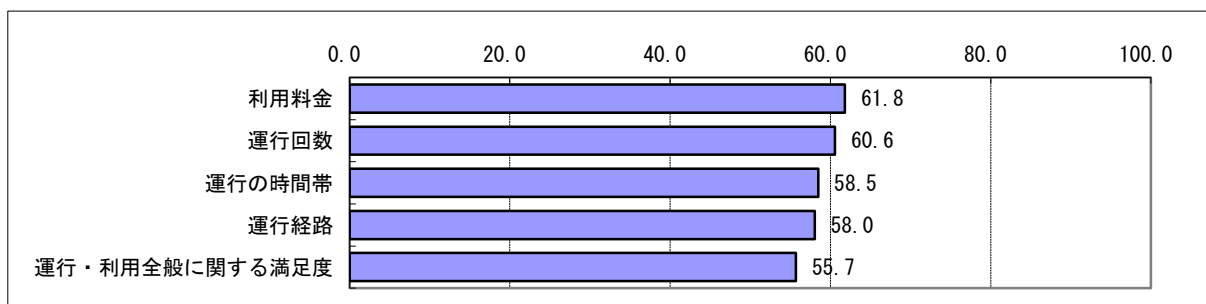
【図表－ 77】 構成比 (%)

		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
Q3.6.1	運行回数	12.6	28.1	12.8	5.4	35.9	5.2
Q3.6.2	運行の時間帯	11.0	28.8	12.2	6.7	35.1	6.2
Q3.6.3	運行経路	10.8	29.3	13.8	6.4	34.3	5.4
Q3.6.4	利用料金	13.3	29.1	9.4	6.3	36.0	5.9
Q3.6.5	公共交通機関の利用全般に関する満足度	9.0	29.5	13.6	7.6	34.9	5.4

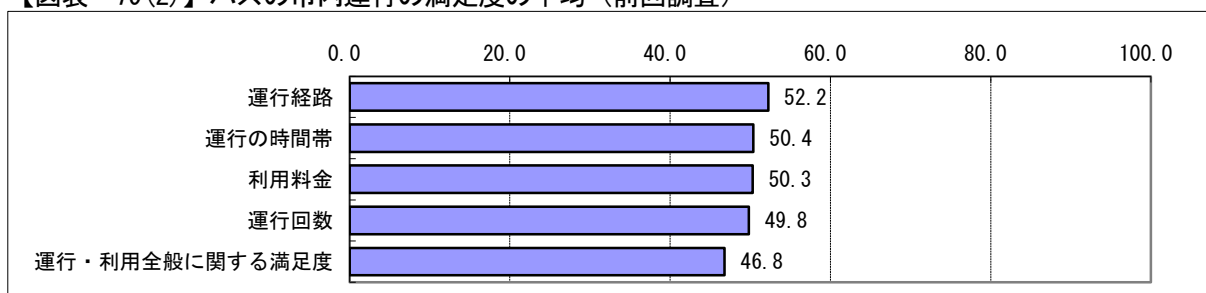
【図表－ 78】 図表 77 のグラフ化



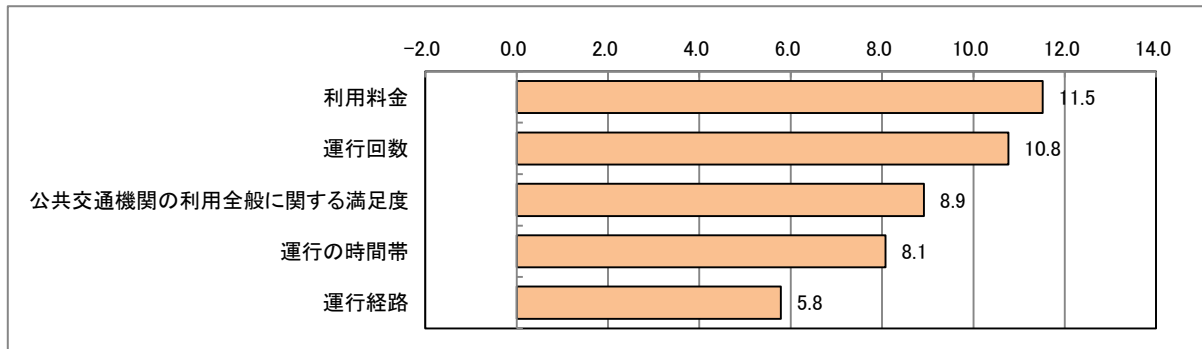
【図表－ 79(1)】 バスの市内運行の満足度の平均



【図表－ 79(2)】 バスの市内運行の満足度の平均 (前回調査)



【図表－ 80】 バスの市内運行の満足度の平均 前回との比較



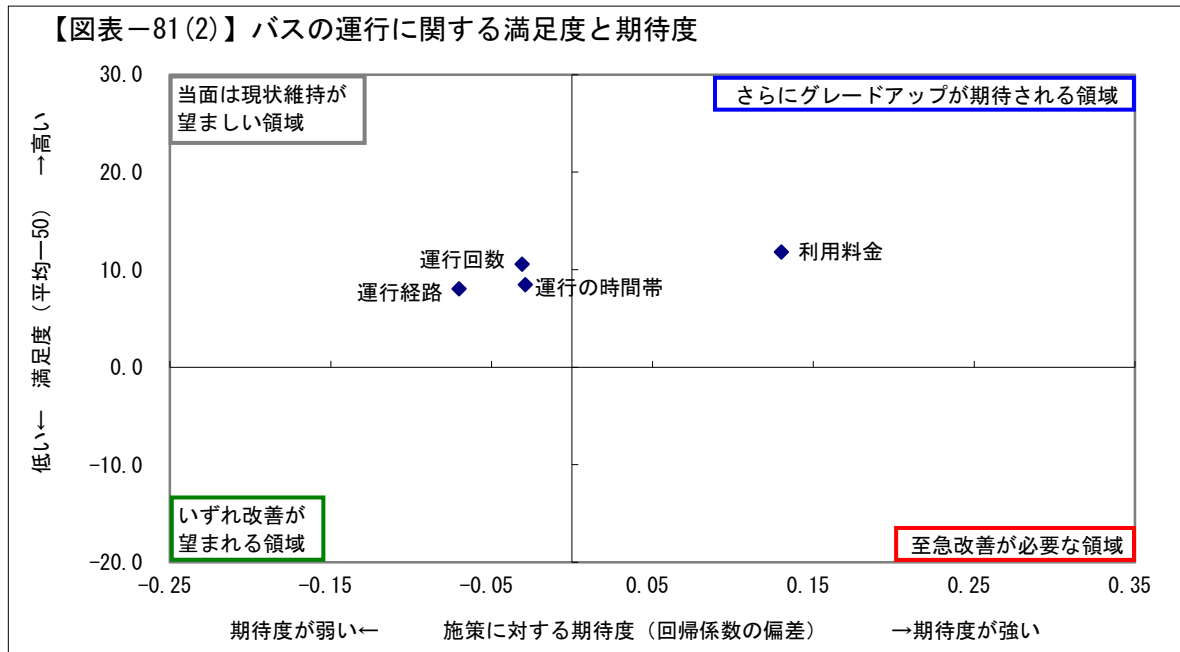
## b. 最適化指標（回答者全体）

【図表－81（1）】重回帰分析の結果

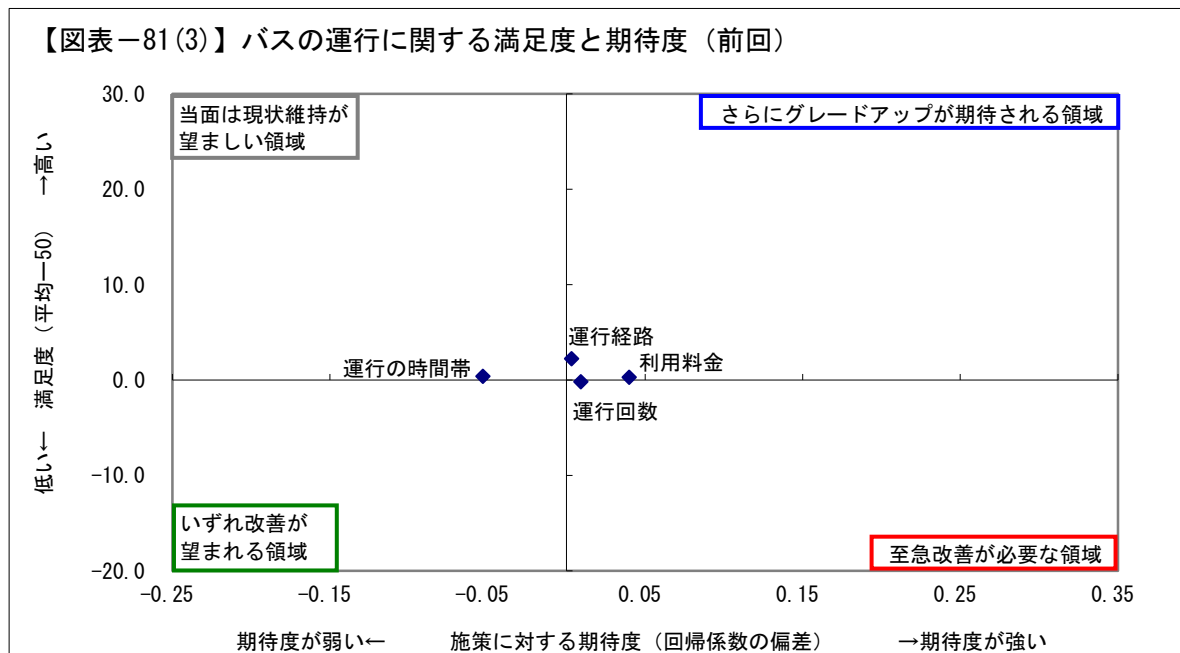
	R	R2 乗	調整済み R2 乗	推定値の標準誤差	有意確率	満足度の平均値	重視度 $\beta$ の偏差	満足度 平均-50
	非標準化係数		標準化係数	t 値				
	B	標準誤差	$\beta$					
(定数)	-0.9194	1.8203		-0.505	0.614			
Q3.6.1 運行回数	0.206	0.050	0.21	4.149	0.000	60.6	-0.03	10.6
Q3.6.2 運行の時間帯	0.206	0.050	0.21	4.141	0.000	58.5	-0.03	8.5
Q3.6.3 運行経路	0.171	0.037	0.17	4.640	0.000	58.0	-0.07	8.0
Q3.6.4 利用料金	0.367	0.034	0.37	10.830	0.000	61.8	0.13	11.8

従属変数: Q3.6.5: 公共交通機関の利用全般に関する満足度

【図表－81（2）】バスの運行に関する満足度と期待度



【図表－81（3）】バスの運行に関する満足度と期待度（前回）



### c. 最適化指標（地区別）

【図表－ 82】地区別の最適化指標（係数）

		中央市街地		中央農村部		上士別		多寄		温根別		朝日	
		重視度	満足度	重視度	満足度	重視度	満足度	重視度	満足度	重視度	満足度	重視度	満足度
		$\beta$ の偏差	平均-50	$\beta$ の偏差	平均-50	$\beta$ の偏差	平均-50	$\beta$ の偏差	平均-50	$\beta$ の偏差	平均-50	$\beta$ の偏差	平均-50
Q3.6.1	運行回数	-0.04	14.0	0.23	8.0	0.05	-6.0	-0.32	4.6	-0.33	-9.0	0.25	2.2
Q3.6.2	運行の時間帯	0.00	12.0	-0.27	3.6	-0.21	-4.6	0.10	-1.9		-13.7	-0.38	2.2
Q3.6.3	運行経路	-0.07	9.3	0.11	2.8	0.02	-0.6	-0.14	9.6	-0.33	-2.8	-0.16	9.3
Q3.6.4	利用料金	0.10	16.4	-0.06	3.0	0.14	-3.5	0.36	9.5	0.67	-8.3	0.29	-1.0



【図表－ 83 (1)】地区別の最適化指標（類型）

		最適化指標						市全体
		居住地区別						
		中央市街地	中央農村部	上士別	多寄	温根別	朝日	
Q3.6.1	運行回数	II	I	IV	II	III	I	II
Q3.6.2	運行の時間帯	I	II	III	IV		II	II
Q3.6.3	運行経路	II	I	IV	II	III	II	II
Q3.6.4	利用料金	I	II	IV	I	IV	IV	I

従属変数: Q3.6.5: 公共交通機関の利用全般に関する満足度

※凡例

I	さらにグレードアップが期待される領域
II	当面は現状維持が望ましい領域
III	いずれ改善が望まれる領域
IV	至急改善が必要な領域
	(指標が算出されなかった項目)

【図表－83 (2)】地区別の最適化指標（類型）（前回調査）

		最適化指標						市全体
		居住地区別						
		中央市街地	中央農村部	上士別	多寄	温根別	朝日	
Q3.12.1	運行回数	I	III	IV	III	III	III	IV
Q3.12.2	運行の時間帯	II	IV	IV	III	IV	IV	II
Q3.12.3	運行経路	I	I	II	IV	IV	IV	I
Q3.12.4	利用料金	II	I	IV	III	III	III	I

「市民生活の足としての市内でのバス運行」に関する士別市全体と地区別の最適化指標について、4つの領域のうち特に《I：さらにグレードアップが期待される領域》と《IV：至急改善が必要な領域》に注目して整理する。

市全体としては、「利用料金」が《I：さらにグレードアップが期待される領域》となっている。地区別では、中央農村部、朝日地区で「運行回数」について、中央市街地で「運行の時間帯」について、中央農村部で「運行経路」について、中央市街地、多寄地区で「利用料金」について《I：さらにグレードアップが期待される領域》となっている。一方で、上士別地区が「運行回数」で、多寄地区が「運行の時間帯」で、上士別地区が「運行経路」で、上士別、温根別、朝日地区が「利用料金」で《IV：至急改善が必要な領域》となっている。

前回と比較すると、市全体としては「運行回数」が《IV：至急改善が必要な領域》から《II：当面は現状維持が望ましい領域》となっている。地区別では、中央農村部、朝日地区で「運行回数」

について、中央市街地で「運行の時間帯」について、中央市街地、多寄地区で「利用料金」について新たに《I：さらにグレードアップが期待される領域》となっている。一方で、多寄地区が「運行の時間帯」で、上土別地区が「運行経路」で、温根別、朝日地区が「利用料金」で新たに《IV：至急改善が必要な領域》となっている。

### (6) - B バスの利用頻度

問3の3-6に関連してお聞きします。士別市内で、バスをどの程度ご利用になりますか。

当てはまる項目を1つだけ選び、○で囲んでください。

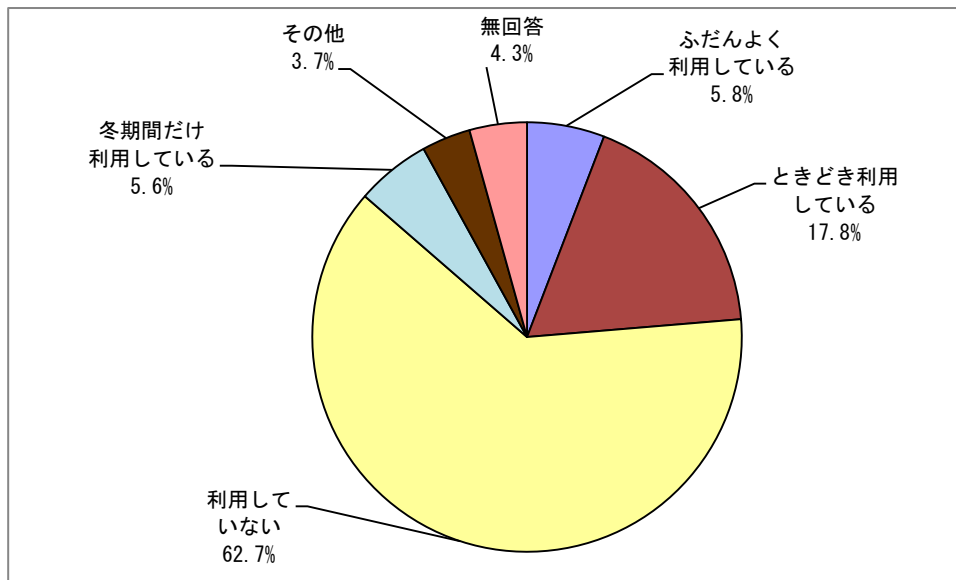
【図表－ 84】 回答数（実数）

		ふだんよく 利用している	ときどき利用 している	利用して いない	冬期間だけ 利用している	その他	無回答
3.6.B	バスの利用頻度	54	165	580	52	34	40

【図表－ 85】 構成比（%）

		ふだんよく 利用している	ときどき利用 している	利用して いない	冬期間だけ 利用している	その他	無回答
3-6-B	バスの利用頻度	5.8	17.8	62.7	5.6	3.7	4.3

【図表－ 86】 図表 85 のグラフ化



## (7) 市民生活やまちづくり全般

問3の全項目を総合的に判断して、市民生活やまちづくり全般の満足度評価

### a. 単純集計

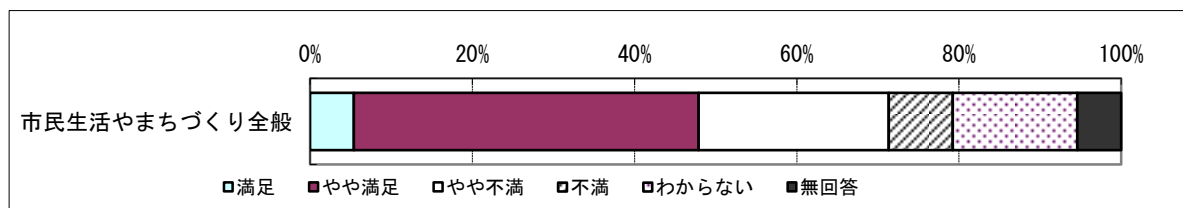
【図表－87】回答数（実数）

		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
3.7	市民生活やまちづくり全般	50	393	217	73	142	50

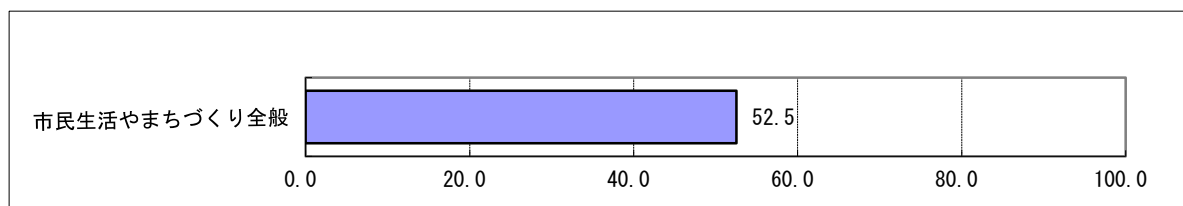
【図表－88】構成比（%）

		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
3.7	市民生活やまちづくり全般	5.4	42.5	23.5	7.9	15.4	5.4

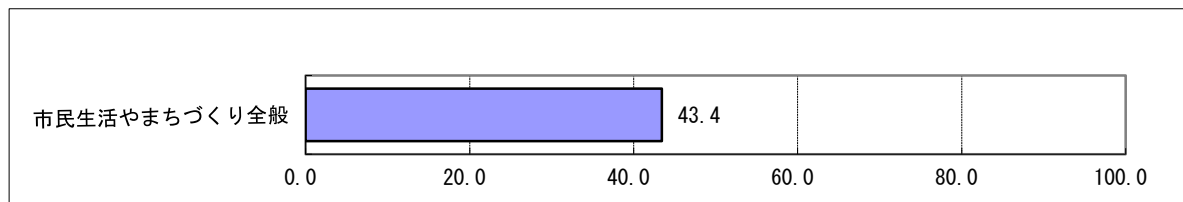
【図表－89】図表88のグラフ化



【図表－90(1)】市民生活やまちづくり全般の満足度の平均



【図表－90(2)】市民生活やまちづくり全般の満足度の平均（前回調査）



※平均値は次の重み付けで算出:「満足」=100、「やや満足」=67、「やや不満」=33、「不満」=0。  
平均値を算出する分母は、上記4つの選択肢のいずれかを選択した人の総数。

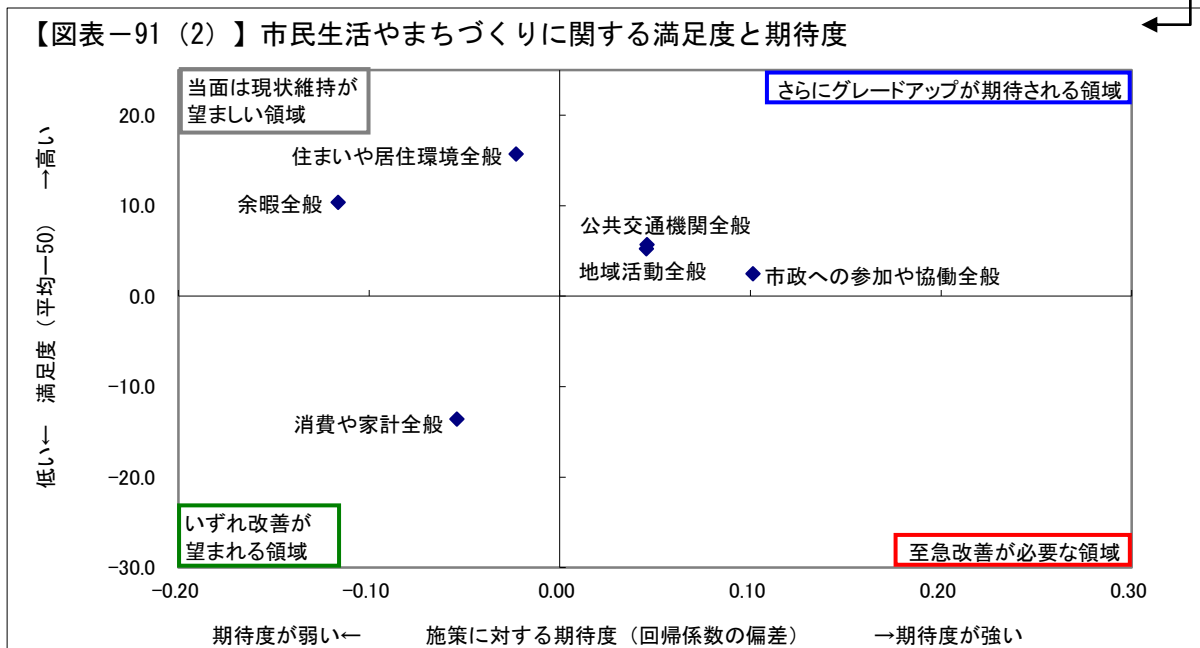


**b. 最適化指標（各分野ごとの総合化/市別市全体）**

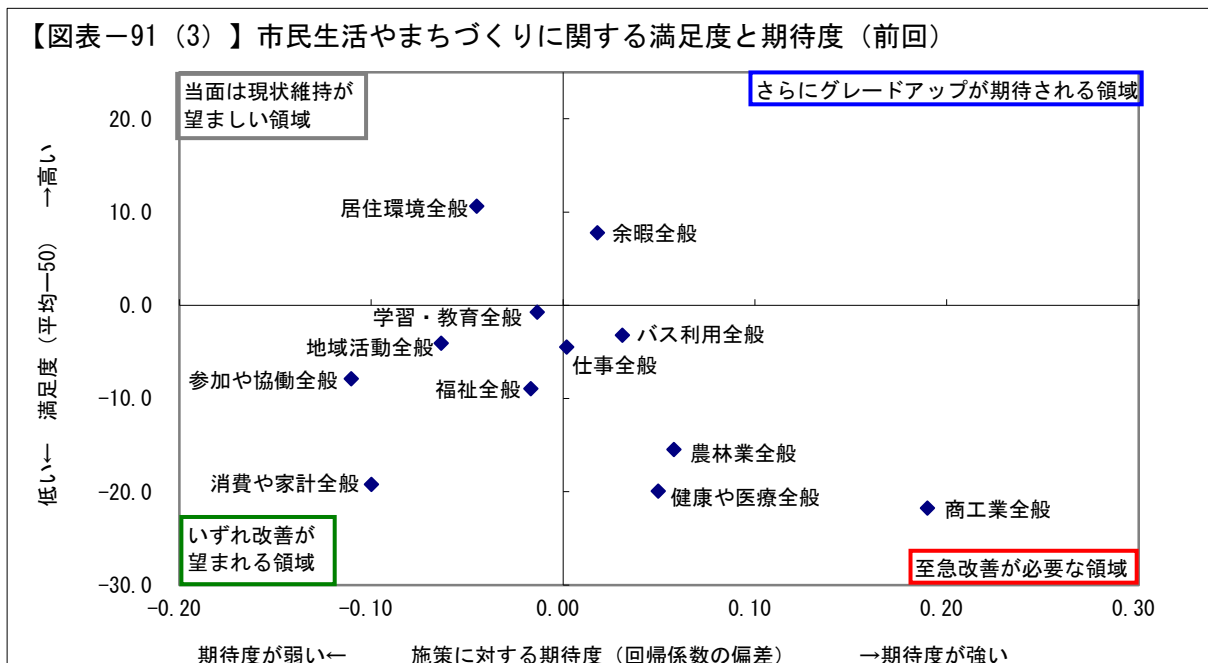
【図表－91（1）】重回帰分析の結果

		R	R2 乗	調整済み R2 乗	推定値の 標準誤差				
		0.745	0.555	0.55					
		非標準化係数		標準化係数	t 値	有意確率	満足度の 平均値	重視度 $\beta$ の偏差	満足度 平均-50
		B	標準誤差	$\beta$					
(定数)		6.023	2.967		2.030	0.043			
Q3.1.9	住まいや居住環境全般の満足度	0.144	0.045	0.14	3.182	0.002	65.7	-0.02	15.7
Q3.2.10	余暇全般の満足度	0.047	0.042	0.05	1.123	0.262	60.4	-0.12	10.4
Q3.3.8	消費や家計全般の満足度	0.097	0.037	0.11	2.610	0.009	36.4	-0.05	-13.6
Q3.4.9	地域活動や社会全般の満足度	0.198	0.047	0.21	4.243	0.000	55.2	0.05	5.2
Q3.5.4	市政への参加や協働全般の満足度	0.243	0.045	0.27	5.346	0.000	52.5	0.10	2.5
Q3.6.5	公共交通機関の利用全般に関する満足度	0.178	0.038	0.21	4.741	0.000	55.7	0.05	5.7

【図表－91（2）】市民生活やまちづくりに関する満足度と期待度



【図表－91（3）】市民生活やまちづくりに関する満足度と期待度（前回）



c. 最適化指標（各分野ごとの総合化/地区別）

【図表－ 92】

	中央市街地		中央農村部		上士別		多寄		温根別		朝日	
	重視度	満足度	重視度	満足度	重視度	満足度	重視度	満足度	重視度	満足度	重視度	満足度
	$\beta$ の偏差	平均-50	$\beta$ の偏差	平均-50	$\beta$ の偏差	平均-50	$\beta$ の偏差	平均-50	$\beta$ の偏差	平均-50	$\beta$ の偏差	平均-50
Q3.1.9	-0.071	16.7	-0.020	12.7	-0.168	9.7	0.500	19.8	1.346	18.8	0.174	12.8
Q3.2.10	-0.110	9.9	-0.292	11.8	0.146	11.0	0.061	9.0	-0.049	18.8	-0.262	10.5
Q3.3.8	0.017	-13.7	-0.446	-10.2	-0.163	-9.0	-0.521	-16.7	-0.255	-19.0	-0.217	-16.1
Q3.4.9	0.032	5.1	0.309	4.1	-0.164	2.7	0.780	11.0	-1.573	11.6	0.010	9.6
Q3.5.4	0.119	2.7	0.060	0.3	0.107	1.5	-1.032	10.7	1.301	1.3	0.110	5.3
Q3.6.5	0.014	8.3	0.390	3.5	0.242	-6.6	0.213	3.7	-0.769	-7.5	0.184	-2.7



【図表－ 93 (1)】 市民生活やまちづくり全般

		最適化指標						市全体
		居住地区別						
		中央市街地	中央農村部	上士別	多寄	温根別	朝日	
Q3.1.9	住まいや居住環境全般の満足度	II	II	II	I	I	I	II
Q3.2.10	余暇全般の満足度	II	II	I	I	II	II	II
Q3.3.8	消費や家計全般の満足度	IV	III	III	III	III	III	III
Q3.4.9	地域活動や社会全般の満足度	I	I	II	I	II	I	I
Q3.5.4	市政への参加や協働全般の満足度	I	I	I	II	I	I	I
Q3.6.5	公共交通機関の利用全般に関する満足度	I	I	IV	I	III	IV	I

※凡例

I	さらにグレードアップが期待される領域
II	当面は現状維持が望ましい領域
III	いずれ改善が望まれる領域
IV	至急改善が必要な領域

【図表－93 (2)】 市民生活やまちづくり全般（前回調査）

		最適化指標						市全体
		居住地区別						
		中央市街地	中央農村部	上士別	多寄	温根別	朝日	
Q3.1.9	住まいや居住環境全般の満足度	II	II					II
Q3.2.7	学習・教育全般の満足度	IV	IV	I	III			III
Q3.3.5	健康や医療全般の満足度	III	III					IV
Q3.4.7	福祉全般の満足度	IV	I					III
Q3.5.10	余暇全般の満足度	II	I		III			I
Q3.6.4	仕事全般の満足度	IV	I					IV
Q3.7.8	消費や家計全般の満足度	III	IV	I	III			III
Q3.8.7	地域活動や社会活動全般の満足度	III	I	III	IV	I		III
Q3.9.4	市政への参加や協働全般の満足度	III	III					III
Q3.10.7	市民生活と農林業の関わり全般の満足度	III	IV	I	III			IV
Q3.11.9	市民生活と商工業の関わり全般の満足度	IV	I					IV
Q3.12.5	バスの運行・利用全般に関する満足度	I	IV	I	IV	I		IV

「市民生活やまちづくり全般」に関する士別市全体と属性別の最適化指標について、4つの領域のうち特に《Ⅰ：さらにグレードアップが期待される領域》と《Ⅳ：至急改善が必要な領域》に注目して整理する。

市全体としては、「地域活動や社会全般の満足度」「市政への参加や協働全般の満足度」「公共交通機関の利用全般に関する満足度」が《Ⅰ：さらにグレードアップが期待される領域》となっている。

地区別では、多寄、温根別、朝日地区で「住まいや居住環境全般の満足度」について、上士別、多寄地区で「余暇全般の満足度」について、上士別、温根別地区以外の地区で「地域活動や社会全般の満足度」について、多寄地区以外の地区で「市政への参加や協働全般の満足度」について、中央市街地、中央農村部、多寄地区で「公共交通機関の利用全般に関する満足度」について《Ⅰ：さらにグレードアップが期待される領域》となっている。また、中央市街地で「消費や家計全般の満足度」について、上士別、朝日地区で「公共交通機関の利用全般に関する満足度」について《Ⅳ：至急改善が必要な領域》となっている。

前回と比較すると、市全体としては「公共交通機関の利用全般に関する満足度」については《Ⅳ：至急改善が必要な領域》から《Ⅰ：さらにグレードアップが期待される領域》となっている。地区別では前回《指標が算出されなかった項目》で《Ⅰ：さらにグレードアップが期待される領域》となっているのが、多寄、温根別、朝日地区で「住まいや居住環境全般の満足度」について、上士別地区で「余暇全般の満足度」について、朝日地区で「地域活動や社会全般の満足度」について、上士別、温根別、朝日地区で「市政への参加や協働全般の満足度」となっている。一方で、中央市街地で「消費や家計全般の満足度」について、上士別、朝日地区で「公共交通機関の利用全般に関する満足度」について新たに《Ⅳ：至急改善が必要な領域》となっている。

#### d. 最適化指標（全ての施策項目の総合化）

【図表－94】全項目の最適化指標（標準化した係数）

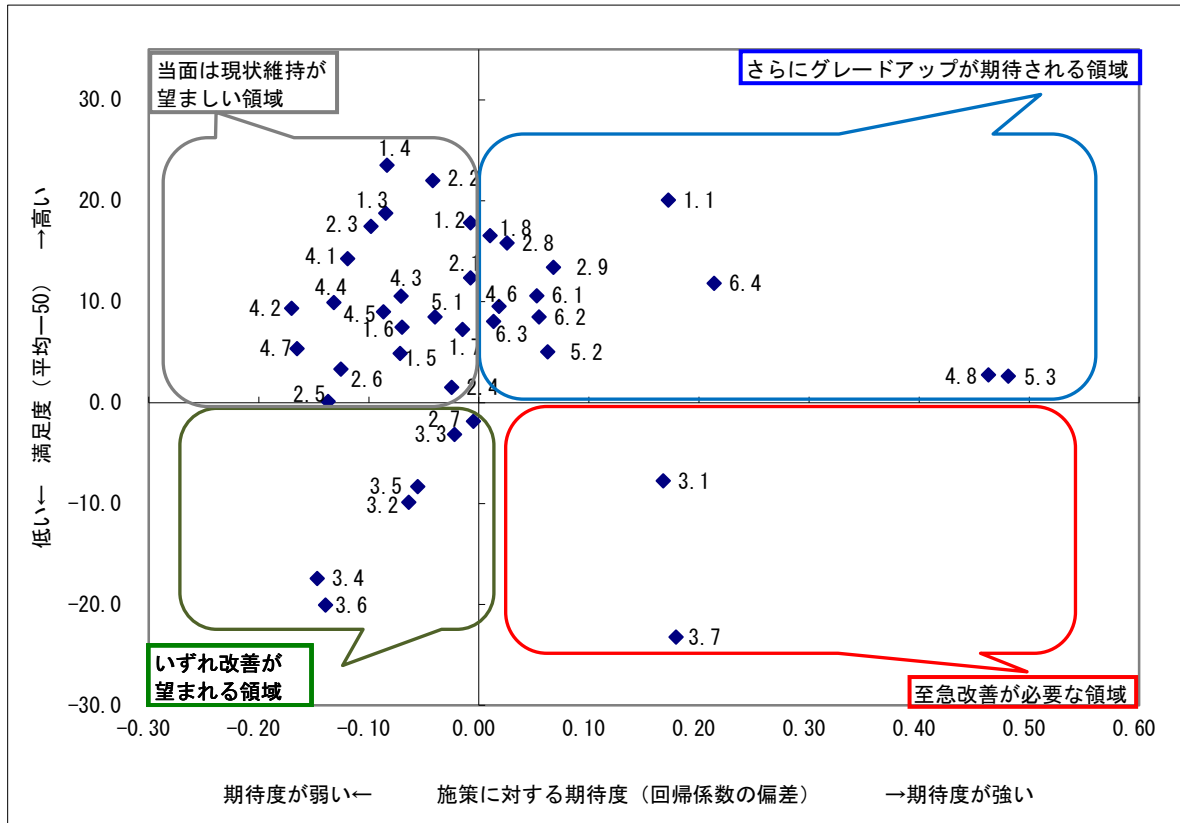
		重視度	満足度
		回帰係数の 偏差	平均-50
<b>(1) 住まいや居住環境</b>			
Q3.1.1	住宅の住み心地	0.17	20.1
Q3.1.2	自宅周辺環境の快適さ	-0.01	17.8
Q3.1.3	自宅周辺環境の安全性	-0.08	18.8
Q3.1.4	自宅周辺環境の衛生性	-0.08	23.5
Q3.1.5	自宅周辺環境の利便性	-0.07	4.9
Q3.1.6	冬期間の自宅周辺の除排雪の状況	-0.07	7.5
Q3.1.7	冬期間の外出のしやすさ	-0.01	7.2
Q3.1.8	資源の再利用、ごみ減量化などの状況	0.01	16.5
<b>(2) 余暇</b>			
Q3.2.1	余暇に費やす時間的なゆとり	-0.01	12.4
Q3.2.2	自宅での気ままな時間や家族との団らん	-0.04	22.0
Q3.2.3	友人との交流	-0.10	17.5
Q3.2.4	自己の教養・学習を身につける場や機会	-0.02	1.5
Q3.2.5	芸術文化を楽しむ場や機会	-0.14	0.1
Q3.2.6	スポーツを楽しむ場や機会	-0.13	3.3
Q3.2.7	旅行やレジャーレクを楽しむ場や機会	0.00	-1.9
Q3.2.8	家庭菜園やガーデニングなどを楽しむ機会	0.03	15.8
Q3.2.9	自然と親しむ場や機会	0.07	13.4
<b>(3) 消費や家計</b>			
Q3.3.1	家計のゆとり	0.17	-7.8
Q3.3.2	臨時的な出費への備え	-0.06	-9.9
Q3.3.3	消費に関する相談の場や機会	-0.02	-3.2
Q3.3.4	電気・ガス・灯油などの	-0.15	-17.4
Q3.3.5	水道・下水道などの公共料金	-0.06	-8.3
Q3.3.6	所得税や消費税など	-0.14	-20.1
Q3.3.7	市民税・国民健康保険料・介護保険料など	0.18	-23.2
<b>(4) 市民による地域活動・社会活動</b>			
Q3.4.1	近所付き合い	-0.12	14.2
Q3.4.2	地域の自治会・行政区活動	-0.17	9.3
Q3.4.3	ボランティア活動	-0.07	10.5
Q3.4.4	環境に関する社会活動	-0.13	9.9
Q3.4.5	周りで行われている	-0.09	9.0
Q3.4.6	子育てに関する社会活動	0.02	9.5
Q3.4.7	まちづくり活動	-0.17	5.3
Q3.4.8	地域活動を支える場や仕組み	0.46	2.7
<b>(5) 市政への参加や協働</b>			
Q3.5.1	市政に関する情報提供の場や機会	-0.04	8.5
Q3.5.2	市政への市民参加の場や機会	0.06	5.0
Q3.5.3	市民と行政の協働	0.48	2.6
<b>(6) 公共交通機関</b>			
Q3.6.1	運行回数	0.05	10.6
Q3.6.2	運行の時間帯	0.05	8.5
Q3.6.3	運行経路	0.01	8.0
Q3.6.4	利用料金	0.21	11.8

※全項目の回帰係数を同一の基準で置き換えた数値の偏差を用いている。

※マトリックスの色パターンは、これまでの凡例と同様

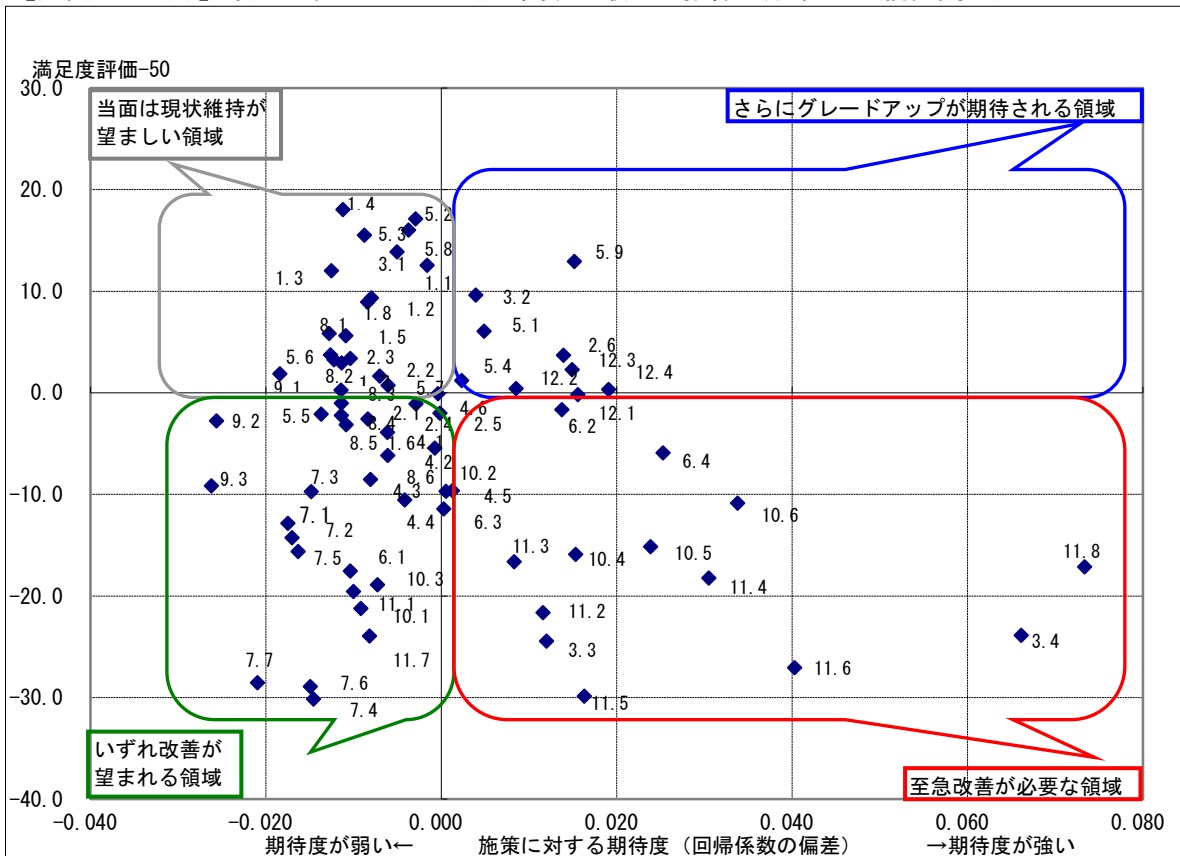
e. 最適化指標の散布図

【図表- 95 (1)】 市民生活とまちづくりに関する最適化指標の分布 : A

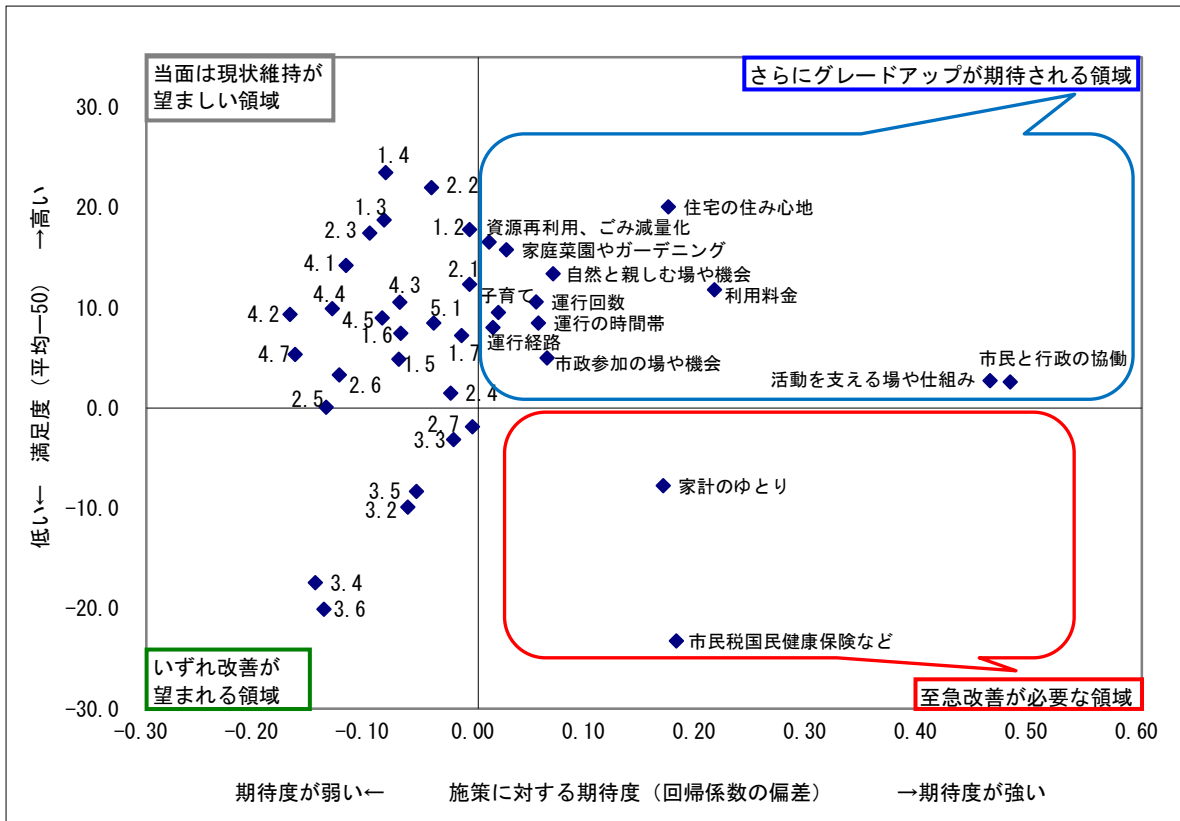


※散布図に記された記号は64ページ掲載の【図表-94】各項目の番号

【図表-95 (2)】 市民生活とまちづくりに関する最適化指標の分布 : A (前回調査)

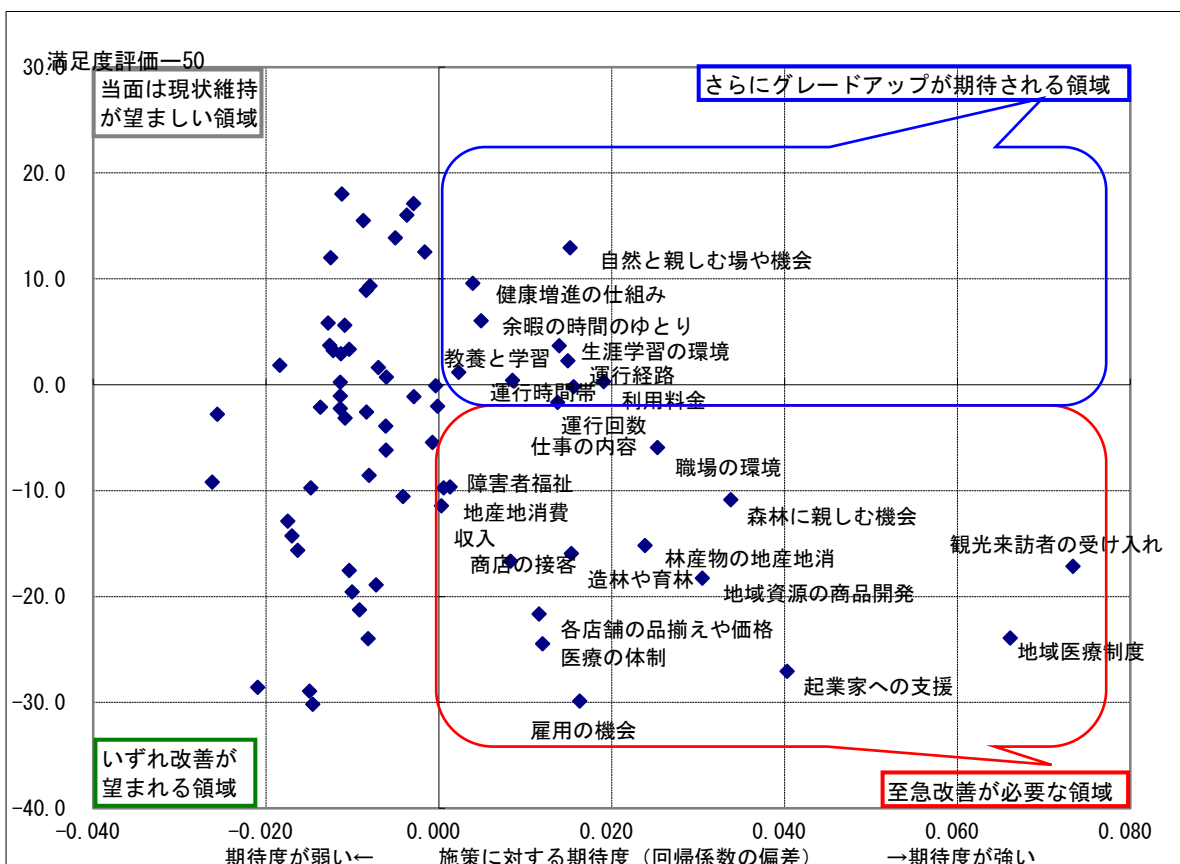


【図表－96 (1)】市民生活とまちづくりに関する最適化指標の分布：B



【図表－96】は【図表－95】と同じグラフである。「市民生活とまちづくり全般」に関する最適化指標について、4つの領域のうち特に「Ⅰ：さらにグレードアップが期待される領域」と「Ⅳ：至急改善が必要な領域」に注目して、該当する項目に名称を付したものである。

【図表－96 (2)】市民生活とまちづくりに関する最適化指標の分布：B (前回調査)



「市民生活やまちづくり全般」に関する士別市全体と属性別の最適化指標の分布について、4つの領域のうち特に《Ⅰ：さらにグレードアップが期待される領域》と《Ⅳ：至急改善が必要な領域》に注目して整理する。

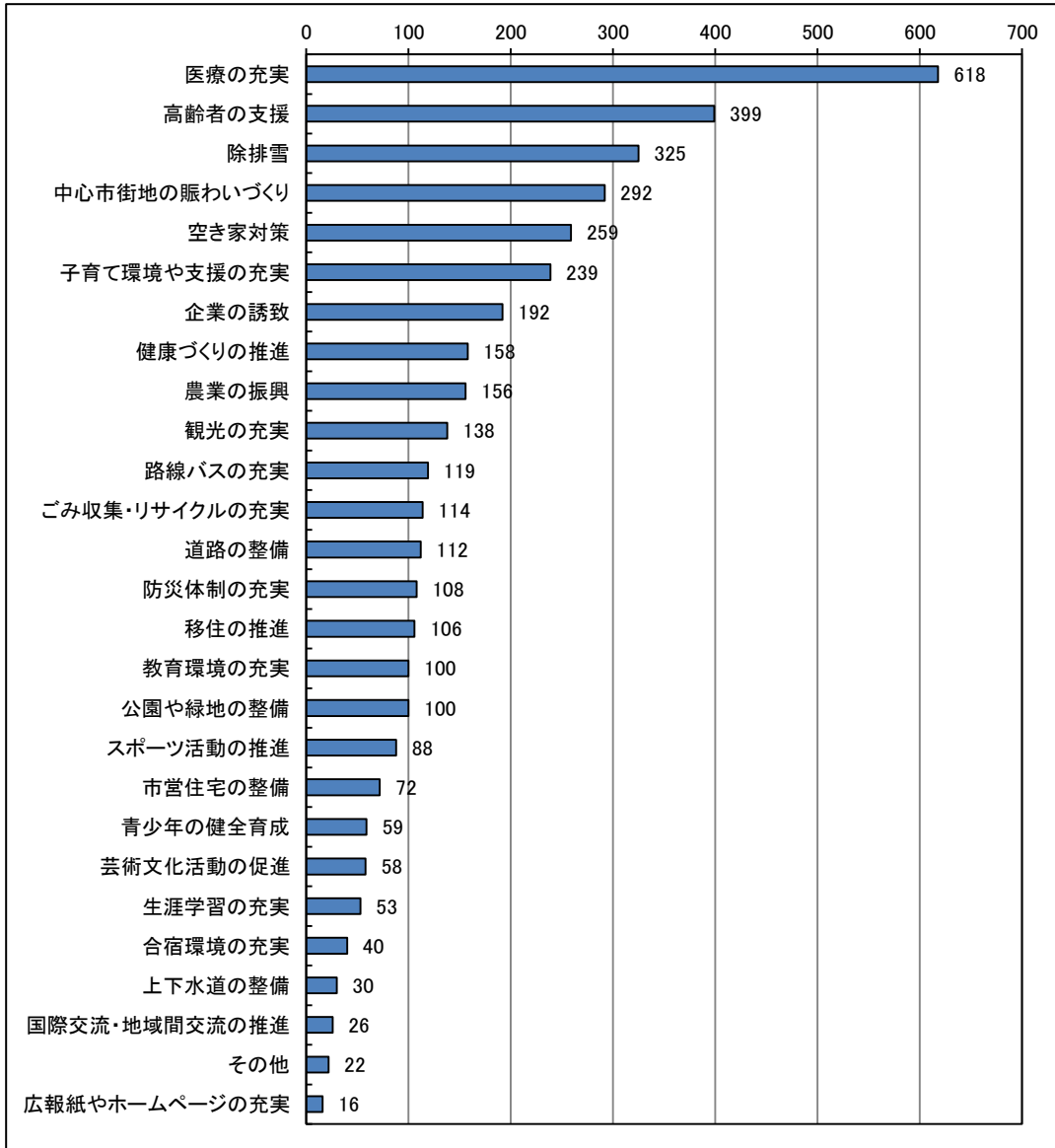
《Ⅳ：至急改善が必要な領域》となったのは「家計のゆとり」「市民税国民健康保険など」となっており、特に「市民税国民健康保険など」は満足度が低いため、より重点的に取り組む必要があると考えられる。また、《Ⅰ：さらにグレードアップが期待される領域》の中で、比較的満足度が高いのが「住宅の住み心地」「資源再利用、ごみ減量化」「家庭菜園やガーデニング」「自然と親しむ場や機会」「利用料金」などとなっている。一方で「市政参加の場や機会」「活動を支える場や仕組み」「市民と行政の協働」などは満足度が低いので、《Ⅰ：さらにグレードアップが期待される領域》の中でもより重点的なグレードアップを検討していく必要があると考えられる。

前回と比較すると、前回は《Ⅳ：至急改善が必要な領域》には多くの項目があったが、今回は「家計のゆとり」「市民税国民健康保険など」のみとなっている。また、前回も今回と同様に《Ⅰ：さらにグレードアップが期待される領域》にあったが、今回は満足度が上がっているのが「運行回数」「運行の時間帯」「運行経路」「利用料金」となっており、主に公共交通機関に対するものとなっている。さらに、前回は《Ⅰ：さらにグレードアップが期待される領域》にはなく今回新たに追加されている項目は「子育て」「資源再利用、ごみ減量化」「住宅の住み心地」「家庭菜園やガーデニング」「自然と楽しむ場や機会」となっている。

## (8) 特に推進してほしい政策・施策

今後、あなたが特に推進してほしいと思う政策・施策は何ですか。当てはまる項目を5つ選び、番号を○で囲んでください。

【図表－97 (1)】 推進してほしい政策・施策



【図表－97 (2)】 推進してほしい政策・施策 その他回答

・企業誘致	・市立病院の改革、改善
・大学施設	・インターネットの環境
・教員住宅に目を向けてみて	・道路へ投雪の監視、指導
・住民のマナー改善	・障がい者(児)家庭への支援充実、福祉環境の充実
・便利性高い農地対策等	・若い人が残りたいと思う町づくり
・地域に合った事業の拡充	・働く場所がない
・冬期でも子供が体を動かせる場所(屋内)	・新聞、箱、ダンボールの収集を多くしてほしい
・余暇を楽しむ場がほしい	・公衆トイレ、冬使用出来る所、増やしてほしい
・自然を活かした観光	・地球温暖化防止
・通信網の充実、整備	・河川の整備
・役所	・市立病院赤字補填の金額の再検討。病院よりも他に市税などを使ってほしい



## 2-4. 市民サービスの水準と負担

【問4】 あなたは、市の財政が厳しい中で、市民サービスの水準についてどのようにお考えですか。  
Aの考え方に近いのか、Bの考え方に近いのか、項目ごとに1から4までの中から一つだけ選んで、  
番号を○で囲んでください。

4.1	A サービスの水準を維持するためには、自己負担が増えてもやむを得ない	1 Aに近い	2 どちらかと言えば Aに近い	3 どちらかと言えば Bに近い	4 Bに近い	B 自己負担はできないので、サービスの水準が低下してやむを得ない
4.2	A サービス水準に高低をつける場合は、施策の違い（種類・分野など）によって優先度をつけるべきだ	1 Aに近い	2 どちらかと言えば Aに近い	3 どちらかと言えば Bに近い	4 Bに近い	B サービス水準の高低は、すべての施策にわたって一律に行うべきだ
4.3	A 行政と市民が協働で役割分担をし、ともにサービスを担うのが望ましい	1 Aに近い	2 どちらかと言えば Aに近い	3 どちらかと言えば Bに近い	4 Bに近い	B 市民が協働でサービスを担うのは、仕事や生活があるので難しい

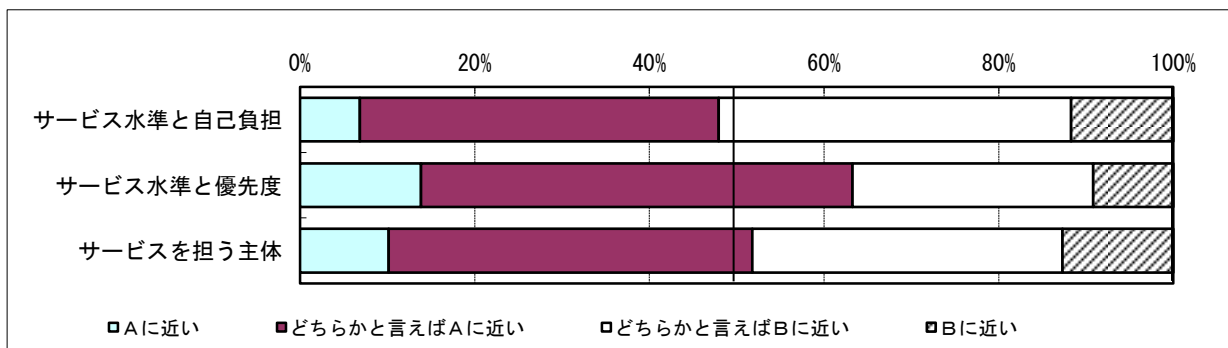
【図表-98】 回答数（実数）

回答数（実数）		Aに近い	どちらかと言えば Aに近い	どちらかと言えば Bに近い	Bに近い	無回答
Q4.1	サービス水準と自己負担	58	347	341	99	80
Q4.2	サービス水準と優先度	115	410	229	76	95
Q4.3	サービスを担う主体	85	348	297	106	89

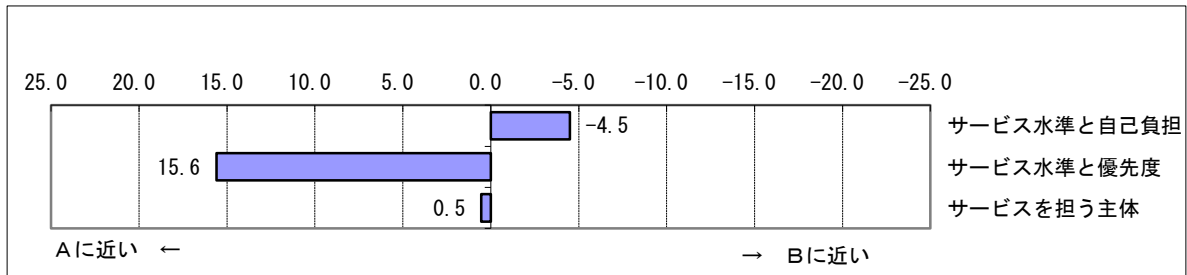
【図表-99】 構成比（%）

構成比（%）		Aに近い	どちらかと言えば Aに近い	どちらかと言えば Bに近い	Bに近い	無回答
Q4.1	サービス水準と自己負担	6.3	37.5	36.9	10.7	8.6
Q4.2	サービス水準と優先度	12.4	44.3	24.8	8.2	10.3
Q4.3	サービスを担う主体	9.2	37.6	32.1	11.5	9.6

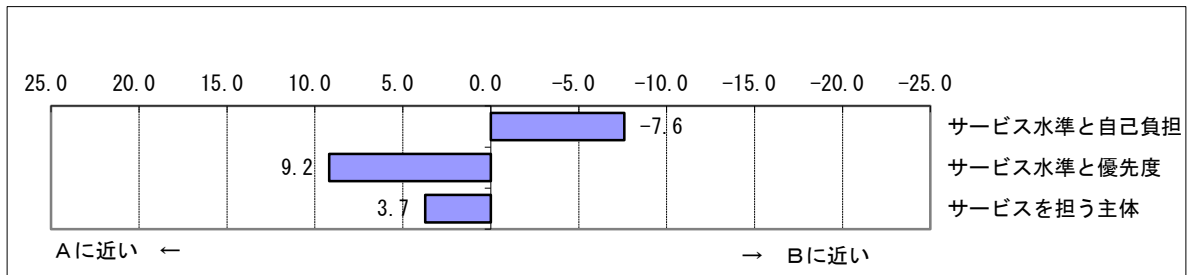
【図表-100】 図表99のグラフ化



【図表－ 101(1)】 サービス水準と市民負担の度合いの偏り



【図表－101(2)】 サービス水準と市民負担の度合いの偏り（前回調査）



※ 平均値は次の重み付けで算出:「Aに近い」=100、「どちらかと言えばAに近い」=50、「どちらかと言えばBに近い」=-50、「Bに近い」=-100

市民サービスの水準と市民負担のバランスのあり方について、3つの観点から調査した。

### ①市民サービスの水準と市民の自己負担のバランスについて

基本事項として、市民サービスを維持する上で市民の自己負担増大を容認するか、それとも市民の自己負担を増やさない代わりに市民サービスの低下を容認するか、という設問である。本来は、市民の自己負担を増やすことなく市民サービスの維持を図るのが原則である。特に、ナショナルミニマムと言われるサービス内容やそのサービス水準については、水準の低下や負担増大はなんとしても避けるべきである。しかし、項目によってはやむを得ず二者択一の選択を迫られる状況も想定される。その際の市民意向の在り処を把握したい、というのがこの設問の趣旨である。

回答を見ると、この設問に対する回答だけが他の2問と異なる傾向を示している。これ以上の市民負担はできないので、二者択一になるのであれば「サービス水準の低下もやむを得ない」という回答の方が4.5ポイント多い結果となっている。

### ②市民サービスの水準の優先度や重要度について

サービス水準の高低については、全ての施策を同じ扱いにするか、それとも施策の内容によって差別化を図るかという設問である。回答を見ると、「施策の違いによって優先度をつけて水準の高低を図るべきだ」という回答が、15.6ポイント多い結果となった。

### ③行政と市民の協働について

公的な市民サービスの担い手として、従来のように行政だけが行うのではなく、市民と行政が協力連携して担う協働方式が良いか、それともそれは実際には難しいとするのかに関する設問である。回答を見ると、協働方式で市民サービスを推進すべきという回答が、0.5ポイント多い結果となっている。

## 2-5. 実践したい地域活動・社会活動

【問 5】 地域活動や社会活動、市民参加や協働の活動を実施していますか。また、実践したいと思  
いますか。次の項目ごとに、一つだけ選んで、番号を○で囲んでください。

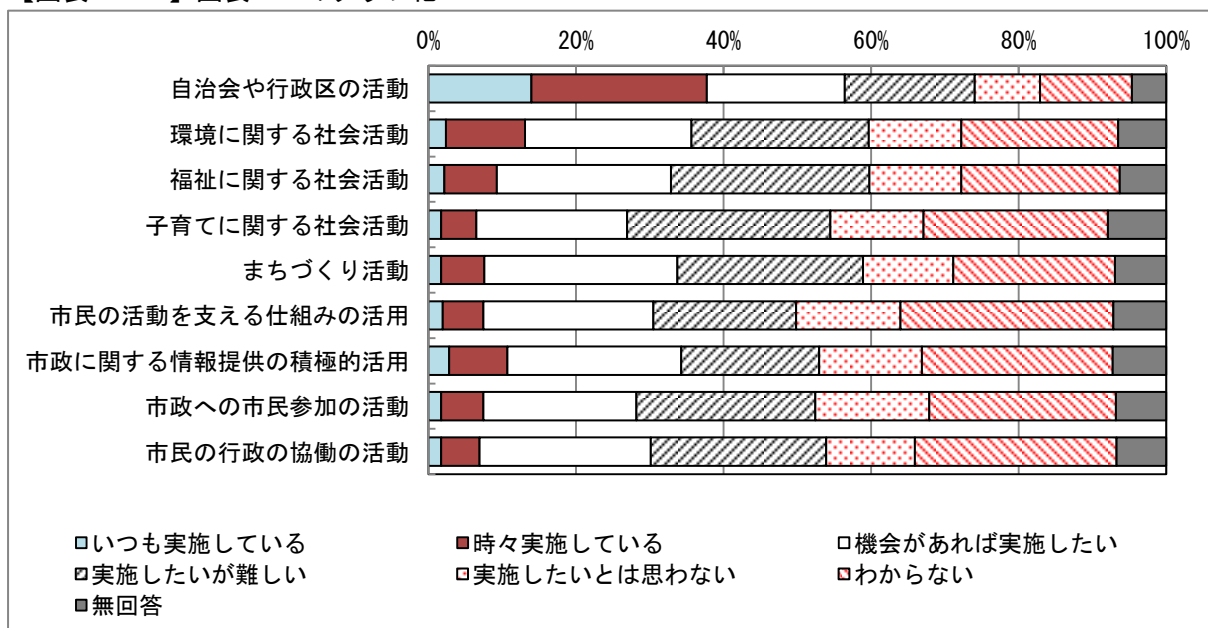
【図表- 102】 回答数 (実数)

回答数(実数)		いつも実施 している	時々実施 している	機会があれば 実施したい	実施したい が難しい	実施したいと は思わない	わからない	無回答
Q5.1	自治会や行政区の活動	129	220	173	163	82	115	43
Q5.2	環境に関する社会活動	22	99	209	222	116	197	60
Q5.3	福祉に関する社会活動	20	66	218	249	115	199	58
Q5.4	子育てに関する社会活動	16	44	189	255	117	231	73
Q5.5	まちづくり活動	16	54	242	233	113	203	64
Q5.6	市民の活動を支える仕組みの活用	18	51	213	179	131	267	66
Q5.7	市政に関する情報提供の積極的活用	26	73	218	173	129	239	67
Q5.8	市政への市民参加の活動	16	53	192	224	143	234	63
Q5.9	市民の行政の協働の活動	16	48	215	220	111	253	62

【図表- 103】 構成比 (%)

構成比 (%)		いつも実施し ている	時々実施 している	機会があれば 実施したい	実施したい が難しい	実施したいと は思わない	わからない	無回答
Q5.1	自治会や行政区の活動	13.9	23.8	18.7	17.6	8.9	12.4	4.6
Q5.2	環境に関する社会活動	2.4	10.7	22.6	24.0	12.5	21.3	6.5
Q5.3	福祉に関する社会活動	2.2	7.1	23.6	26.9	12.4	21.5	6.3
Q5.4	子育てに関する社会活動	1.7	4.8	20.4	27.6	12.6	25.0	7.9
Q5.5	まちづくり活動	1.7	5.8	26.2	25.2	12.2	21.9	6.9
Q5.6	市民の活動を支える仕組みの活用	1.9	5.5	23.0	19.4	14.2	28.9	7.1
Q5.7	市政に関する情報提供の積極的活用	2.8	7.9	23.6	18.7	13.9	25.8	7.2
Q5.8	市政への市民参加の活動	1.7	5.7	20.8	24.2	15.5	25.3	6.8
Q5.9	市民の行政の協働の活動	1.7	5.2	23.2	23.8	12.0	27.4	6.7

【図表- 104】 図表 103 のグラフ化



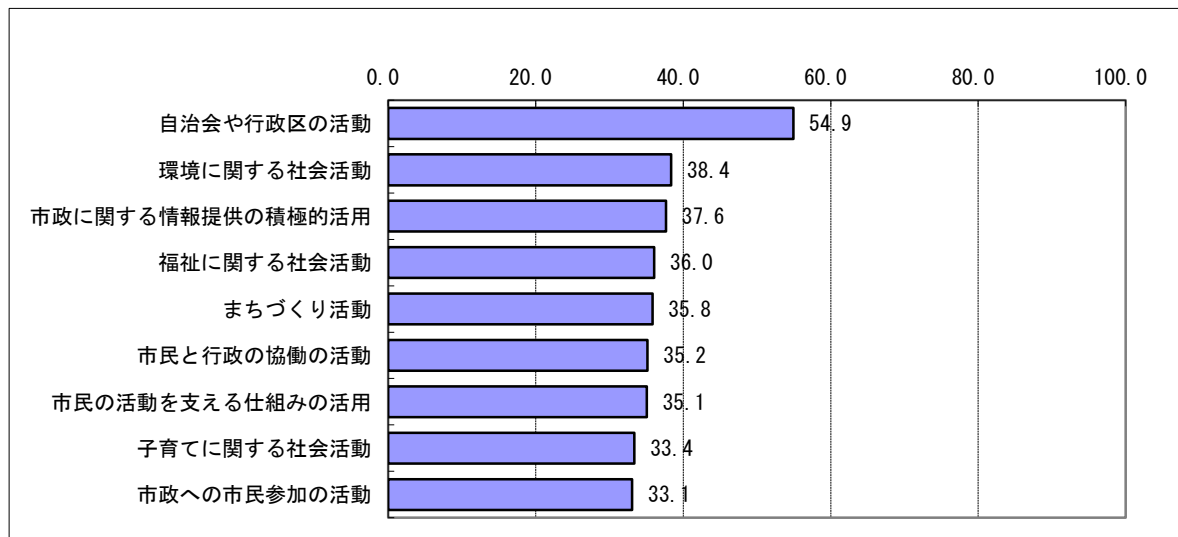
【図表-103】によると、常時あるいは時々活動している割合というのは、「自治会や行政区の活動」が37.7%でもっとも多い。次いで多いのが「環境に関する社会活動」の13.1%、「市政に関する情報提供の積極的活用」10.7%なので、地域コミュニティにおける活動を実践している割合がいか

高いか明瞭である。これと比べると、テーマ別の活動や市政への市民参加や協働などの実践活動はまだまだ少ないといえる。

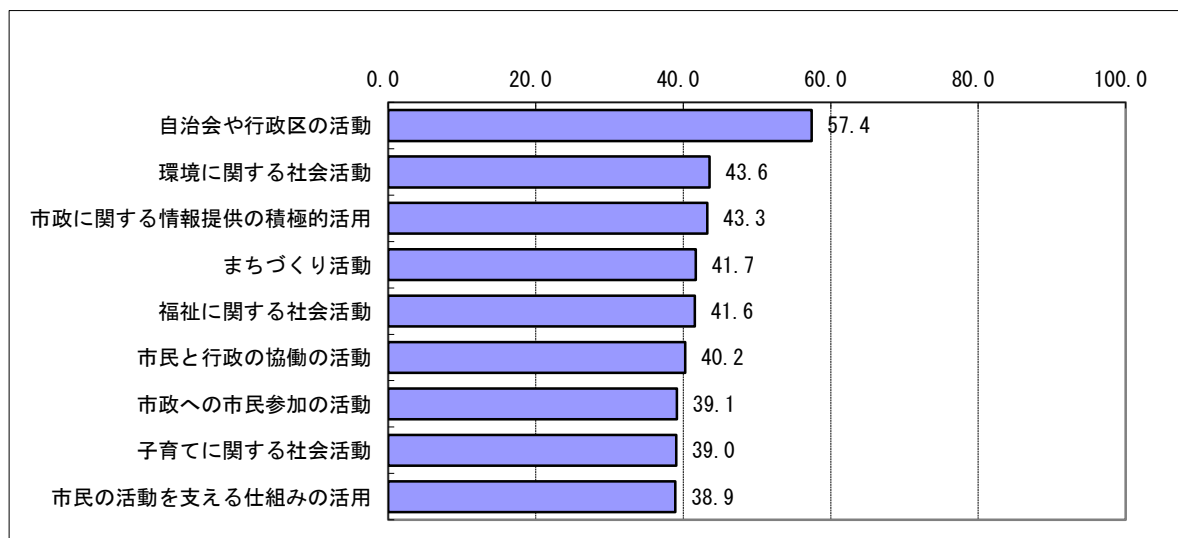
また、【図表－105 (1)】から実践への参加意欲などに注目してみると、地域活動や社会活動のジャンルとして、「自治会や行政区の活動」に関しては実践している割合が 54.9 ポイントで、他の項目より 15 ポイント以上高い割合となっている。その他の活動などはすべて 40 ポイント以下である。これは、住んでいる地域で暮らしやすいコミュニティを築きたいという意向の現れと受け止められる。54.9 ポイントという水準の意味は、この場合の換算値「時々実践している＝75」より小さく、「機会があれば実践したい＝50」より大きい値であるので、潜在的な状況であるともいえる。また、ほかの項目すべてが 40 ポイント以下にあるということは、同様の換算値からすると、なかなか思うように実践できない状況にある、ということを示していると思定される。しかし一方では、活動に関する市民の意欲は前向きのものであると受け止めることもできるので、いずれの項目に関しても今後の市民活動の潜在力に期待が持てるということを示した結果といえる。

前回との比較をみると、実践項目度合いはすべての項目で減少しており、「市政への市民参加の活動」がもっとも減少している。

【図表－ 105(1)】 地域活動や社会活動への実践希望度合いの平均

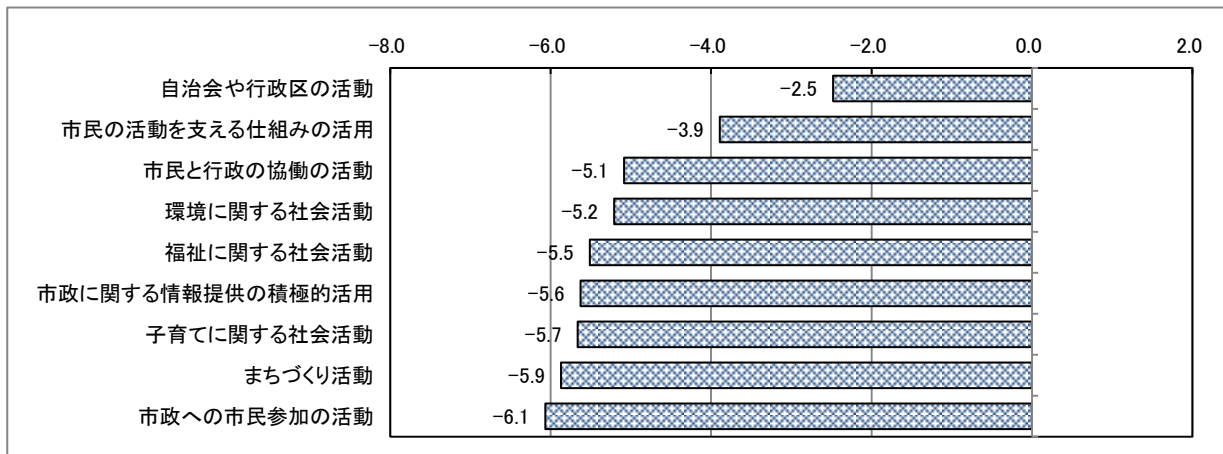


【図表－105 (2)】 地域活動や社会活動への実践希望度合いの平均（前回調査）



※ 平均値は次の重み付けで算出：「いつも実践している」＝100、「時々実践している」＝75、「機会があれば実践したい」＝50、「実践したいが難しい」＝25、「実践したいとは思わない」＝0

【図表－ 106】 地域活動や社会活動への実践希望度合いの平均 前回との比較



## 2-6. 郷土への愛着や定住意思

### (1) 士別市への愛着

【問 6】 あなたは、士別市に愛着を感じていますか。次の中から一つだけ選んで、番号を○で囲んでください。

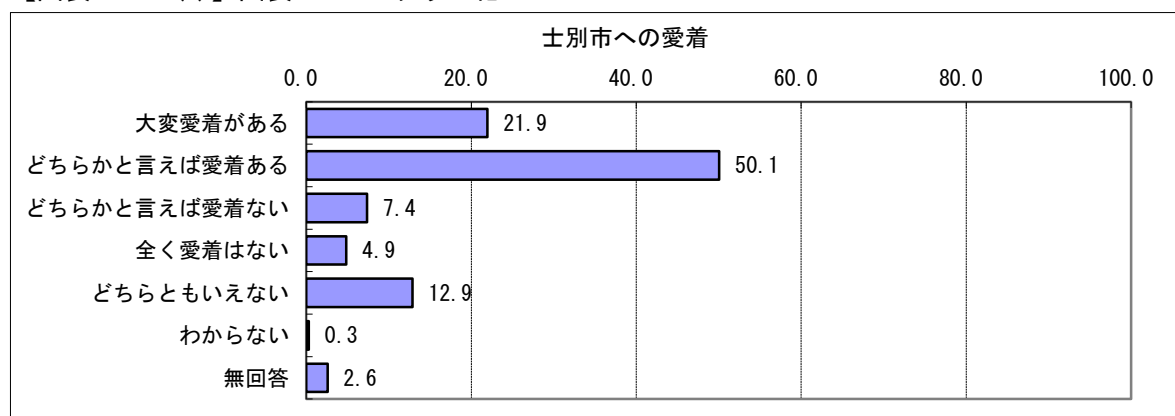
【図表- 107】 回答数 (実数)

		たいへん 愛着が ある	どちらか といえば 愛着が ある	どちらか といえば 愛着は ない	まったく 愛着は ない	どちら とも いえ ない	その他	無回答
Q6	士別市への愛着	203	463	68	45	119	3	24

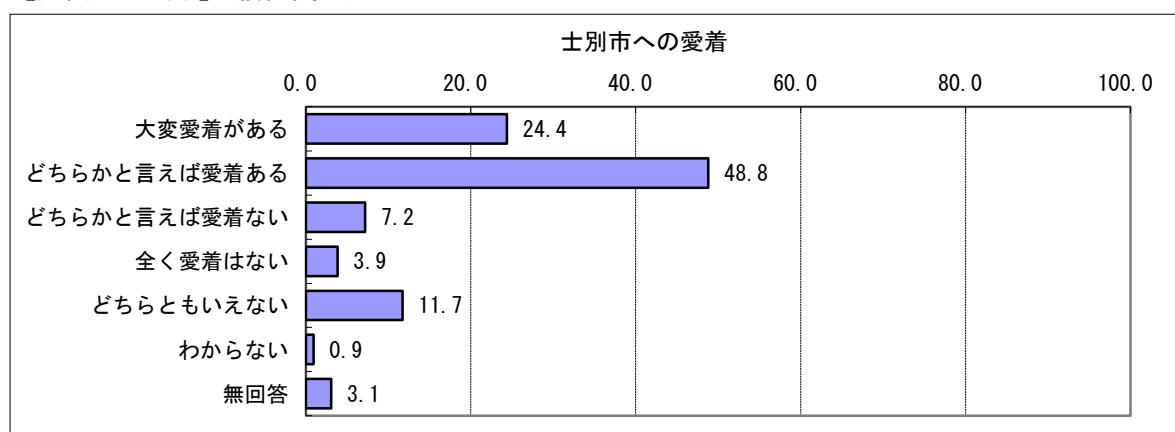
【図表- 108】 構成比 (%)

		たいへん 愛着が ある	どちらか といえば 愛着が ある	どちらか といえば 愛着は ない	まったく 愛着は ない	どちら とも いえ ない	その他	無回答
Q6	士別市への愛着	21.9	50.1	7.4	4.9	12.9	0.3	2.6

【図表- 109(1)】 図表-108 のグラフ化



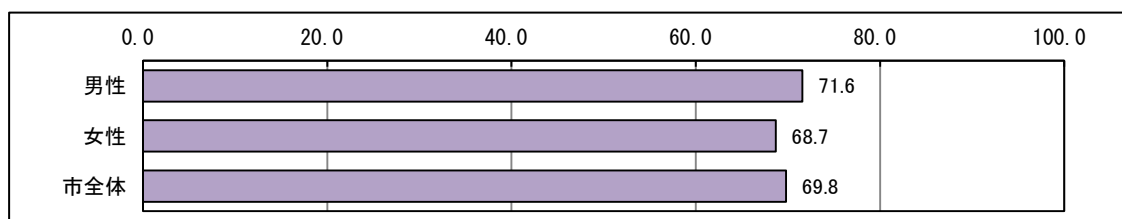
【図表- 109(2)】 (前回調査)



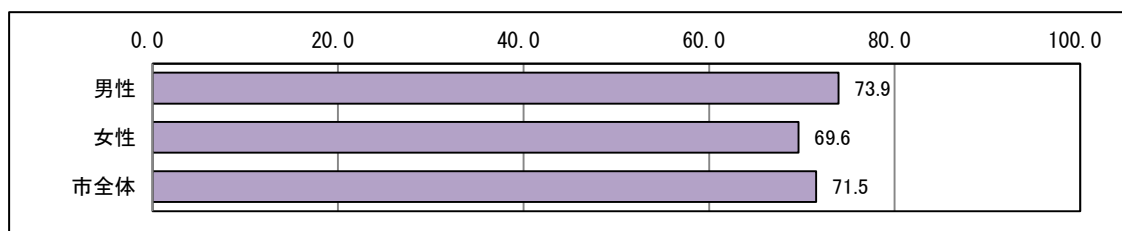
全市では、「大変愛着がある」と「どちらかといえば愛着がある」を合わせると、72.0%の市民が愛着を感じている。これを属性別にみると、性別からは大きな差異は見られないこと、高齢者ほど愛着度が高いこと、地区別では温根別地区で愛着度が高く、上士別、朝日地区では愛着度が低くなっていること、居住年数別では概ね居住年数が高いほど愛着度が高いこと、居住住宅別では持ち家で愛着度が高いことなどが特徴となっている。

性別による愛着度を前回と比較すると、男性の愛着度が若干下がっている。

【図表－ 110 (1)】性別による郷土愛着度の平均

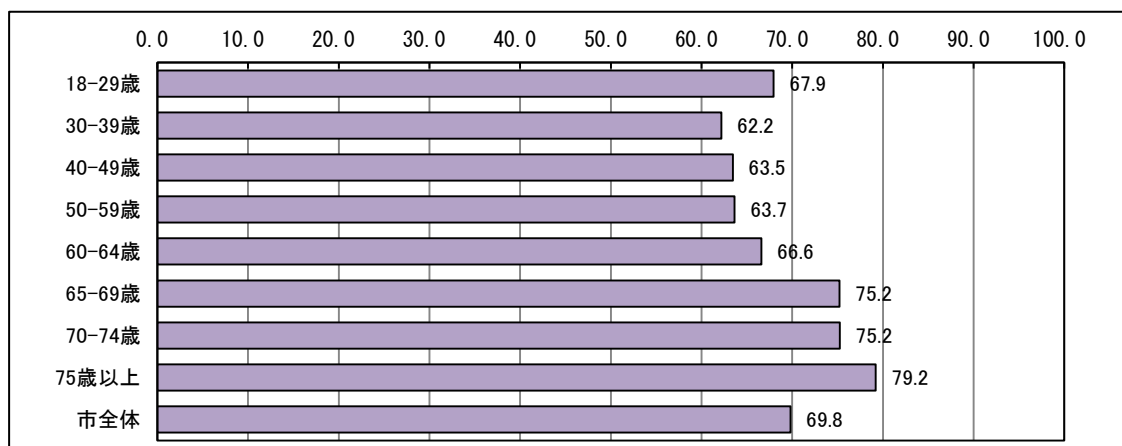


【図表－110 (2)】性別による郷土愛着度の平均（前回調査）

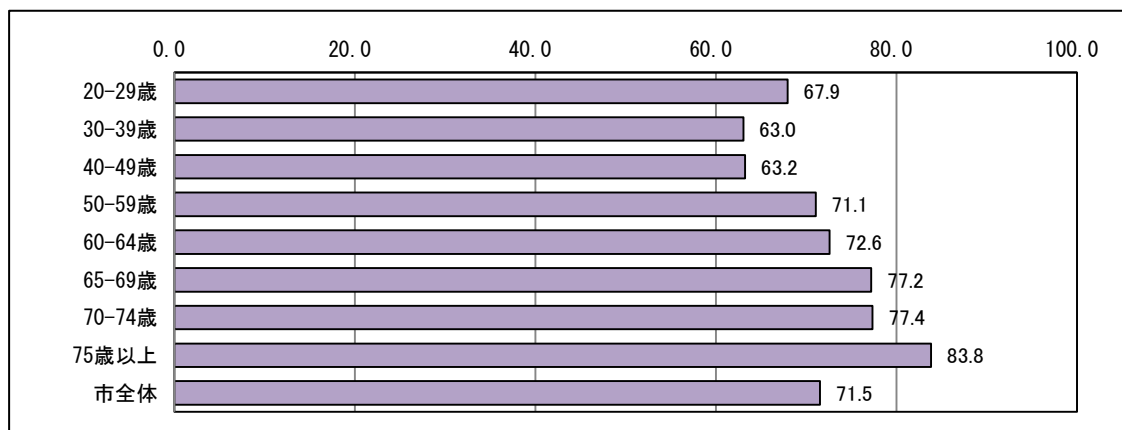


年齢別の愛着度を前回と比較すると、高齢者の愛着度が下がっており、特に 75 歳以上の愛着度が下がっている。

【図表－ 111 (1)】年齢別による郷土愛着度の平均

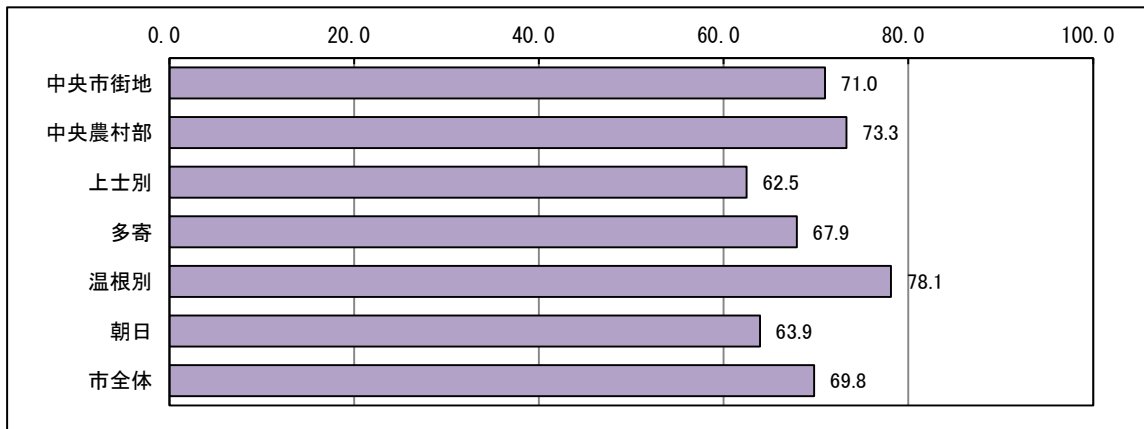


【図表－111 (2)】年齢別による郷土愛着度の平均（前回調査）

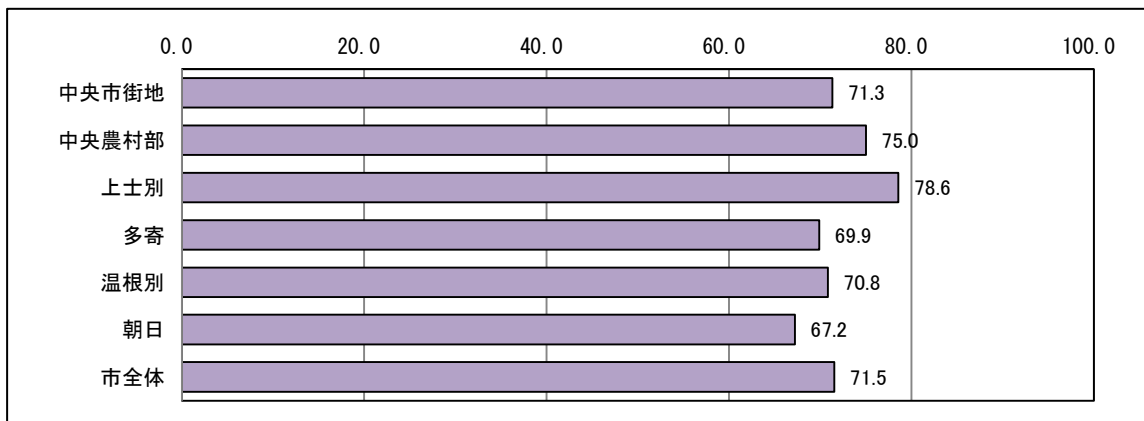


地区別の愛着度を前回と比較すると、上士別の愛着度が下がっている。一方で、温根別の愛着度が上がっている。

【図表－ 112 (1)】地区別による郷土愛着度の平均



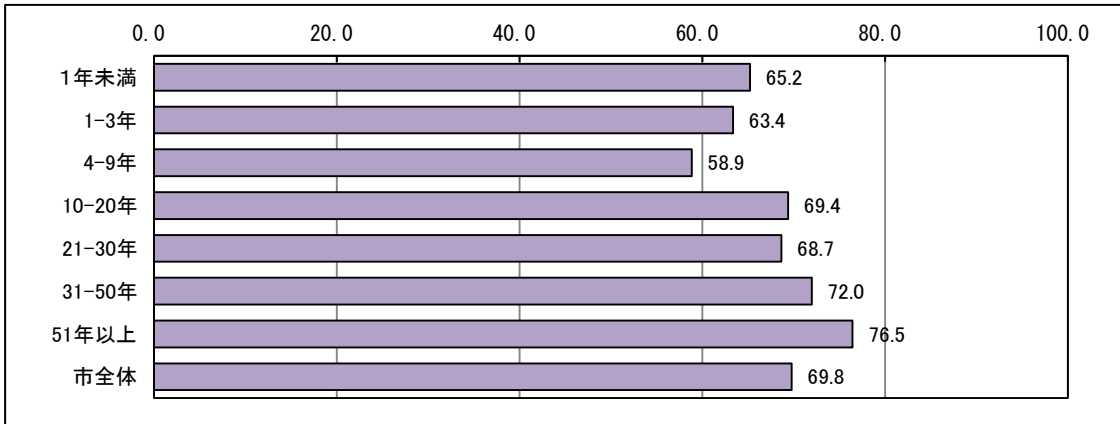
【図表－112 (2)】地区別による郷土愛着度の平均（前回調査）



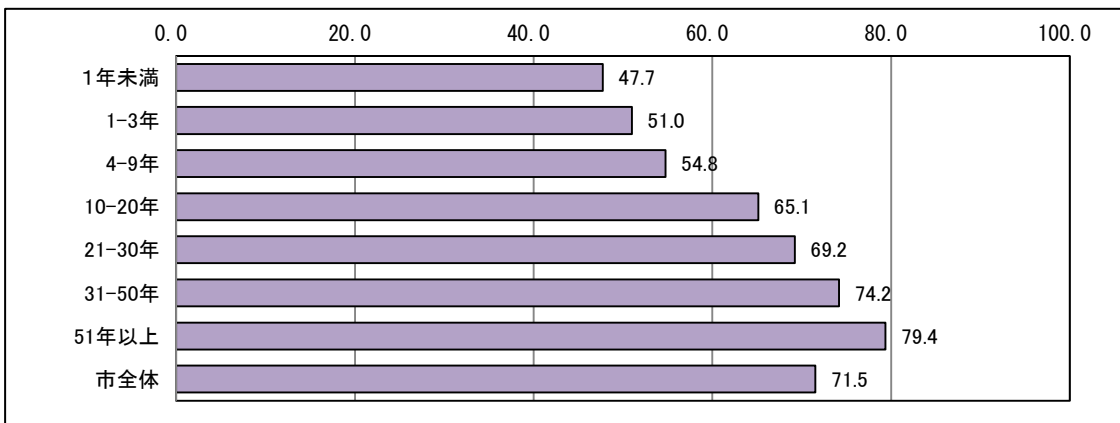


居住年数別の愛着度を前回と比較すると、居住年数が長いほど愛着度が高い傾向はあるが、居住年数が3年以下の愛着度が大きく上がっている。

【図表－ 113 (1)】 居住年数別による郷土愛着度の平均

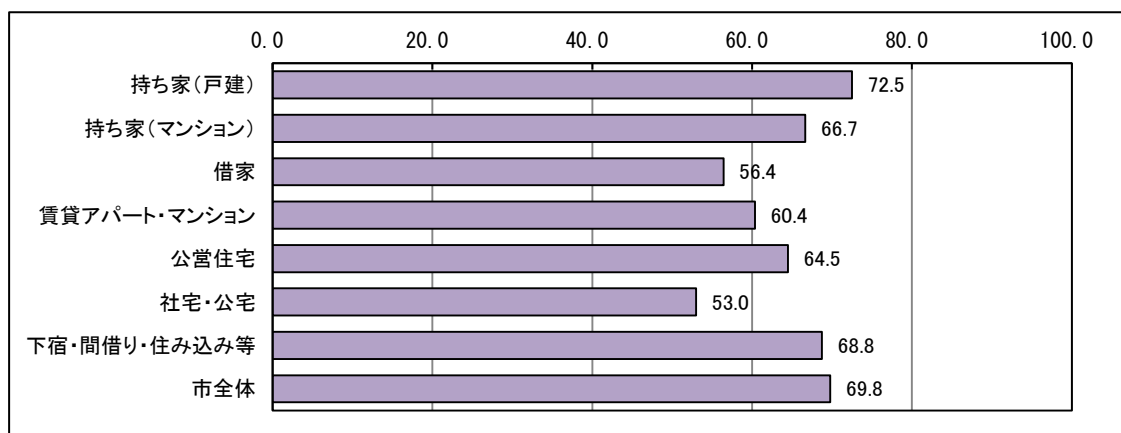


【図表－113 (2)】 居住年数別による郷土愛着度の平均（前回調査）

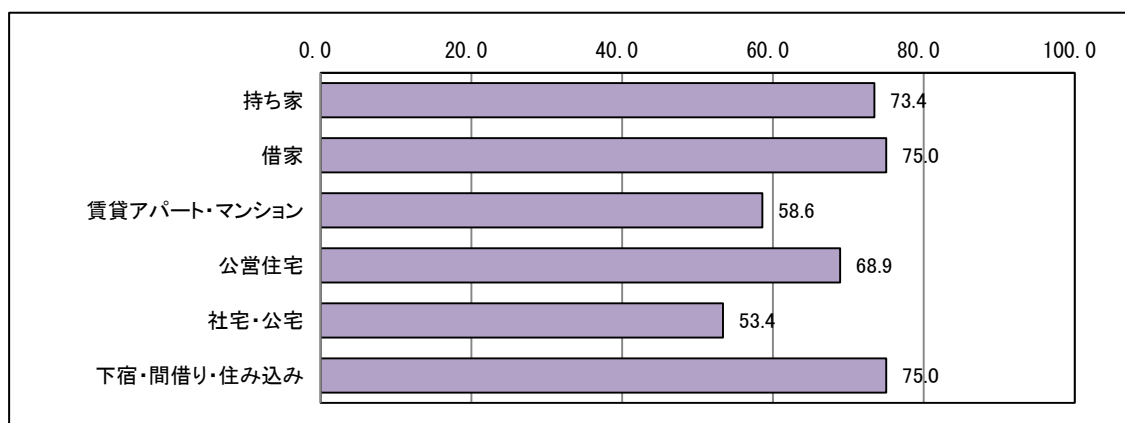


居住住宅別の愛着度を前回と比較すると、借家の愛着度が大きく下がっている。

【図表－ 114 (1)】 居住住宅別による郷土愛着度の平均



【図表－114 (2)】 居住住宅別による郷土愛着度の平均 (前回調査)



※ 平均値は次の重み付けで算出：「大変愛着がある」=100、「どちらかといえば愛着がある」=75、「どちらとも言えない」=50、「どちらかといえば愛着がない」=25、「愛着がない」=0

## (2) 定住意向

【問 7】 あなたは、将来も士別市に住み続けたいと思っていますか。次の中から一つだけ選んで、番号を○で囲んでください。

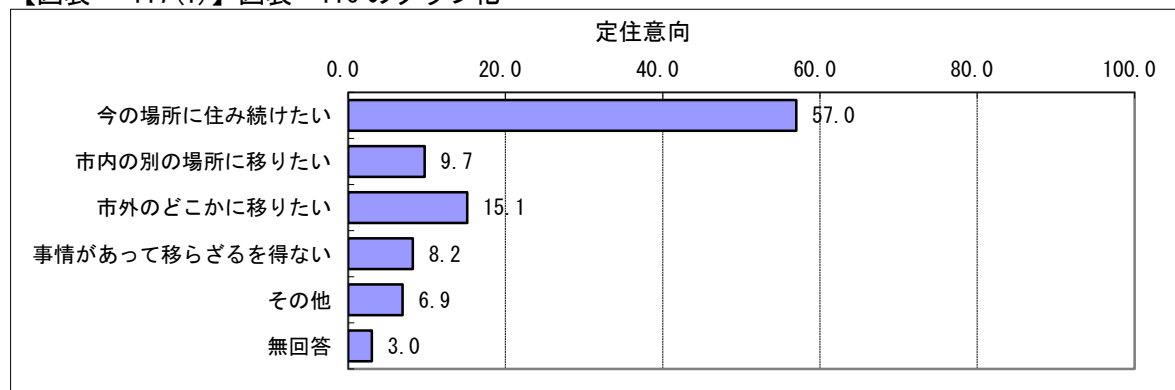
【図表－ 115】 回答数（実数）

		今の場所 に住み続 けたい	市内の別 の場所 に移りたい	市外のど こかに 移りたい	事情があ って移ら ざるを得 ない	その他	無回答
Q7	住み続けること	527	90	140	76	64	28

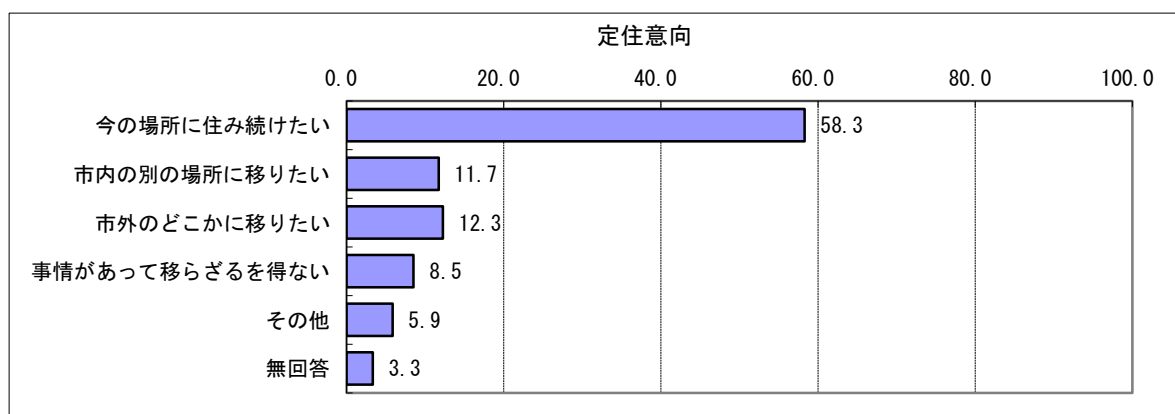
【図表－ 116】 構成比（％）

		今の場所 に住み続 けたい	市内の別 の場所 に移りたい	市外のど こかに 移りたい	事情があ って移ら ざるを得 ない	その他	無回答
Q7	住み続けること	57.0	9.7	15.1	8.2	6.9	3.0

【図表－ 117(1)】 図表－116 のグラフ化



【図表－117(2)】 (前回調査)

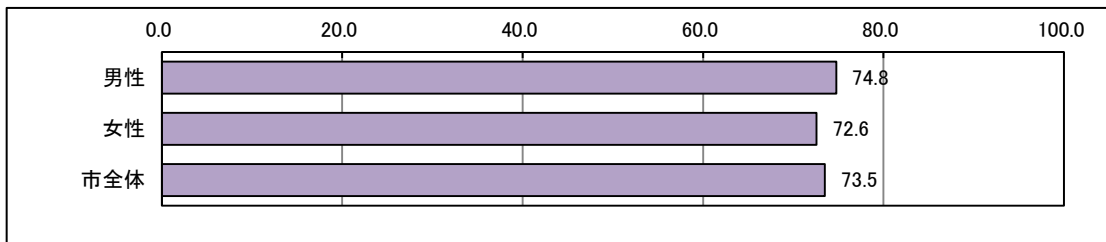


全市では、「今の場所に住み続けたい」が圧倒的に多く 57.0%を占める。また、「今の場所に住み続けたい」と「市内の別の場所に移りたい」を合わせると 66.7%の市民が市内定住を求めている。

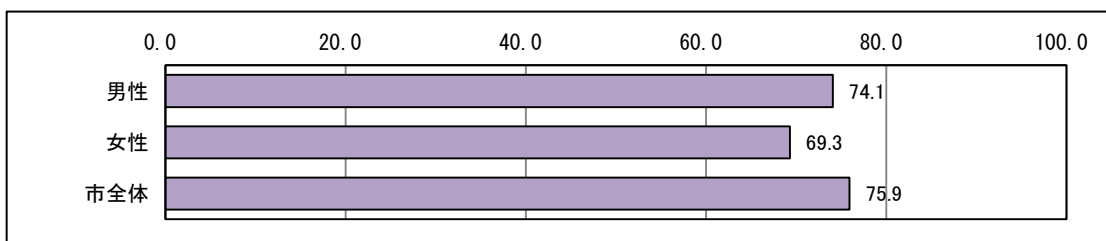
(図表－117 (1)) 属性別にみると、性別からは大きな差異がみられないこと (図表－118 (1))、高齢者ほど定住志向が強いこと (図表－119 (1))、地区別では朝日地区、中央市街地で定住志向が強いこと (図表－120 (1))、居住年数別では居住年数が 10 年以上だと定住志向が強いこと (図表－121 (1))、居住住宅別では持ち家と公営住宅で定住志向が強いこと (図表－122 (1)) などが特徴である。

性別による定住意識を前回と比較すると、女性の定住志向が強くなっている。

【図表－ 118 (1)】性別による定住意識の平均

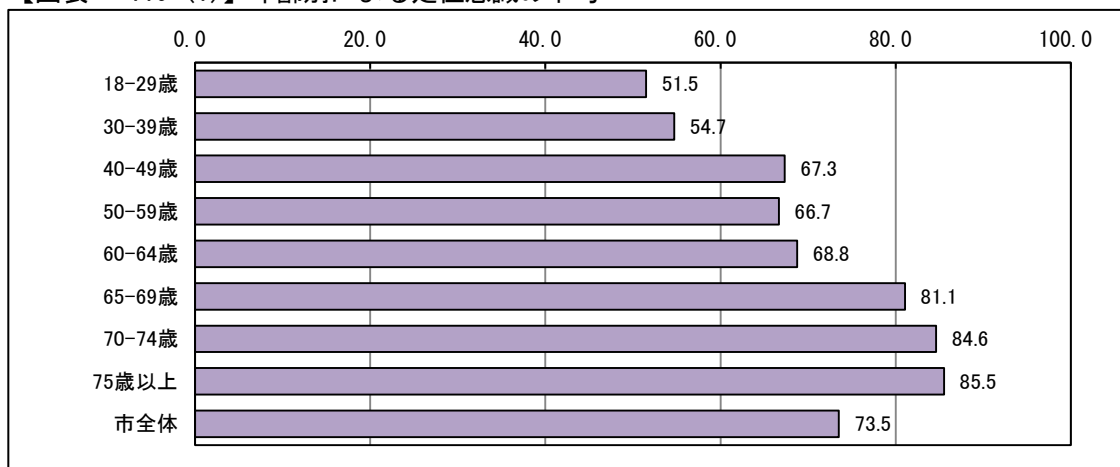


【図表－118 (2)】性別による定住意識の平均 (前回調査)

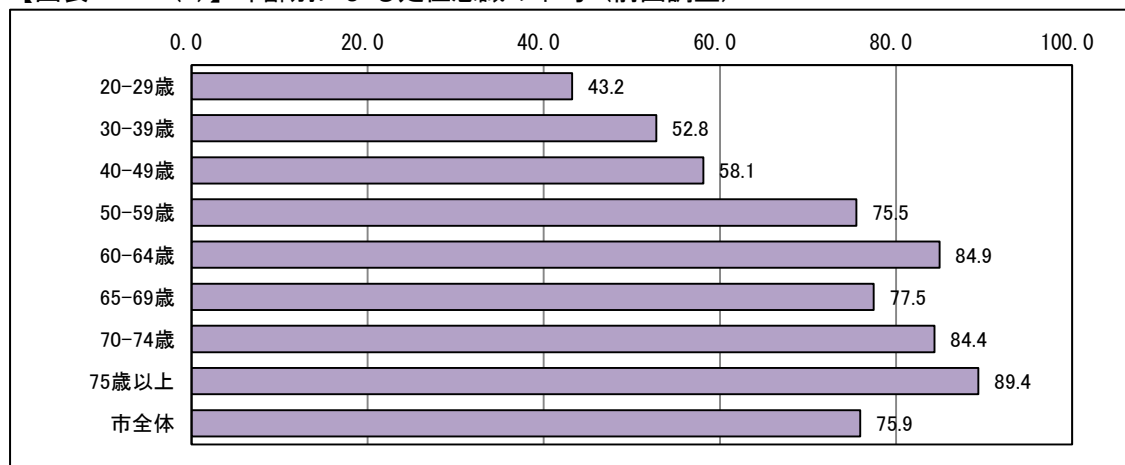


年齢別の定住意識を前回と比較すると、「60～64歳」が大きく下がっている。また、29歳以下の低移住志向が強くなっている。

【図表－ 119 (1)】年齢別による定住意識の平均

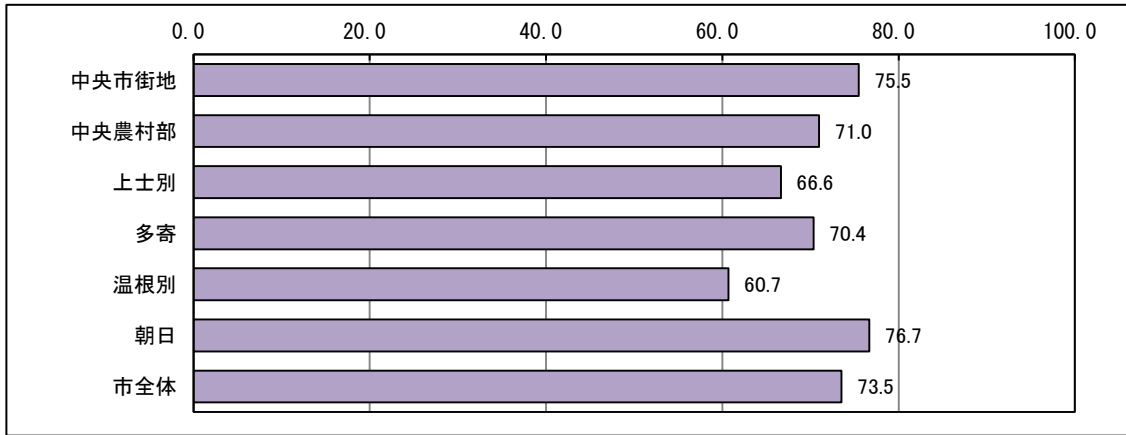


【図表－119 (2)】年齢別による定住意識の平均 (前回調査)

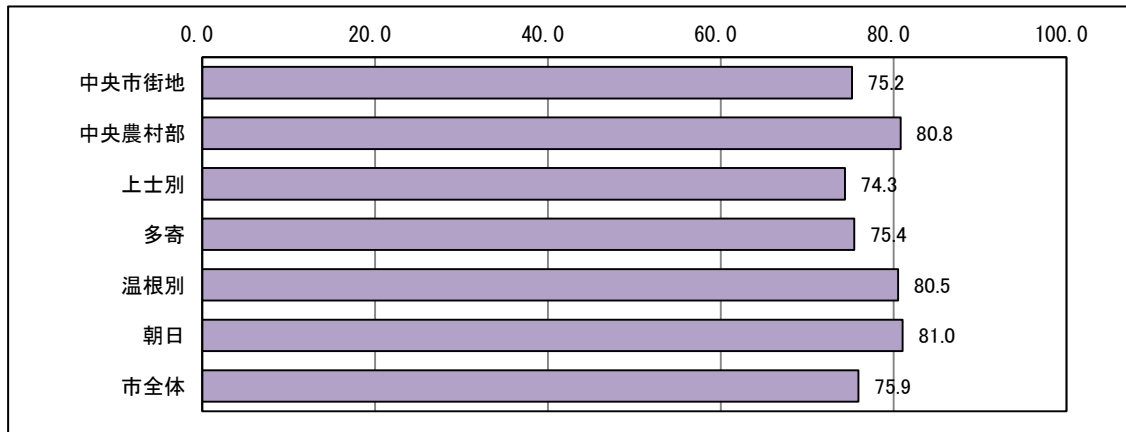


地区別の定住意識を前回と比較すると、「温根別」が 20 ポイント近く下がっており、「中央農村部」も 10 ポイント近く下がっている。

【図表－ 120 (1)】地区別による定住意識の平均

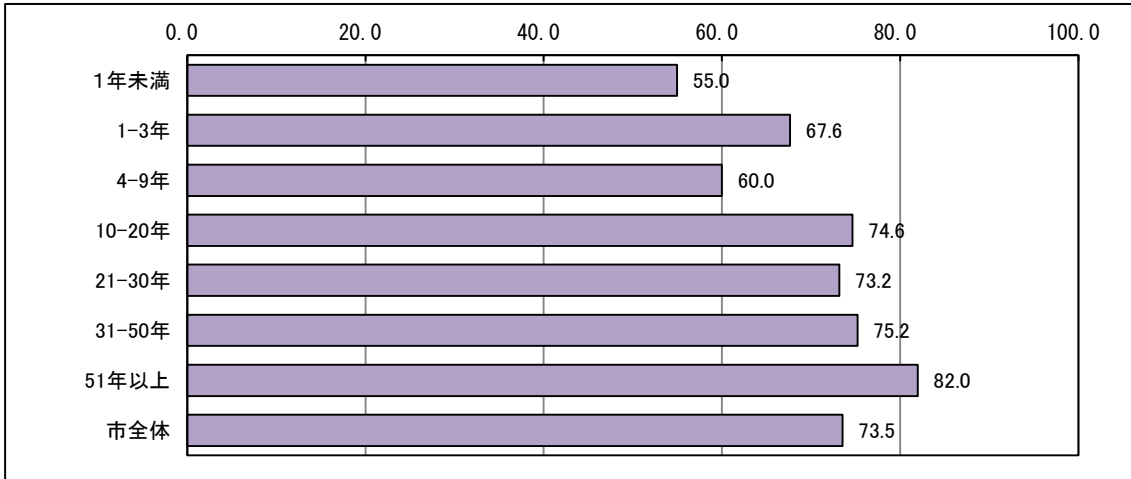


【図表－ 120 (2)】地区別による定住意識の平均（前回調査）

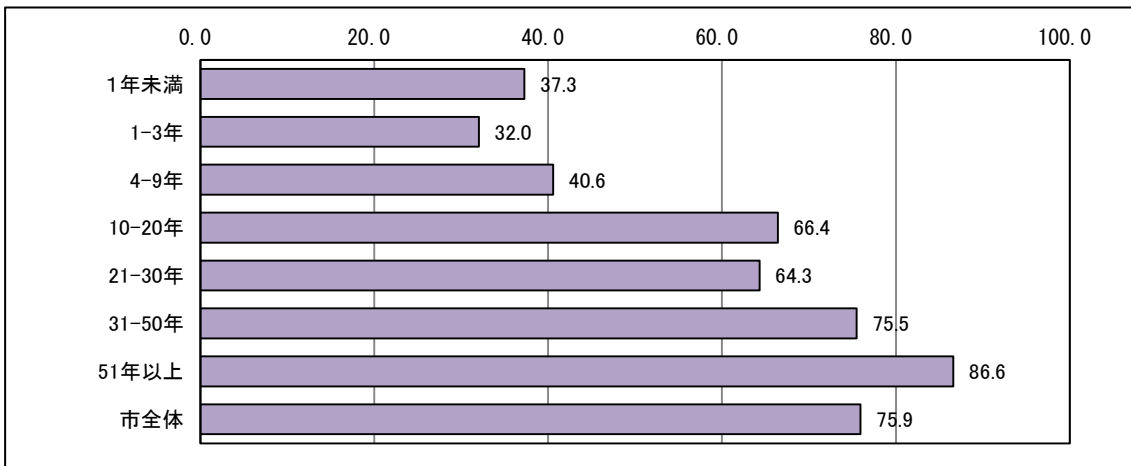


居住年数別の定住意識を前回と比較すると、9年以下の居住志向が大きく上がっている。特に「1-3年」は35.6ポイント上がっている。

【図表ー 121 (1)】 居住年数別による定住意識の平均

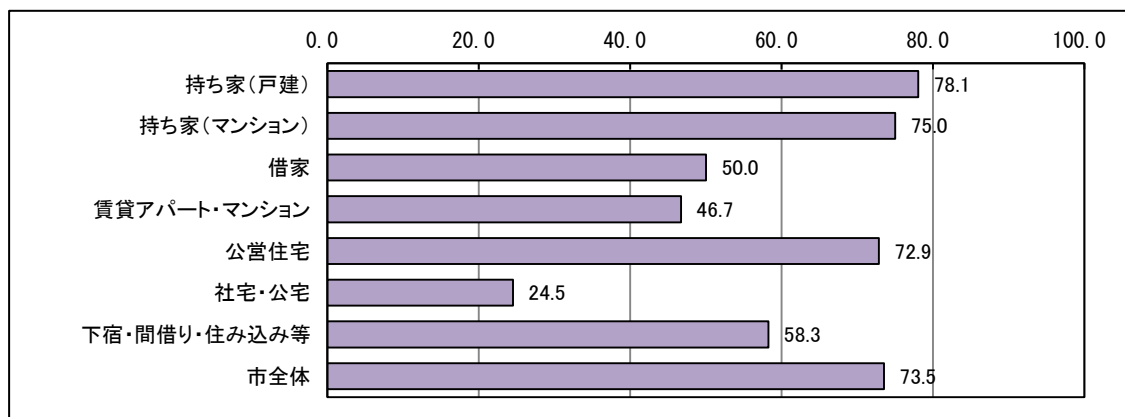


【図表ー121 (2)】 居住年数別による定住意識の平均 (前回)

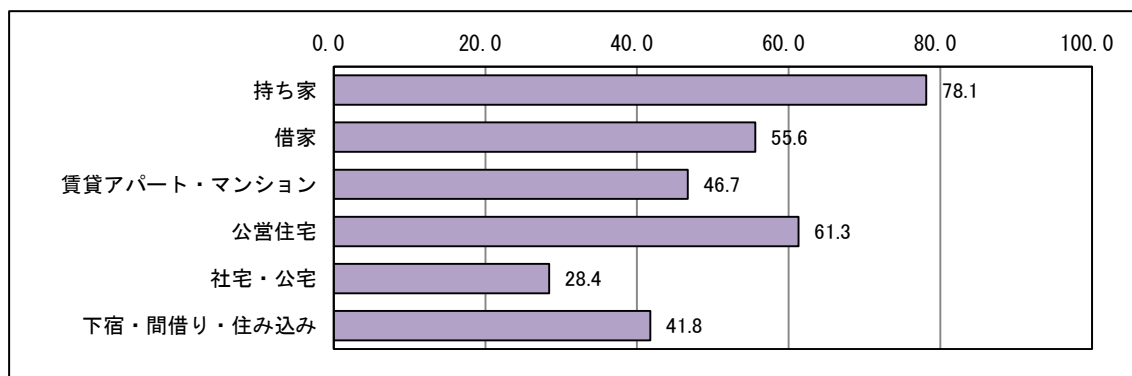


居住住宅別の定住意識を前回と比較すると、「公営住宅」が 11.6 ポイントと大きく上がっている。

【図表－ 122 (1)】居住住宅別による定住意識の平均



【図表－122 (2)】居住住宅別による定住意識の平均 (前回)



※ 平均値は次の重み付けで算出：「今の場所に住み続けたい」=100、「市内の別の場所に移りたい」=67、「市外のどこかに移りたい」=0、「事情があって移らざるを得ない」=33

## 2-7. 土別市の将来像

【問 8】 あなたは、将来どのようなまちにしたいと考えていますか。あなたの考えに、もっとも近い項目を一つだけ選んで、番号を○で囲んでください。

【図表- 123】 回答数（実数）

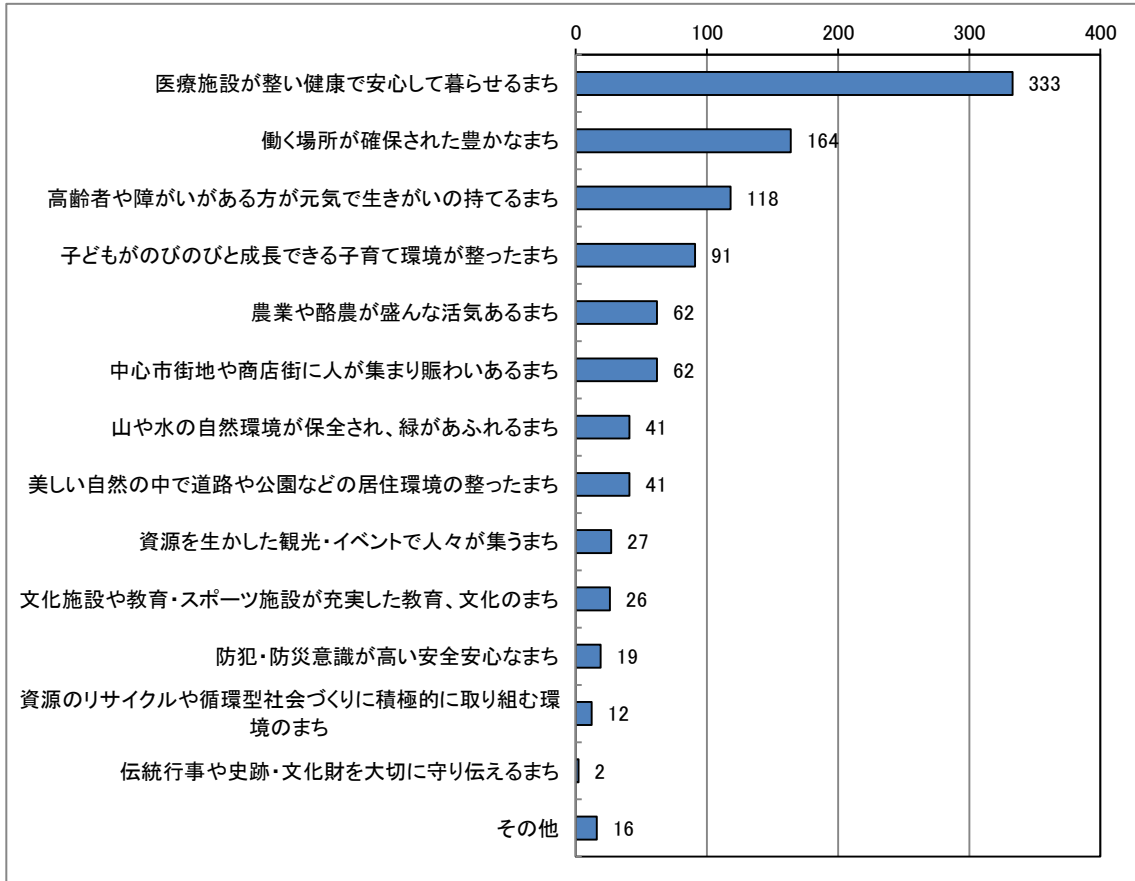
Q8.1	山や水の自然環境が保全され、緑があふれるまち	41
Q8.2	美しい自然の中で道路や公園などの居住環境の整ったまち	41
Q8.3	医療施設が整い健康で安心して暮らせるまち	333
Q8.4	子どもがのびのびと成長できる子育て環境が整ったまち	91
Q8.5	防犯・防災意識が高い安全安心なまち	19
Q8.6	高齢者や障がいがある方が元気で生きがいの持てるまち	118
Q8.7	農業や酪農が盛んな活気あるまち	62
Q8.8	文化施設や教育・スポーツ施設が充実した教育、文化のまち	26
Q8.9	働く場所が確保された豊かなまち	164
Q8.10	中心市街地や商店街に人が集まり賑わいあるまち	62
Q8.11	資源のリサイクルや循環型社会づくりに積極的に取り組む環境のまち	12
Q8.12	伝統行事や史跡・文化財を大切に守り伝えるまち	2
Q8.13	資源を生かした観光・イベントで人々が集うまち	27
Q8.14	その他	16
-	無回答	44

【図表- 124】 構成比（％）

Q8.1	山や水の自然環境が保全され、緑があふれるまち	4.4
Q8.2	美しい自然の中で道路や公園などの居住環境の整ったまち	4.4
Q8.3	医療施設が整い健康で安心して暮らせるまち	36.0
Q8.4	子どもがのびのびと成長できる子育て環境が整ったまち	9.8
Q8.5	防犯・防災意識が高い安全安心なまち	2.1
Q8.6	高齢者や障がいがある方が元気で生きがいの持てるまち	12.8
Q8.7	農業や酪農が盛んな活気あるまち	6.7
Q8.8	文化施設や教育・スポーツ施設が充実した教育、文化のまち	2.8
Q8.9	働く場所が確保された豊かなまち	17.7
Q8.10	中心市街地や商店街に人が集まり賑わいあるまち	6.7
Q8.11	資源のリサイクルや循環型社会づくりに積極的に取り組む環境のまち	1.3
Q8.12	伝統行事や史跡・文化財を大切に守り伝えるまち	0.2
Q8.13	資源を生かした観光・イベントで人々が集うまち	2.9
Q8.14	その他	1.7
-	無回答	4.8



【図表－ 125】 土別市の将来像



## 2-8. 士別市の地域力

【問9】 士別市は、この9年間「地域力を高め、地域力で進めるまちづくり」\*を総合計画の基本理念に掲げ、まちづくりを進めてきました。

「地域力」は、コミュニティ活動はもとより、地域での高齢者の支え合いや子どもたちの見守り、防犯活動、自主防災組織の取り組みなどを推し進める力であり、「市民が主役のまちづくり」に必要な力です。

あなたは、この「地域力」を高め、発揮させていく「まちづくり」について、どのように考えますか。あなたの考えにもっとも近い項目を一つだけ選んで、番号を○で囲んでください。

※「地域力」とは…地域の構成員である市民が、自ら地域の現状を認識し、互いの連携と地域資源の活用のもとに、自律的に地域の課題の解決や地域の価値を創造していく力

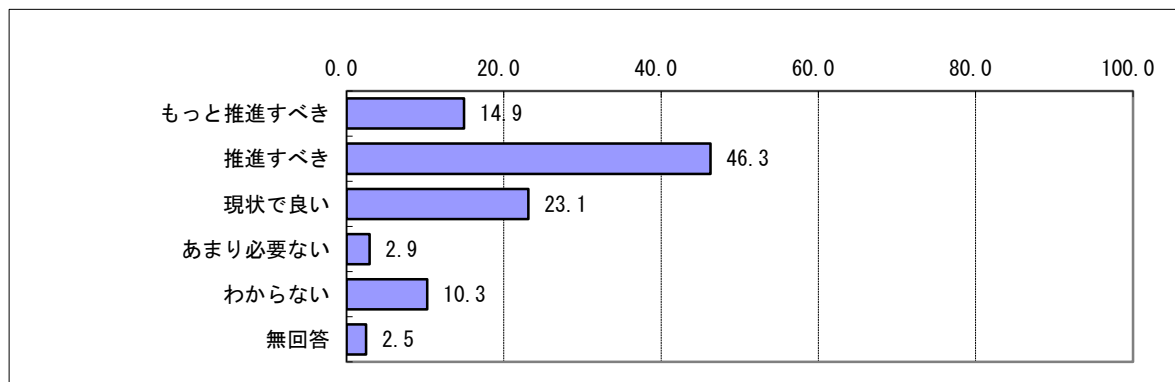
【図表- 126】 回答数 (実数)

		もっと推進すべき	推進すべき	現状で良い	あまり必要ない	わからない	無回答
Q9	士別市の地域力	138	428	214	27	95	23

【図表- 127】 構成比 (%)

		もっと推進すべき	推進すべき	現状で良い	あまり必要ない	わからない	無回答
Q9	士別市の地域力	14.9	46.3	23.1	2.9	10.3	2.5

【図表- 128】 士別市の地域力



地域力を高めるまちづくりを推進すべきとする意見が6割以上を占めている。

## 2-9. 自由にお書きください。

【問 11】 最後に、士別市のまちづくりについて、どのようなことでも構いませんので、自由にアイデアやご意見などをお書きください。

【図表- 129】

テーマ	意見数	構成比 (%)	テーマ別の主な項目のみ記載
1 行政	8	2.7%	市の職員、市民、議員、三者の力/役所の活動に無駄が多すぎる/担当行政職以外から話を聞く機会/仕事の割に高い給料/総合計画より、公共施設計画と職員削減実行計画
2 観光	8	2.7%	駅前の環境整備/士別市に人が集まるような施策/目玉も乏しく、観光誘致にはほど遠い/市街地も活気がなく近隣の町より淋しく感じる/観光マップ(ルート案内等)で街をPR/観光面でソフト面の充実
3 交通機関	4	1.4%	交通費が高い/路線バスの停留所/循環バスが必要/旭川の病院へ行く為の交通手段
4 災害・防災	0	0.0%	
5 合宿	4	1.4%	「合宿」に対して共感できない/スポーツに関する事業などは積極的に行ってほしい/「合宿の里にふさわしい総合体育館」への建て替え
6 子育て	14	4.8%	子供を預けるのに負担を減らし、安心して預ける事が出来る/子連れでも利用できるレストラン/青少年の健全育成の視点/子供の習い事や主婦の趣味を充実できるような施設/子供が遊べるような所/子供を預ける場所が無い/安心して働く場所、若い人達が子供を産んで子育てしやすい士別/子供を産める環境作り/「子育て支援」若いお母さん方が働くため、預ける保育所の増設又保育料の減額
7 教育	3	1.0%	各学校で部活動の種類がことなる/工業大学などを創り、優秀な人材をつくる/教育予算の増額
8 文化	0	0.0%	
9 施設整備	12	4.1%	健康増進の為の温水プール/サンピラパークのような所/高齢者支援住宅(高住)/老人施設を増やしてほしい/プリンスホテル、促進住宅等々利用出来ないものか/不用品をつくるな/新庁舎はコンパクトに/冬でも使える公衆トイレ/数箇所ある施設を統一した場所にする
10 福祉	6	2.0%	社協で行っている移送サービスを以前のように利用できること/老人の介護施設/介護予防や地域支え合い活動など/高齢者のいろいろな負担を少なく/特老施設など働く場所を充実
11 医療	32	10.9%	「医療、サービスの拡充」赤字解消/市立病院の健全化/市立病院は最悪/医療の充実が一番の課題/市民に寄り添った医療体制/医療が十分でないが高齢になったときの不安が大きい/子供の入院や出産等が出来る施設/総合病院が無い/小児科、産婦人科の充実/士別市立病院の待ち時間の短縮/病院の充実(眼科の個人医院が無い)/不熟な医師団/土日や夜間に行ける病院がない/産婦人科、小児科、無いのは若い人達にとってとても残念
12 農林業	6	2.0%	本当に美味しい農作物/農業の活発化/農業、酪農を腰を据えてやるべき/自然、農業のすばらしさを発信/本当の意味でのサフォークランド確立/基幹産業である農業に対する助成
13 商工業	2	0.7%	空き店舗/中心市街地の空き店舗を取り壊すなど再開発
14 就労	9	3.1%	職場が無い/雇用場所の確保や子育てするための環境づくり/職場を若者から奪っている/若い人達が安心して働ける場所/子供が定着できる職場確保/帰ってくる所(仕事)が無い/障がい者雇用の増加/地元での就活の場も無い
15 特産品	1	0.3%	農産物をもっと有効にアピール
16 企業誘致	6	2.0%	企業誘致をして士別に大きな工場を/人が集まる健康的な施設運営の企業への誘致/士別駅前開発として大型商業施設を誘致/トヨタ自動車等の企業誘致/何か新しい企業(産業)誘致/企業誘致で女性の雇用を促進/飲食店の誘致
17 生活環境	5	1.7%	公共料金を引き下げ/バス停のゴミ/犬のおしっこ/紙ゴミの収集日
18 定住・移住	3	1.0%	空き家マップを作成/士別から出て行かなくても良い町/士別に移住しやすいような政策
19 道路整備	9	3.1%	国道、道道、市道の夏の雑草/不通になった道路を修理/道路が未舗装/国道を市街から離してほしい/朝日町の道路/街灯をもう少し増やしてほしい
20 除排雪	8	2.7%	最近の士別市はとても酷い/素晴らしい除雪/市道の流雪溝は利用が少ない/路肩の雪山が大きすぎ/除雪はきれい/市の流雪溝を利用できる人もいて不公平/冬の除雪、排雪の頻度を増やす
21 まちづくり	25	8.5%	羊の町、農産物、合宿の里など魅力的な市/まちづくりを意識させる活動や行動を企画/バラアプリーの公園/街の中を整理すると良い/特色のあるまちづくりを考えていく必要がある/美しい花のある町/士別駅前の開発/特色のあるまちづくりを進めるべき/若い人が楽しく暮らせる町づくり/高齢者が安心して暮らせる町づくり/駅前ビルの跡地や商店街中心の古びた建物の跡の利用/「食」や「観る」ことに着目したまちづくり/恵まれた自然の中で農業や酪農を根幹とした町/西地区の都市計画と地域発展計画/R40 沿いの活性化/駅前を整備
22 市職員	7	2.4%	朝日の役場の方達/市職員の積極的なアイデアの提起/市役所の態度の悪さ/士別の職員がもっと市民のために協力努力してほしい/市職員の大規模削減で市政の維持/横柄な対応が問題/役所の人、目にみえる事績を/市職員が士別のことを思い、愛する心を育てること
23 議員	2	0.7%	市議会議員の人数が多すぎ、議員の給料が高すぎる/議員減らして市立病院の医者を増やせ/市議員達は色々の事に市民に足を運ぶべし/人口減少で市議の定数の見直し
24 税金	4	1.4%	国保税が高い市、また国保税納税も多い市/アンケートのために税金いくら使っているのか/税金の無駄遣いはしないでほしい/税金で無駄なものはこもをつくり、維持にお金をかけないでほしい。優秀な人材が外に出てしまう/税金は少し高い
25 財政	1	0.3%	税収が少ないため、あれこれ理想を語ってもしかたない
26 イベント	10	3.4%	地方からも人が集まって、もう少し活気のある楽しいまち/羊と雲の丘の土地を利用して、いちご、りんご、ぶどう園等をつくり、秋に市民が楽しむ場所/食に関してのイベントを増やす/イベントのマンネリ化/同じ様なイベントが繰り返行われている印象/画一的ではなく、その地区に合った行事/祭りに合わせて大きなイベント等をつくらせて、人が集まるようにする/雪まつり+街中で冬を楽しむイベント/もっとイベントを行う
27 合併	0	0.0%	
28 その他	105	35.7%	人口減少対策に力を入れてほしい/人口減を止める抜本的な行動、施策/市民の意見を大切にしてくれる所がとても良い/住民サービスの充実/若い人が遊ぶ場所及び就職出来る場所がない/若い人達が地元に残れて人口が減らない対策/まちづくりの前に人づくり/受益者負担の原則から施設利用料を上げて、維持管理費や建設費償還費用に充てるべき/駅からすぐ西へ渡れるようにしてほしい/一人暮らしの人が入居できるシェアハウス/アンケートに使う経費と時間を他の有意義な事に使う/スポーツクラブがあれば良い/空き家対策/良い町だけドセンスがない/アンケートがうまく活用されるかが疑問/宗谷線の存続/楽しむ場所が少ない/官民、ともに意識改革が必要/年寄りにこのアンケートの記入は大変難しい/大通りに空き地、空き家が多い/アンケートに鉛筆の同封は不要/利用出来ない物、場所が多くあるので、活用していくべき
合計	294	100.0%	

自由記述のテーマを見ると、その他を除くと医療関係がもっとも多く、ほかに、まちづくりや子育てなどに関するものが多い。自由記述の回答は、主体的に書き込まれた内容なので、市民意識の先鋭的な部分が反映された内容として、施策体系への反映を検討する必要がある。

記述された方の属性は【図表－130】のとおりだが、アンケート回答者の属性構成に比較的近いバランスであるといえる。

【図表－ 130】

性別		
男性	117	43.7%
女性	150	56.0%
無記入	1	0.4%
年齢別		
18～29 歳	13	4.9%
30～39 歳	26	9.7%
40～49 歳	39	14.6%
50～59 歳	49	18.3%
60～64 歳	25	9.3%
65～69 歳	40	14.9%
70～74 歳	25	9.3%
75 歳以上	49	18.3%
無記入	2	0.7%

地区別		
中央	190	70.9%
南士別	13	4.9%
西士別	2	0.7%
北町	6	2.2%
下士別	5	1.9%
武徳	6	2.2%
川西	1	0.4%
中士別	4	1.5%
上士別	7	2.6%
多寄	12	4.5%
温根別	5	1.9%
朝日	11	4.1%
無記入	6	2.2%

### 3 集計結果のまとめ

#### (1) まちのイメージについて (P12~15)

まちのイメージを表現する 15 の視点について質問したところ、「落ち着いたまち」というイメージを肯定する意見が多く、「活気を感じるまち」というイメージを肯定する意見は少なかった。他のイメージについても概ねこの両極の間に位置する形で分布していることが分かった。これを一言で集約すると、“温和で穏やか、静かなまちのイメージだが、反面、活気や変化が少ない地方都市”というイメージになる。

では、このイメージは肯定的に語られるのか（つまり前者にウエイトがあるのか）、それとも否定的に語られるのか（後者にウエイトがあるのか）という点についてであるが、因子分析によれば、快適でのびのびとした明るい感じというイメージが、前者の特性の属性として分類されていることから、市民の意識の中では、“温和で穏やかなまち”のイメージは、どちらかという快適でのびのびとした明るさとなって受け止められており、総体として肯定的に受け止められていると解釈することが可能である。

#### (2) まちの資源について (P16~30)

まちの地域資源 32 項目についてその認知と評価の設問をしたところ、認知については、市街部・農村部で認知の偏り（認知度格差）が小さくかつ両地区合わせた認知者数が多い（認知度）地域資源、即ち認知に普遍性が認められる地域資源として、「天塩川まつり」などのイベント系、「農村景観や農産物」などの農業系、「各種マラソン大会」などのスポーツ系、「羊と雲の丘やめん羊」などのめん羊系が抽出された。

また、評価面からは、「天塩川や天塩川まつり」などの天塩川系、「スポーツ合宿や各種マラソン大会」などのスポーツ系などが全体として高い評価を受けており、両地区における格差も小さいので、評価面でも普遍性が認められる。

これら普遍性のある地域資源を回答者の属性別に詳しく見ると、概ね、男性よりは女性が、65 歳未満よりは 65 歳以上が評価は高い傾向にあるが、居住年数ではそれほど大きな差はみられなかった。地区別ではその地区によって評価のバラつきが見られる。つまり、農村部では農業系が、朝日地区では朝日地区所在地域資源が概して大きな評価となっているなどそれぞれの地域特性にひきつけた評価が見られる結果となった。

### (3) 市民生活やまちづくりに関する満足度評価について (P31~68)

「住まいや居住環境」から「市内でのバスの運行」までの6分野、及び「市民生活やまちづくり全般」に関するそれぞれの「最適化指標」については、主に《I：さらにグレードアップが期待される領域》即ち【イメージアップ重視型プロジェクト】として展開可能な施策領域と、《IV：至急改善が必要な領域》即ち【緊急課題改善型プロジェクト】として展開可能な施策領域の2つのジャンルに、特に注視してみた。また、この2つの大きなジャンルには、それぞれ全市的に推進すべき課題と特定の地区で推進が求められている課題があることも示される結果となった。あらためて全体をまとめると、【図表-131】のようになる。

一方、まちづくり全般について、「住まいや居住環境」から「バスの運行」までを含む6分野それぞれの中で、市民生活やまちづくり全般のレベルアップに効果的に寄与する分野としては、最適化指標I即ち「グレードアップが期待できる施策領域」として「地域活動や社会全般」や「市政への参加や協働全般」、「公共交通機関の利用全般」が挙げられており、最適化指標IVすなわち「至急改善が必要な施策領域」としては特にない結果となった。市民の意識分析によって導かれた結果として、これら1領域の計3分野が、特に市民生活やまちづくり全般のレベルアップを図る上で影響度が高いことが示されたということになる。

そこで、全体を通しての考察として、次のことがいえる。

#### ① 士別市のイメージを一層高くアピールする戦略的手立てとして、最適化指標Iの領域から次のことがいえる。

「地域活動や社会全般」や「市政への参加や協働全般」、「公共交通機関の利用全般」が最も効果的な施策対象領域ではあるが、もう少し具体的に示すとすると、「地域活動や社会全般」を構成する9つの項目の中で特に最適化指標Iの領域に含まれるものとして、「子育てに関する社会活動」「地域活動を支える場や仕組み」が挙げられている。また、「市政への参加や協働全般」を構成する4つの項目の中では、「市民と行政の協働の場や機会」で、「公共交通機関の利用全般」を構成する4つの項目の中では、「利用料金」が挙げられている。

上記で示した領域の項目が、イメージアップや充足度アップに効果的であるということである。これらは、市民にとって士別市民であることの誇りを最も感じる事が出来る領域である。

#### ② 緊急の重点的な改善事項として、最適化指標IVの領域から次のことがいえる。

市民生活やまちづくり全般としては、最適化指標IVの領域の項目がない為、緊急課題改善型プロジェクトに位置づけられるものはない。しかし、項目別にもう少し具体的に示すと、「余暇」の中からは「旅行やレジャー、レクを楽しむ場や機会」が、「消費や家計」からは「家計のゆとり」や「市民税・国民健康保険税など」が示されている。

また、これらのほかにもP68の【図表-97】推進してほしい政策・施策で上位に示されている「医療の充実」や「高齢者の支援」、「除排雪」、「中心市街地の賑わいづくり」などが重点項目であるといえる。

【図表－ 131】

領域	イメージアップ重視型プロジェクトとして展開		緊急課題改善型プロジェクトとして展開	
	全市に適用する項目	地区別に適用する項目	全市に適用する項目	地区別に適用する項目
住まいや居住環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>住宅の住み心地</li> <li>自宅周辺環境の快適性</li> <li>冬期間の外出のしやすさ</li> <li>ゴミ処理リサイクルなどの方法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>住宅の住み心地／市・農・上・多・朝</li> <li>自宅 周辺環境の快適性／市・温・朝</li> <li>自宅周辺環境の安全性／温</li> <li>自宅周辺環境の衛生性／多・朝</li> <li>自宅周辺環境の利便性</li> <li>自宅周辺の除排雪の状況／農・上・多・温</li> <li>冬期間の外出のしやすさ／温</li> <li>ゴミ処理リサイクルなどの方法／市・農・上・多</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>自宅周辺環境の利便性／農・朝</li> </ul>
余暇	<ul style="list-style-type: none"> <li>余暇に費やす時間的なゆとり</li> <li>自宅での気ままな時間や家族との団らん</li> <li>自己の教養・学習を身につける場や機会</li> <li>家庭菜園やガーデニングなどを楽しむ機会</li> <li>自然と親しむ場や機会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>余暇に費やす時間的なゆとり／全地区</li> <li>自宅での気ままな時間や家族との団らん／上・朝</li> <li>友人との交流／多</li> <li>自己の教養・学習を身につける場や機会／市</li> <li>芸術文化を楽しむ場や機会／多・温・朝</li> <li>スポーツを楽しむ場や機会／農・多</li> <li>家庭菜園やガーデニングなどを楽しむ機会／市・農・上・多</li> <li>自然と親しむ場や機会／市・農・上・多・朝</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>旅行やレジャー、レクを楽しむ場や機会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己の教養・学習を身につける場や機会／朝</li> <li>芸術文化を楽しむ場や機会／農・上</li> <li>旅行やレジャー、レクを楽しむ場や機会／市・上</li> </ul>
消費や家計		<ul style="list-style-type: none"> <li>消費に関する相談の場や機会／温</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家計のゆとり</li> <li>市民税・国民健康保険税など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家計のゆとり／市・農・多・温・朝</li> <li>臨時的な出費への備え／上</li> <li>消費に関する相談の場や機会／農・朝</li> <li>電気・ガス・灯油などの料金・価格／多</li> <li>水道・下水道などの公共料金／農・上・朝</li> <li>市民税・国民健康保険税など／市・上・多・温・朝</li> </ul>
市民による地域活動・社会活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育てに関する社会活動</li> <li>地域活動を支える場や仕組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>近所付き合い／農</li> <li>地域の自治会・行政区活動／朝</li> <li>ボランティア活動／市</li> <li>環境に関する社会活動／農</li> <li>福祉に関する社会活動／多</li> <li>子育てに関する社会活動／市・農・上・朝</li> <li>地域活動を支える場や仕組み／市・農・上・多・朝</li> </ul>		
市政への参加や協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民と行政の協働の場や機会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市政に関する情報提供の場や機会／上・多</li> <li>市民と行政の協働の場や機会／市・上・多・温</li> </ul>		
市民生活の足としての市内でのバス運行	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用料金</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運行回数／農・朝</li> <li>運行の時間帯／市</li> <li>運行経路／農</li> <li>利用料金／市・多</li> </ul>		
市民生活やまちづくり全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域活動や社会全般</li> <li>市政への参加や協働全般</li> <li>公共交通機関の利用全般</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>住まいや居住環境全般／多・温・朝</li> <li>余暇全般／上・多</li> <li>地域活動や社会全般／市・農・多・朝</li> <li>市政への参加や協働全般／市・農・上・温・朝</li> <li>公共交通機関の利用全般／市・農・多</li> </ul>		

※注：市＝中央市街地、農＝中央農村部、上＝上士別地区、多＝多寄地区、温＝温根別地区、朝＝朝日地区

#### **(4) 市民サービスの水準と負担について (P69～70)**

市民サービスの水準とそのための市民負担は、自治体財政難の現状においては、二者択一の問題、互いに相容れない対立的な問題として語られることが多い。今回の設問も、一見そのような視点から市民に敢えて選択を迫ったともいえる。しかし、この課題は果たして真に一方を追求するためには他方を犠牲にしなければならない関係にあるのだろうかという点について、市民の回答を見ると、そこには市民の主体的な解決の意思をうかがわせる第三の可能性が示されていることも読み取れる。

市民サービスの水準を維持するために負担増を受け入れるという選択を、過半数の市民は選ばず、これ以上の自己負担を避ける意向が強かった。これは、表面的にはサービス水準の低下を容認する選択であるが、一方で、多くの市民が、これまでのように行政のみに依存するのではなく、市民も協働でこれを担うという意思表示も行っている。このふたつを総合的にみると、行政が行う市民サービスについては自己負担増に結びつかないよう多少の水準の低下も受け入れるが、その低下した分については市民と行政の協働でサービス提供を行うことによって、サービス水準の維持を可能にしたいという意思を示したものと受け止められる。

#### **(5) 実践したい地域活動・社会活動 (P71～73)**

地域活動や社会活動の実際の実践度合いは、特に自治会など地域活動以外のテーマ別社会活動の場合は、一層その度合いが低い。しかし、地域活動や社会活動への関心が潜在的には存在していることも示されている。

#### **(6) 郷土への愛着や定住意思 (P74～83)**

郷土への愛着度は比較的高い値となったが、居住年数が長いほど愛着度が高いというクロス分析の結果は、定住政策との関連を示唆するものである。定住期間が長いほど“住めば都”となることがあらためて立証されたわけであり、定住期間が長くなって郷土愛も強まるという好循環を生み出すための施策が重要である。ただし、前回と比較した結果、居住年数が3年以下の愛着度が大きく上がっているため、移住後すぐに愛着がわくということにも留意が必要である。

また、定住意思に関する属性クロス分析では、「居住住宅」とのクロス分析結果が示すように、「持ち家」であることと定住意思の高さの相関関係が強いということが示されている。このことは、常識的にみて当然のことともいえるが、一方で、士別市の持ち家比率が全道平均と比べてきわめて高いという事実もあり、家を建ててあるいは家を買って定住するという選択の背景には多様な事情があることも想定される。



### **(7) 士別市の将来像 (P84～85)**

士別市の将来像として、「医療施設が整い健康で安心して暮らせるまち」や「働く場所が確保された豊かなまち」、「高齢者や障がいがある方が元気で生きがいの持てるまち」が上位に選ばれている。

### **(8) 士別市の地域力 (P86)**

士別市の地域力を高めるまちづくりを推進すべきとする意見が6割以上を占めており、今後も市民は地域力を高めるまちづくりを推進していくことを望んでいることが示されている。